

# 魚津水族博物館年報

第 29 号

2018/2019

魚津水族博物館

2020 年 8 月

# はじめに

歴史の古い魚津水族館には、富山県内の漁師さんや釣り人など、多くの方々から水生生物の情報をいただきます。平成30年度は南方系の珍しい生物の情報が多くあり、なかでもリュウグウノツカイについては、富山湾では過去最多である10個体（年度当たり）が確認できました。入手したサンプルはデータを分析し、生態解明に近付くよう努めています。また、一般の方々にもご覧いただくために期間限定でリュウグウノツカイやアカナマダ等の展示を行ったところ、多くの方々にご来館いただきました。この際には、外国からの問い合わせやInstagramのフォロワーが急増し、国際的な反響の大きさに驚いております。国内外の皆様が、富山湾の新たな魅力や海洋環境の変化に关心を持っていただけたと思っております。

イベント企画では、2年目を迎えた「うおすいファミリウム」において、富山県出身のトンボ博士として有名な産業技術総合研究所の二橋亮博士を講師に「ヤゴ＆トンボ講座」を行いました。また、魚津市出身の似顔絵師ろーにーさんを講師に「似顔絵＆ねんど教室」も開催しました。その他、「紙アクリアリウム」イベントでは多くの幼児や生徒さんたちが描いたイラストが、富山湾大水槽に泳ぎ出しました。魚津総合公園で行ったチェーンソーアートカービング制作した巨大ガマガエルは、夏の企画展「水・陸・樹のカエル展」の記念写真コーナーに展示しました。

新たな取り組みとして、魚津水族博物館とネットトヨタ富山株式会社がコラボして「水族館バックヤード潜入ツアー」を数回にわたり開催しました。いずれのイベントも好評でたくさんのお客様に参加いただき、官民協働の新たな試みは順調な滑り出しとなりました。

また、英語版ホームページを見やすくし、容易に求める情報へたどり着けるよう修正を行いました。

入館者実績は前年比102.5%と、前年度より多くご来館いただきました。建物の老朽化や少子化などの中で、多くの皆様からの情報提供やご協力が、ご来館のお客様の満足につながっているものと感謝しております。今後も広く情報収集に努めるとともに、展示内容を工夫しながら、正確で楽しい展示や情報発信をしてまいります。「現存最古の水族館」の歴史を継承するために、今後とも皆様のご協力とご参加をよろしくお願い申し上げます。

2020年8月

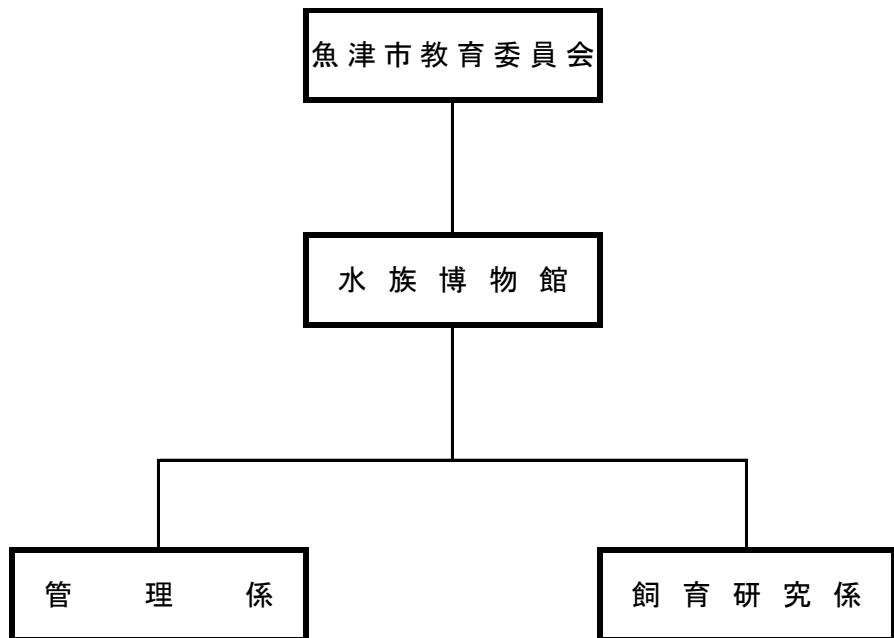
魚津水族博物館 館長 稲村 修

# 目 次

## は じ め に

1. 組 織	1
2. 施 設 の 概 要	2
3. 入館者数の推移	4
4. 主 な 行 事	6
5. 主 な 来 館 者	7
6. コーナー類別水槽及び水量・展示種類	8
7. 主 な 繁 殖 生 物	8
8. コーナー別飼育生物紹介	9
9. 企 画 展	12
夏の企画展 「水・陸・樹のカエル展～トコロ変わればケロ変わる～」	14
春の企画展 「カニカニクラブ」	19
10. 教 育 普 及 活 動	21
11. 出 張 ・ 研 修	30
12. 調査・研究報告	
富山県におけるイシマキガイの新たな生息地の発見	33
富山湾におけるリュウグウノツカイの記録（～2019年3月）	38
2008-2018年に富山湾で新たに記録した魚類	49
富山県魚津市産アカハライモリのフグ毒性	79
13. 広 報 活 動	84
14. ト ピ ッ ク ス	88
15. 修 繕 ・ 工 事	92

## 1. 組 織



### ③職員数

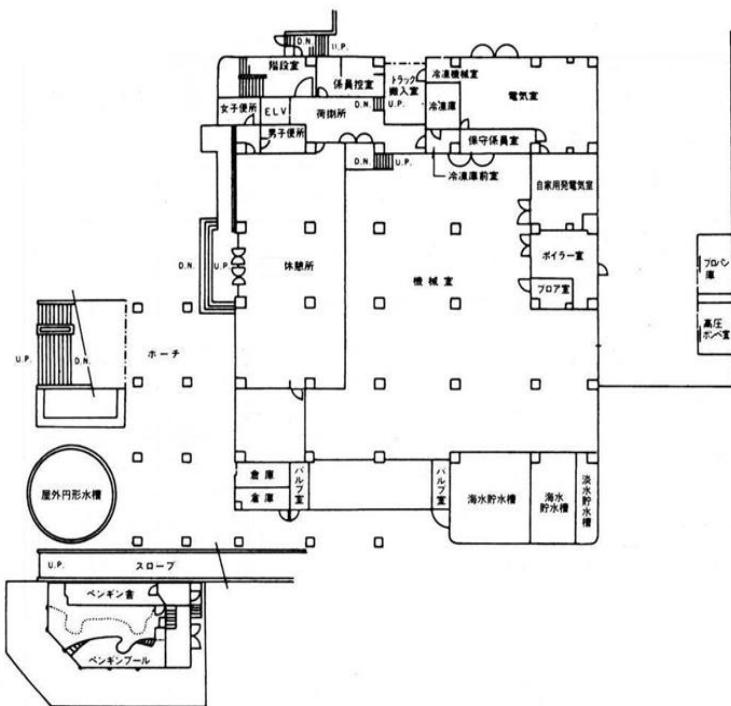
	事務職	技術職	(一財) 魚津市施設管理公社	計	備考
館長		1		1	学芸員1名含む
管理係	2		5	7	
飼育研究係	2	1	9	12	学芸員1名含む
計	4	2	14	20	

## 2. 施設の概要

位置 魚津市三ヶ1390番地  
 建物構造 鉄筋コンクリート造3階建  
 敷地面積 16,864.04m<sup>2</sup> (魚津市総合公園内)

建物面積 1,189.09m<sup>2</sup>  
 床面積 4,170.41m<sup>2</sup>

### 1階・屋外



### 1階

休憩所  
 手洗所  
 荷捌所  
 トランク搬入室  
 係員控室  
 冷凍庫  
 保守係員室  
 機械室  
 電気室  
 自家用発電機室  
 ボイラー室  
 プロア室  
 海水貯水槽  
 淡水貯水槽  
 パルプ室  
 倉庫等

### 屋外施設

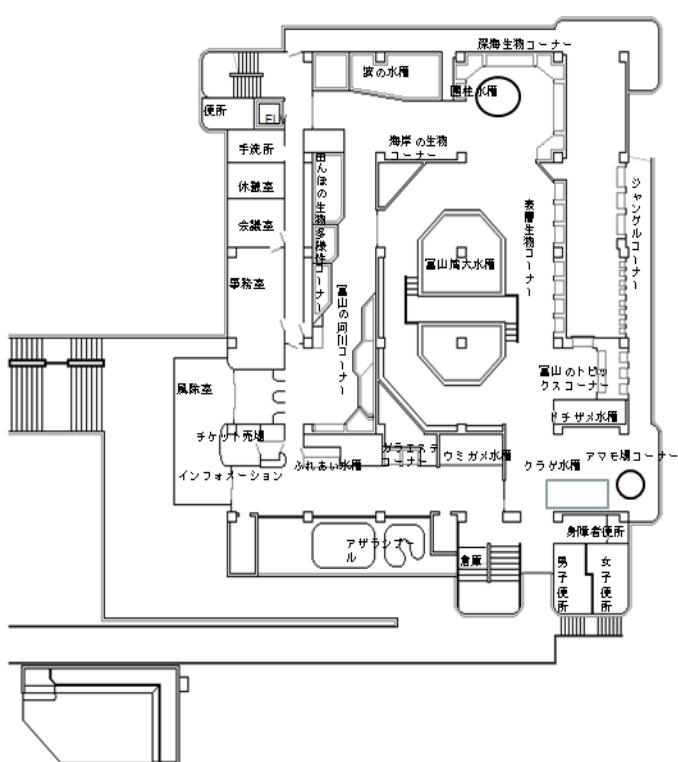
【展示】  
 屋外円形水槽  
 ペンギン舎・プール  
 プロパン庫  
 高圧ポンベ室  
 取水ポンプ室  
 合併処理施設等

屋外施設床面積  
 234.71m<sup>2</sup>

### 1階床面積

1,126.34m<sup>2</sup>

### 2階



### 2階

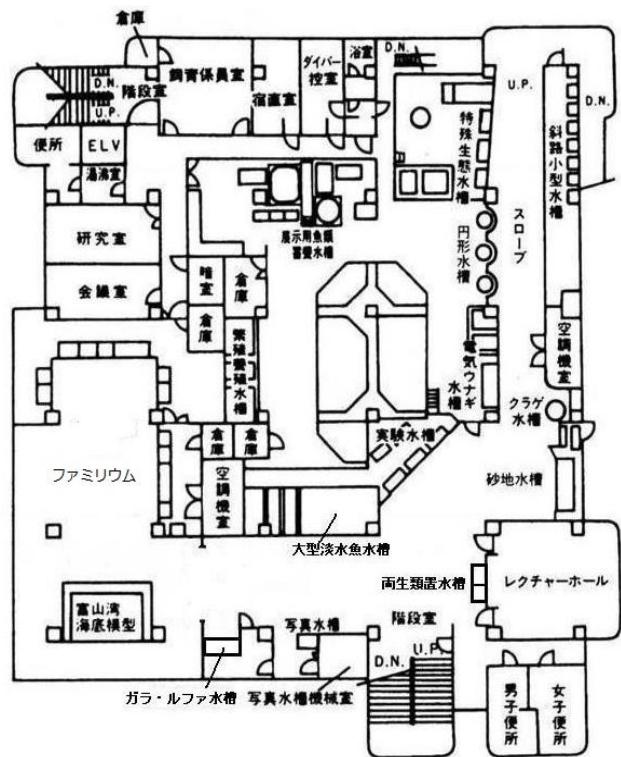
事務室  
 会議室  
 休憩室  
 風除室  
 チケット売場  
 インフォメーション  
 手洗所  
 倉庫等

【展示】  
 富山の河川コーナー  
 田んぼの生物多様性  
 コーナー  
 波の水槽  
 海岸の生物コーナー  
 円柱水槽  
 深海生物コーナー  
 表層生物コーナー  
 富山湾大水槽  
 富山のトピックスコーナー  
 ドチザメ水槽  
 クラゲ水槽  
 アマモ場コーナー  
 ジャングルコーナー  
 ウミガメ水槽  
 ガラエステコーナー  
 ふれあい水槽  
 アザラシプール

### 2階床面積

1,271.07m<sup>2</sup>

3階

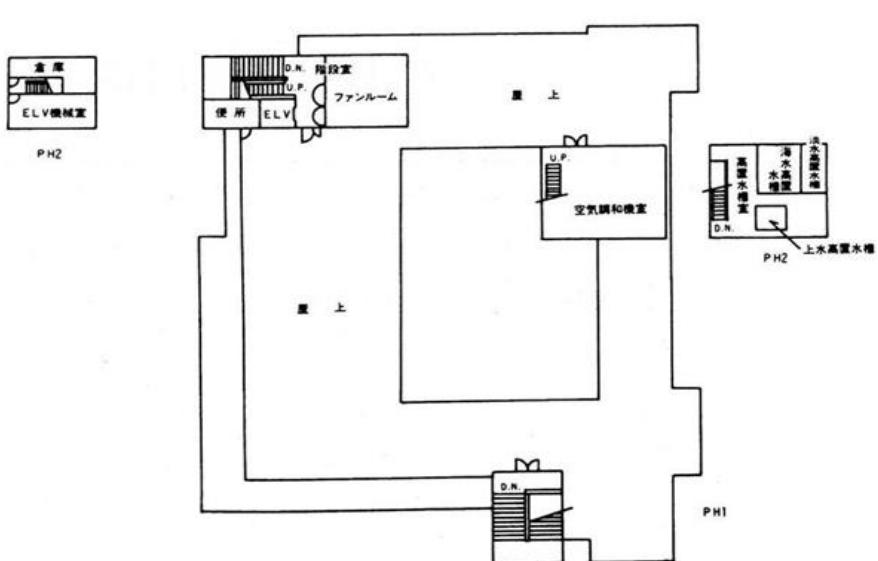


3階

飼育係員室	【展示】
宿直室	サンゴ礁コーナー
ダイバー控室	バックヤードコーナー
研究室	キッズコーナー
会議室	おさかなショー
暗室	ピラルク水槽
レクチャーホール	写真水槽
手洗所	ファミリウム
繁殖養殖水槽	富山湾海底模型
展示用魚類蓄養水槽	
倉庫等	
授乳室	

3階床面積  
1,266.95m<sup>2</sup>

屋上・屋塔



屋塔・屋上

ファンルーム
空気調和機室
高置水槽
エレベーター機械室
屋上
展望台
手洗所等

屋上・屋塔床面積  
271.34m<sup>2</sup>

### 3. 入館者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昭和56年度	73,502	127,222	30,530	31,964	102,813	22,830	27,764	19,668	5,321	3,696	4,312	16,388	466,010
昭和57年度	25,322	62,695	19,319	22,406	67,210	16,066	19,917	14,927	5,488	11,543	2,123	11,981	278,997
昭和58年度	19,915	49,097	19,139	22,175	48,087	14,695	18,746	9,647	5,044	6,330	1,383	7,372	221,630
昭和59年度	15,928	40,835	16,426	17,798	48,027	15,800	16,998	12,435	4,586	4,514	3,063	12,000	208,410
昭和60年度	20,757	44,544	15,062	16,102	43,470	19,312	16,527	13,448	4,143	5,466	2,932	10,208	211,971
昭和61年度	13,908	37,939	13,969	13,652	52,949	17,449	15,879	13,596	4,537	7,020	4,360	8,954	204,212
昭和62年度	15,474	37,707	11,146	14,414	44,639	15,321	12,949	11,650	4,440	9,959	2,873	10,060	190,632
昭和63年度	12,713	36,846	10,633	14,867	46,084	13,617	16,909	12,146	4,434	11,967	4,641	12,166	197,023
平成元年度	17,217	37,435	16,091	17,315	52,240	16,268	17,023	12,474	4,479	7,825	5,260	12,291	215,918
平成2年度	20,101	45,127	14,984	19,202	61,191	19,627	15,035	19,089	5,957	9,174	5,219	13,616	248,322
平成3年度	21,776	47,293	18,562	25,535	63,971	19,428	23,677	20,006	11,757	12,045	5,666	15,024	284,740
平成4年度	21,975	42,230	16,732	22,968	61,180	19,272	21,103	19,745	7,017	12,177	6,874	13,805	265,078
平成5年度	19,826	46,812	16,538	23,330	58,734	17,109	21,177	14,595	6,530	11,549	7,060	13,124	256,384
平成6年度	18,492	44,382	13,730	18,191	49,375	18,173	19,746	14,096	6,072	7,316	6,443	14,016	230,032
平成7年度	19,132	42,567	13,741	20,837	49,062	17,658	19,944	12,978	4,660	11,455	4,960	12,735	229,729
平成8年度	19,833	39,578	13,922	16,496	45,552	17,782	14,414	14,784	3,996	6,507	5,228	13,135	211,227
平成9年度	17,396	33,914	12,676	19,062	47,372	14,318	16,160	12,196	3,629	5,022	5,775	13,286	200,806
平成10年度	15,422	34,269	9,998	16,227	41,317	12,567	13,893	10,621	3,668	5,011	2,921	10,792	176,706
平成11年度	12,609	34,499	8,973	14,252	38,097	10,362	14,222	8,556	2,624	5,742	3,673	8,888	162,497
平成12年度	13,844	27,485	9,246	13,934	34,427	11,346	12,571	9,132	3,591	2,840	3,474	7,361	149,251
平成13年度	14,001	28,103	9,153	13,236	32,753	9,735	11,058	8,366	2,696	3,558	3,756	9,001	145,416

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成14年度	計	16,109	26,953	9,707	11,907	33,770	13,656	13,255	8,385	2,791	4,641	4,289	11,176
	有料	11,530	20,597	7,861	9,040	26,931	10,306	10,101	6,450	2,030	3,433	2,922	7,538
	無料	4,579	6,356	1,846	2,867	6,839	3,350	3,154	1,935	761	1,208	1,367	3,638
平成15年度	計	13,119	24,272	8,877	13,731	33,682	11,624	12,863	9,887	2,695	5,345	4,658	9,572
	有料	8,938	17,221	6,570	9,970	26,606	8,559	9,480	6,500	1,979	3,871	3,035	6,560
	無料	4,181	7,051	2,307	3,761	7,076	3,065	3,383	3,387	716	1,474	1,623	3,012
平成16年度	計	13,351	31,892	10,332	15,991	35,350	12,893	16,620	8,333	3,860	4,705	3,708	9,559
	有料	9,080	21,842	8,020	11,560	27,608	9,340	11,678	5,724	3,016	3,554	2,600	6,548
	無料	4,271	10,050	2,312	4,431	7,742	3,553	4,942	2,609	844	1,151	1,108	3,011
平成17年度	計	13,875	28,667	9,051	14,472	29,510	12,121	14,254	10,771	1,957	3,394	3,511	10,167
	有料	8,548	19,669	6,962	10,360	23,342	8,899	9,732	5,266	1,562	2,426	2,292	6,896
	無料	5,327	8,998	2,089	4,112	6,168	3,222	4,522	5,505	395	968	1,219	3,271
平成18年度	計	12,619	31,783	8,687	15,451	31,050	12,468	15,532	8,247	3,104	5,554	6,754	9,160
	有料	8,158	22,053	6,671	10,704	24,324	8,916	10,273	5,708	2,280	4,063	4,379	6,161
	無料	4,461	9,730	2,016	4,747	6,726	3,552	5,259	2,539	824	1,491	2,375	2,999
平成19年度	計	13,845	30,169	9,942	13,177	27,682	12,600	12,360	6,438	3,746	4,685	3,877	10,401
	有料	8,652	21,415	7,527	9,120	21,698	8,716	7,780	4,389	2,687	3,265	2,588	6,730
	無料	5,193	8,754	2,415	4,057	5,984	3,884	4,580	2,049	1,059	1,420	1,289	3,671
平成20年度	計	11,574	27,124	8,523	12,360	29,829	11,256	12,990	7,830	3,088	4,047	4,811	11,074
	有料	7,433	18,115	6,247	8,373	22,990	8,132	8,337	5,368	2,191	2,931	3,156	7,441
	無料	4,141	9,009	2,276	3,987	6,839	3,124	4,653	2,462	897	1,116	1,655	3,633
平成21年度	計	13,041	30,673	10,327	13,513	29,525	15,869	11,539	7,799	2,508	4,694	4,299	10,630
	有料	10,222	26,881	9,116	11,669	26,378	14,253	8,661	6,481	2,249	4,098	3,669	9,015
	無料	2,819	3,792	1,211	1,844	3,147	1,616	2,878	1,318	259	596	630	1,615
平成22年度	計	10,690	28,095	8,694	11,921	27,027	11,005	12,385	7,595	2,370	3,161	3,840	7,594
	有料	8,868	24,202	7,528	10,408	23,843	9,578	9,759	5,941	2,025	2,780	3,246	6,358
	無料	1,822	3,893	1,166	1,513	3,184	1,427	2,626	1,654	345	381	594	1,236
平成23年度	計	12,033	23,499	8,394	12,017	25,845	10,506	11,276	6,571	2,441	3,554	2,145	8,281
	有料	10,046	20,436	7,310	10,412	23,075	9,309	9,192	5,744	2,127	3,091	1,852	7,124
	無料	1,987	3,063	1,084	1,605	2,770	1,197	2,084	827	314	463	293	1,157
平成24年度	計	12,349	24,279	7,898	14,005	26,655	11,005	11,587	5,809	2,239	1,369	0	23,574
	有料	10,647	21,100	6,708	12,120	23,293	9,194	9,210	4,908	1,875	1,122	0	20,185
	無料	1,702	3,179	1,190	1,885	3,362	1,811	2,377	901	364	247	0	3,389
平成25年度	計	24,509	34,929	13,180	16,767	32,933	14,761	14,532	8,901	3,845	6,207	5,179	11,563
	有料	21,146	30,418	11,186	14,262	29,054	12,522	11,638	7,597	3,065	5,016	4,008	9,642
	無料	3,363	4,511	1,994	2,505	3,879	2,239	2,894	1,304	780	1,191	1,171	1,921
平成26年度	計	11,938	24,031	10,314	11,865	29,526	10,453	12,470	10,240	2,648	5,410	4,889	11,207
	有料	9,802	20,874	8,462	9,703	25,843	8,654	9,921	8,579	2,050	4,071	3,790	9,259
	無料	2,136	3,157	1,852	2,162	3,683	1,799	2,549	1,661	598	1,339	1,999	1,948
平成27年度	計	11,414	24,316	9,905	12,521	26,741	13,903	10,799	10,792	4,954	7,139	6,757	12,911
	有料	9,467	20,897	8,081	10,396	23,368	11,641	8,462	8,973	3,849	5,656	5,216	10,652
	無料	1,947	3,419	1,824	2,125	3,373	2,262	2,337	1,819	1,105	1,483	1,541	2,259
平成28年度	計	11,210	23,142	9,575	14,641	25,721	12,774	13,467	8,495	6,268	6,835	5,653	10,832
	有料	9,186	19,895	7,710	11,981	22,275	10,486	10,407	6,864	4,729	5,364	4,332	8,839
	無料	2,024	3,247	1,865	2,660	3,446	2,288	3,060	1,631	1,539	1,471	1,321	1,993
平成29年度	計	10,682	21,223	10,292	16,113	27,146	12,588	13,867	9,370	4,752	6,951	5,110	10,973
	有料	8,697	18,206	8,326	13,091	23,614	10,362	10,862	7,432	3,478	5,477	3,652	8,720
	無料	1,985	3,017	1,966	3,022	3,532	2,226	3,005	1,938	1,274	1,474	1,458	2,253
平成30年度	計	12,776	22,940	10,069	13,826	25,553	12,818	11,850	8,323	4,842	7,125	8,491	14,202
	有料	10,582	19,616	7,952	10,998	21,750	10,211	8,951	6,271	3,631	5,278	6,486	11,269
	無料	2,194	3,324	2,117	2,828	3,803	2,607	2,899	2,052	1,211	1,847	2,005	2,933

※平成14年4月～平成21年3月まで、土・日・祝日の幼児・小学生・中学生の入館料を無料化した。

※平成21年4月より、市内の中学生以下の全館開館日無料とした。

※平成25年1月7日から3月15日まで館内リニューアル工事のため休館。

## 4. 主な行事

期間	内容
平成30年4月13日（金）～5月7日（日）	大きなオオグチボヤ展示
平成30年4月26日（木）～5月6日（日）	シロエビと写真が撮れる水槽設置
平成30年4月28日（土）～5月6日（日）	第1回魚津水族館人気モノ投票
平成30年4月28日（土）	二橋亮先生のヤゴ&トンボ講座開催
平成30年5月19日（土）	うおすいサポーター活動「ビーチコーミングに行こう」
平成30年6月8日（金）～7月8日（日）	七夕展「スターフィッシュに願いを」
平成30年6月13日（水）	住吉小学校でプールのいきもの救出作戦
平成30年7月8日（日）	チーンソーアートで巨大ガマガエルに挑戦
平成30年7月13日（金）～8月31日（金）	夏の企画展「水・陸・樹のカエル展」
平成30年7月14日（土）～8月16日（木）	紙アクリウム 泳げ！ぼくらがかいたさかな
平成30年7月15日（日）～7月16日（月祝）	ろーにーさんの似顔絵&ねんど教室
平成30年7月16日（日）、17日（月祝）	イクメン昆虫 コオイムシ展示
平成30年7月18日（水）～8月31日（金）	おさかなショーでたてもん祭りをPR
平成30年7月21日（土）～8月19日（日）	夏限定！給餌解説「ゴマトーク」
平成30年7月21日（土）～7月22日（日）	ワークショップ おりがみで「動くカエル」を作ろう
平成30年7月28日（土）～7月29日（日）	ワークショップ ライブペイント
平成30年8月4日（土）～8月5日（日）	ワークショップ 石ころPainting
平成30年8月11日（土）～8月16日（木）	ワークショップ オリジナル缶バッジ作り
平成30年8月11日（土）～8月16日（木）	お盆限定「マツカサウオの発光を見てみよう」
平成30年8月25日（土）	うおすいサポーター活動「釣ろう！展示しよう！」
平成30年8月26日（日）	うおすい×ネットトヨタ富山 魚津水族館バックヤード潜入ツアー
平成30年9月15日（土）～9月17日（月祝）	ワークショップ あつまれ！おねんどキッズ
平成30年9月22日（土）～9月24日（月祝）	ワークショップ 貝がらストラップ作り
平成30年9月23日（日）	パネルシアター「うみのさん太郎」
平成30年9月27日（木）～	水族館スタッフが釣ったアオリイカ展示
平成30年9月30日（日）～10月31日（水）	うおすいハロウィン展
平成30年11月5日（金）～	うおすい生まれ ホテイウオ&ザラビクニンのあかちゃん展示
平成30年11月12日（月）～	水族館スタッフが釣ったマハゼ・マアジの展示
平成30年11月30日（金）～	ブリの赤色斑、対策はじめます
平成30年11月30日（金）～	珍魚 サツオミシマ展示
平成30年12月3日（月）	富山湾大水槽に「ブリ」を搬入
平成30年12月20日（木）	珍魚 イシガキフグ展示
平成30年12月22日（土）～12月24日（月祝）	ワークショップ クリスマス限定缶バッジ作り

平成30年12月24日（月祝）～	今シーズン初！富山湾の深海魚搬入
平成31年1月8日（火）～	縁起の良いタコ（多幸）、マダコを初展示
平成31年1月20日（日）	過去最大リュウグウノツカイと写真撮影会
平成31年1月26日（土）～1月27日（日）	魚津で釣られた発光イカ「スジイカ」の標本展示
平成31年3月7日（木）～	サンゴ礁コーナー プチ・リニューアル
平成31年3月20日（水）～6月2日（日）	企画展「カニカニクラブ」
平成31年3月15日（金）～5月26日（日）	ホタルイカ展示！ホタルイカ写真水槽設置
平成31年3月26日（火）	新潟水族館から深海魚「シロウ」が仲間入り

## 5. 主な来館者

日付	来館者
平成30年5月19日（土）	富山大学理学部生物学科
平成30年6月15日（金）	富山大学理学部生物圏環境科学科
平成30年7月27日（金）	あいの風とやま鉄道株式会社 一行
平成30年8月5日（日）	農商工連携インターンシップ事業参加者 一行
平成30年8月27日（月）	とやま農山漁村インターンシップin松倉 一行
平成30年10月16日（火）	富山県博物館協会 一行
平成30年11月28日（水）	富山大学経済学部

## 6. コーナー類別水槽及び水量・展示種類

	展示コーナー・水槽	水槽数	水量(t)	種類数		展示コーナー・水槽	水槽数	水量(t)	種類数
1	富山の河川コーナー	5	9.5	30	17	サンゴ礁置き水槽	1	0.4	5
2	富山の河川置き水槽	1	0.4	3	18	サンゴ魚類水槽 1～4	4	3.3	34
3	田んぼの生物多様性コーナー	3	14.8	29	19	サンゴ水槽 1～3	3	3.1	30
4	波の水槽	1	15.9	18	20	キッズコーナー	5	0.2	10
5	海岸の生物コーナー	5	0.6	44	21	実験水槽	5	2.7	2
6	円柱水槽	1	4.1	1	22	ピラルク水槽	1	21.0	2
7	深海生物コーナー	6	20.2	25	23	写真水槽	1	2.0	8
8	表層生物コーナー	7	10.5	26	24	ウミガメ水槽	1	9.0	1
9	富山湾大水槽	1	240.0	17	25	ガラエステコーナー	2	2.0	1
10	富山湾のトピックスコーナー	3	1.4	5	26	磯の生物ふれあい水槽	1	0.5	7
11	富山湾のトピックス置き水槽	1	0.4	2	27	アザラシプール	2	40.0	1
12	ドチザメ水槽	1	3.5	1	28	屋外円形水槽	1	20.0	3
13	クラゲ水槽	2	0.1	1	29	ペンギン舎・プール	1	13.5	1
14	アマモ水槽	1	1.0	13	30	うおすいファミリウム	4	1.0	5
15	ジャングルコーナーA 1～3	3	1.0	3		企画展水槽	7	1.0	-
	ジャングルコーナーA 4～11	8	0.8	12					
16	ジャングルコーナーB 1～3	3	0.9	3					
	ジャングルコーナーB 4～8	5	1.0	6		合 計	96	445.8	349

## 7. 主な繁殖生物

門	綱	目	科	種	繁殖個体数
脊椎動物	条鰓	ダツ	メダカ	キタノメダカ	500
		スズキ	クサウオ	ザラビクニン	20
		ダンゴウオ	ホテイウオ	10	
刺胞動物	鉢虫	旗口クラゲ	ミズクラゲ	ミズクラゲ	100

## 8. コーナー別飼育生物紹介

### 1. 富山の河川コーナー

富山県の溪流から河口に生息する淡水魚を展示

No. 1 ヨシノボリ類、ウキゴリ類、ウグイなど

No. 2 トミヨ属淡水型、カワニナ、バイカモなど

No. 3 ニッコウイワナ、ヤマメ

No. 4 アブラハヤ、タカハヤ、アユ、オイカワ、カワムツ、カジカ大卵型など

No. 5 アユカケ、ヌマチチブ、ウグイ、カジカ中卵型、カンキョウカジカ

### 2. 富山の河川置き水槽

アズマヒキガエル、ナガレヒキガエル（交雑種）

アジメドジョウ、ニホンアマガエル（色彩変異）

### 3. 田んぼの生物多様性コーナー

富山の昔ながらの田んぼを再現した展示

No. 1 ミナミアカヒレタビラ、ヤリタナゴ、モツゴ、タモロコ、シマアメンボ、アオダイショウなど

No. 2 イネ、コナギ、キタノメダカ、マルタニシ、トノサマガエル、アカハライモリなど

No. 3 コイ、ギンブナ、ナマズ、ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポンなど

### 4. 波の水槽

造波機により定期的に波がおこる水槽で、富山湾の沿岸にすむ小型魚類を展示

メジナ、メナダ、クロダイ、マアジ、スズメダイ

ホシササノハベラ、カワハギ、ヒガソフグなど

### 5. 海岸の生物コーナー

富山湾の海岸で見られるエビやカニなどの小型生物を展示

アシナガスジエビ、ホンヤドカリ、ウミケムシ、イソギンポ、ナベカ、クロウシノシタなど

### 6. 円柱水槽

ウマヅラハギ

### 7. 深海生物コーナー

富山湾の深海に生息する生き物を展示

No. 1 アヤボラ、ヒダベリイソギンチャク、コイボイソギンチャクの一種

No. 2 ミズダコ、ニッポンヒトデ、エゾヒトデ

No. 3 ノロゲング、アゴゲング、ザラビクニン、

ヤマトコブシカジカ、ベニズワイガニ、

アカモミジヒトデなど

No. 4 タナカゲング、イサゴビクニンなど

No. 5 マダラ、ホテイウオ、ババガレイ、ケガニ、ズワイガニ、オキナマコなど

No. 6 トヤマエビ、モロトゲアカエビ、ゴトウヤドカリなど

### 8. 表層生物コーナー

富山湾の表層域に生息する魚類を展示

No. 1 ウスメバル、ニジカジカなど

No. 2 イズカサゴ、シマゾイ、ウツカリカサゴ、ニジカジカ、クエなど

No. 3 マダイ、チダイ、イネゴチ、ホウボウなど

No. 4 マツカサウオ

No. 5 カサゴ、マゴチ、アオハタなど

No. 6 キュウセン、ホンベラ、ハオコゼ、ギンポ、クジメ、ゴンズイなど

No. 7 フエフキダイ、カゴカキダイ、ミノカサゴ、シマフグなど

### 9. 富山湾大水槽

富山湾の大型魚類を展示

ブリ、カンパチ、ヒラマサ、マダイ、キジハタ、アオハタ、クエ、メジナ、スズキ、ヒラメ、ホシエイ、アカエイなど

### 10. 富山湾のトピックスコーナー

富山湾の「海底」に着目した展示

No. 1 ニホンキサンゴ、アバタカワリギンチャク、オオハネガイなど

No. 2 ホタルイカ、アカムツ、ウミサボテンなど

No. 3 コクチフサカサゴ、ケスジヤドカリなど

### 11. 富山湾のトピックス置き水槽

サラサベッコウタマガイ、ザラビクニン（幼魚）、ハダカカメガイなど

### 12. ドチザメ水槽

ドチザメ

### 13. クラゲ水槽

ミズクラゲ

14. アマモ水槽  
アマモ、ネズミゴチ、ヒメハゼ、スジハゼなど
15. ジャングルコーナー A  
ジャングルの水辺にすむ熱帯魚・両生類・爬虫類を展示
- No. 1 デンキナマズ  
No. 2 ピラニア・ナッテリー  
No. 3 ブルーカンディル  
No. 4 コリドラスなど  
No. 5 ロイヤルプレコ（標本）  
No. 6 バトラクスキャット  
No. 7 ウツボカヅラ  
No. 8 リーフフィッシュ  
No. 9 チランジア  
No. 10 キオビヤドクガエル  
No. 11 プロメリア
16. ジャングルコーナー B  
ジャングルにすむ両生類・爬虫類を展示
- No. 1 オーストラリアハイギョ  
No. 2 コガネオオトカゲ  
No. 3 アカアシガメ  
No. 4 イエアメガエル  
No. 5 トッケイヤモリ  
No. 6 グランディスヒルヤモリ  
No. 7 ミドリニシキヘビ  
No. 8 パンサークマレオン
17. サンゴ礁置き水槽  
モクズショイ、ミノカサゴなど
18. サンゴ礁魚類水槽
- No. 1 ハマクマノミ、ルリスズメダイ、  
マンジュウイシモチ、ナンヨウハギ、  
オトメハゼ、ハタゴイソギンチャクなど
- No. 2 カクレクマノミ、サンゴイソギンチャク
- No. 3 トラウツボ、ホンソメワケベラなど
- No. 4 チンアナゴなど
19. サンゴ水槽  
多様なサンゴの種類や昼と夜の違いを展示
- No. 1 チガイウミアザミ、スジチヂミトサカ、  
ウミキノコ、ムラサキハナヅタなど
- No. 2 ショウガサンゴ、ウスコモンサンゴ、  
クサビライシ、ミドリイシ類、ヒュサンゴ、  
ハナガタサンゴ、コエダナガレハナサンゴ、
- リュウモンサンゴ、キュウリイシなど
- No. 3 マメスナギンチャク、ミズタマサンゴ、  
キクメイシ、クサビライシなど
20. キッズコーナー  
子供が楽しみながら学べる展示
- No. 1 キンギョ（琉金）など  
No. 2 キンギョ（らんちゅう）など  
No. 3 キンギョ（更紗琉金）など  
No. 4 キンギョ（ピンポンパール）など
21. 実験水槽  
魚を調教し、小道具を使って魚の習性を楽しく解説する展示
- No. 1 イシダイの旗引き  
No. 2 ウマヅラハギの輪くぐり  
No. 3 イシダイの魚津水族館クイズ  
No. 4 イシダイの旗引き（予備）  
No. 5 ウマヅラハギの輪くぐり（予備）
22. ピラルク水槽  
ピラルク、ポルカドットステイングレイ
23. 写真水槽  
魚と記念写真が撮れる水槽  
錦鯉
24. ウミガメ水槽  
アオウミガメ
25. ガラエステコーナー  
ガラ・ルファ
26. 磯の生物ふれあい水槽  
磯の生物を直接手で触って観察できる水槽  
イトマキヒトデ、コシダカガンガラ、クボガイ、  
ホンヤドカリなど
27. アザラシプール  
ゴマフアザラシ
28. 屋外円形水槽  
イトウ、シロチョウザメ、ダウリアチョウザメ
29. ペンギン舎・プール  
フンボルトペンギン
30. フアミリウム  
レッドプラティ、イセエビ、アカクラゲ、

夏の企画展「水・陸・樹のカエル展」

アフリカツメガエル、マルメタピオカガエル、ベルツノガエル、モリアオガエル、アカメアマガエル、アズマヒキガエル

春の企画展「カニカニクラブ」

ガザミ、ツノメガニ、サワガニ、クズガニ、キンチャクガニ、モスベスマンジュウガニなど

## 9. 企画展

名称（場所）	内 容	開 催 日
「富山県のさかな」勢ぞろい！ シロエビと写真が 捕れる水槽を設置	ゴールデンウィーク限定展示として『シロエビ（標準和名：シラエビ）』を展示。展示期間中は、「富山湾の王者ブリ」「富山湾の神秘ホタルイカ」「富山湾の宝石シロエビ」の3種が勢ぞろい。水槽はミズクラゲのクライゼル水槽を使用し記念撮影が可能。	平成30年4月26日（木）～5月6日（日）
WANTED！ 色変わりカエル 見つけたらうおす いへ！	毎年、アルビノのオタマジャクシなどの問い合わせがあるため、過去に当館へ持ち込まれた「色変わりカエル」を展示し変わったカエルの募集をした。また、展示水槽横でオリジナルの色変わりカエル缶バッジを限定販売し、当館へ色変わりカエルを持ち込んで頂いた方には、その中から好きなものを1つプレゼントした。	平成30年6月1日（火）～9月30日（土） 場所：田んぼの生物多様性コーナー
七夕展～スタッフ イッシュに願いを ～ うおせいの星に願 い事をしよう！	ムラサキハナヅタで天の川を再現。水槽内には、星を連想させる名前や模様の海水魚を展示。また、抽選で、願いごとを叶える特別体験イベントを実施した。 展示生物：ムラサキハナヅタ、マメスナギンチャク、ヒメキンチャクフグ、ホシモンガラ、アラレキンチャクフグ、パプアントビー、ビスケットスター、ヌノメイトマキヒトデ（計8種約15点） ☆dreams紙 true☆ その願い、うおせいが全力で叶えます！（以下4つの願い事を応募） (1)波の水槽に入って波体験 (2)屋外円形水槽に入ってチョウザメにタッチ (3)ペンギンと一緒に写真を撮りたい (4)アザラシと触れ合いたい 抽選で、4つのうちから1つだけ、願いを叶える。 応募期間：七夕展開催期間中 応募方法：うおせいファミリウム内に設置された応募用紙（dreams紙）を応募箱に投函	平成30年6月8日（金）～平成30年7月8日（日） 願い事実施日 (1)(2) 8月18日（土） (3)(4) 8月19日（日）
夏の企画展 水・陸・樹のカエル 展～トコロ変わ ばケロ変わる～	カエルの仲間は世界に6600種類以上が知られており、様々な環境で生活している。今回の企画展では水中・陸上・樹上の生活場所に適応したカエルの形態や生態を紹介した。	平成30年7月13日（金）～8月31日（金） 場所：うおせいファミリウム

ハロウィン展	うおしファミリウムに「お菓子の家水槽」と「魔女のスープ水槽」が登場。うおしオリジナルのハロウィン記念撮影ができるコーナーとした。また、富山湾大水槽では、恒例のうおしサポートによる水中トンネルの飾りつけと、お食事タイムには「カボチャダイバー」が登場してハロウィンムードを盛り上げた。	平成 30 年 9 月 30 日 (日) ~10 月 31 日 (水) カボチャダイバー 土曜・日曜・祝日 お食事タイムに登場
クリスマス展	うおしファミリウムに貝殻で作った「Shell Tree 水槽」と、サンタにコスプレしたカニ（モクズショイ）と記念撮影ができるコーナーとした。また、富山湾大水槽では、うおしサポートによる水中トンネルの飾りつけと、お食事タイムにトナカイダイバーが登場。富山湾大水槽の一角に巨大なクリスマスリースの特設撮影コーナーでトナカイダイバーとクリスマスマード満点の記念写真が撮影できるコーナーとした。	平成 30 年 11 月 18 日 (日) ~12 月 25 日 (火) トナカイダイバー 土曜・日曜・祝日 お食事タイムに登場
企画展「カニカニクラブ」	春の企画展は、カニの英語名である「Crab」を学校のクラブ活動とかけて、色々なカニの生態をクラブ活動風に楽しく分かりやすく紹介した。	平成 31 年 3 月 20 日 (水) ~令和元年 6 月 2 日 (日)

## 夏の企画展「水・陸・樹のカエル展～トコロ変わればケロ変わる～」

カエルの仲間は、世界に 6600 種以上おり、水中から樹上まで生活場所は様々である。本企画展では、カエルの生息場所に着目し、水中・陸上・樹上とカテゴリーを分け、それぞれの場所に適応したカエルたちの形態や生態を紹介した。

また、入善町出身のプロカーバー折谷孝良氏に記念写真コーナーで使用するガマガエル（ヒキガエル）をモチーフにした作品制作を依頼し、魚津総合公園のテント内でチェーンソーアートカービングの実演を行った。

[期 間] 平成 30 年 7 月 13 日(金)～平成 30 年 8 月 31 日(金)

[場 所] 3階 うおすいアミリウム 企画展コーナー

[展示生物] アカメアマガエル、モリアオガエル、アズマヒキガエル、ベルツノガエル、マルメタピオカガエル、アフリカツメガエル

5 科 6 種 約 15 点

[骨格標本] ヒラタコモリガエル、マルメタピオカガエル、アフリカウシガエル、

ウシガエル、ミツヅノコノハガエル、モリアオガエル、イエアメガエル、テヅカミネコメガエル

6 科 8 種 8 点

[その他] オリジナルカードゲーム

カエルパズル

ケロリンピック～折り紙ガエルで遊ぼう～

木彫りの巨大ガマガエルと写真をとろう！

[グッズ] カエル展缶バッジ 写真版全 9 種、イラスト版全 8 種 各 200 円

[イベント] プロカーバー折谷孝良氏によるチェーンソーアートカービングの実演

「チェーンソーアート☆巨大ガマガエルに挑戦！」

日時：平成 30 年 7 月 8 日(日) 10:00～15:00

場所：魚津水族館横 魚津総合公園 あじさい園横 観覧無料



全景



生体展示



骨格標本



オリジナルカードゲームとケロリンピック



カエルパズル



木登りカエルのオモチャ



チェーンソー・アートカービング実演



「木彫りの巨大ガマガエルと写真を撮ろう！」コーナー

## 春の企画展「カニカニクラブ」

うおすいファミリウムの企画展コーナーにおいて、変わった生態をもつカニに焦点をあてた企画展を開催した。カニの英語名である「Crab」を学校のクラブ活動とかけて、それぞれのカニの生態をクラブ活動風に紹介した。また、カニの鉗脚の形が用途によって異なる点に着目し、色々なカニの鉗脚を標本で展示した。「カニカニパズル」や「カニのはさみを動かしてみよう」などのハンズオン展示や、「カニ籠写真コーナー」など、親子で楽しみながらカニについて学べるような内容とした。



- [期間] 平成 30 年 3 月 20 日 (水) ~ 令和元年 6 月 2 日 (日)
- [場所] 3階 うおすいファミリウム 企画展コーナー
- [展示生物] ガザミ、ツノメガニ、キンチャクガニ、スペスマンジュウガニ  
サワガニ、モクズガニなど 9 種 25 点
- [標本展示] ヒメシオマネキ、ヒシガニ、メガネカラッパ、イシガニなど 18 種 18 点
- [ハンズオン] カニのハサミを動かしてみよう、カニカニパズル、カニの仲間あてゲーム
- [その他] スナガニ観察会紹介、カニ籠写真コーナー、カニの本コーナー
- [グッズ] カニ缶 飼育員が描いたカニのイラストの企画展限定缶バッジ
- [イベント] カニふれあいクラブ 平成 31 年 4 月 13 日 (土)・4 月 14 日 (日)  
木村飼育員がカニの生態や観察ポイントを来館者に説明し、実際に触れ合  
いながらカニの観察を行った。



カニのハサミ標本

カニ籠写真コーナー

カニカニパズル



カニのハサミを動かしてみよう

カニの仲間当てゲーム

カニ缶バッジ



スナガニ観察会紹介パネル

イベント: ふれあいクラブ

## 10. 教育普及活動

名称（場所）	内 容	開 催 日
ホタルイカ発光実験 場所：3階 レクチャーホール	ホタルイカ展示期間中の日曜・祝日限定で、1日5回（ゴールデンウィーク期間中は6回）行った。実施日数は計15日間で、6,285人の参加があった。	平成30年3月19日 (日)～5月21日 (日)期間中の日・祝日
2018年うおすいサポート活動 ビーチコーミングに行こう！	高岡市雨晴海岸で魚津水族館サポートーとビーチコーミングを行った。参加者には、ワークショップ等の水族館活動の材料となる貝殻を拾ってもらった。また、貝殻から種の同定方法や生態などの解説を行った。	平成30年3月19日 (日)～5月21日 (日)期間中の日・祝日 参加人数：7組19名
2018年うおすいサポート活動 ヒスイ海岸へ石ころ拾いに行こう！	朝日町宮崎ヒスイ海岸でワークショップの材料の石ころを拾った。石拾いの後には、あさひふるさと体験推進協議会の扇谷誠氏による「ヒスイの見分け方講座」を行い、ヒスイを探した。	平成30年3月19日 (日)～5月21日 (日)期間中の日・祝日 参加人数：5組12名
スナガニ野外観察会	海岸の砂浜に穴を掘って生活する「スナガニ」の観察会を開催。観察会では巣穴の数を数えた後、スナガニ採集と計測、生態解説を行った。また、アマモ場コーナーで巣穴にかくれるスナガニの展示を行った（展示期間：8月1日～10月31日）。 協賛：公益財団法人環日本海環境協力センター（NPEC） 場所：富山市 岩瀬浜海水浴場（現地集合） 参加費：無料	平成30年6月10日 (日) 平成30年10月13日 (日) 9:00～10:00 親子10組
水族館アウトリーチ活動 水槽クリニック 「魚津のメダカ編」 場所：魚津市内小学校 5年生対象	魚津市内小学校7校のうち、3校に設けた繁殖池で保全している「魚津のメダカ（キタノメダカ）」を5年生の理科教材として調整のうえ各小学校に配布した。 平成30年度のキタノメダカ配布数 220個体	平成30年 4月～5月

中学生インターンシップ 14歳の挑戦 中学生職場体験	魚津市立西部中学校より2名の実習生を受け入れた。飼育係員と餌の準備や水槽掃除、企画展の解説パネルの作成やオリジナル缶バッジ作りやエサやり体験用のエサ詰め作業の体験を行った。	平成30年 7月2日(月)～ 7月6日(金)
お盆限定イベント「マツカサウオの光を見てみよう！」 場所：3階 レクチャーホール	お盆期間中のイベントとして、1日5回の発光実験を行った。実施日数は6日間で、2,102人の参加があった。内容は初代魚津水族館で発光することが発見されたマツカサウオをはじめ、ウミホタル、ウミサボテンの発光を解説後に観察した。	平成30年8月11日(土)～16日(木)
うおしい×ネット富山 魚津水族館バックヤード潜入ツアー	ネットトヨタ富山創業50周年記念事業の一環として、魚津水族館とコラボイベント「魚津水族館バックヤード潜入ツアー」を行った。	平成30年8月26日(日) 13:00～14:30 参加人数：児童10名と保護者
2018年うおしいサポート活動 釣ろう！展示しよう！	「波の水槽」で展示する近海魚を釣り採集した。参加者は各自の釣り方でマアジ、ホンベラ、スズメダイなどを採集。釣り針の「かえし」のない針を使用し、魚を傷つけないように水族館の予備水槽まで運び、「海からどのようにして水族館へ魚が運ばれて展示に至るか」を体験。	平成30年8月25日(土) 10:00～12:00 参加人数：5組12名
ふるさと発見バス事業 魚津三大奇観ホタルイカの話	魚津市内小学校7校の5年生を対象に、魚津三大奇観のひとつホタルイカの生態に関する講義を行った。 会場：魚津埋没林博物館	平成30年9月25日(金)～10月31日(水) 児童数：335名
富山県立滑川高等学校海洋科の高校生が潜水掃除にチャレンジ！	富山県立滑川高等学校海洋科の生徒が潜水実習の一環として、富山湾大水槽に潜水して年末の大掃除を行った。	平成30年12月28日(金) 参加者：生徒6名と飼育員1名で掃除

## うおづ水辺の調査隊

魚津水族館では、平成 23 年度より、生き物好きな小・中学生を対象とした「うおづ水辺の調査隊」活動を行っている。平成 30 年度は、海岸散策を NPEC ((公財) 環日本海環境協力センター) と合同で調査を行い、ビオトープ散策は、魚津市ニヶ別又自然観察池を管理している魚津市環境安全課が主体となって魚津埋没林博物館と合同で行った。

○参加登録：富山県内小学生 11 組 15 名

○ 活動スケジュール

イベント名	開催日	開催場所
河川散策	6 月 30 日 (土)	魚津市三ヶ 三日月池
ビオトープ散策	7 月 21 日 (土)	魚津市ニヶ別又自然観察池
海岸散策	7 月 28 日 (土)	高岡市太田 雨晴海岸
研究発表会	11 月 10 日 (土)	魚津水族館レクチャーホール

※ 隊員は都合の良い日に参加



ビオトープ散策  
別又自然観察池



海岸散策 雨晴海岸



研究発表会

○平成 30 年度の活動を終えて

研究発表会はポスター発表形式で行い、昨年に引き続き甲南大学名誉教授の道之前先生、神戸商業高等学校理科研究部の石川先生に参加いただき、今後の研究についてご助言をいただいた。隊員は、道之前先生のアドバイスに目を輝かせ来年度の意気込みを語っていた。うおづ水辺の調査隊は、水辺の生物をとおして、「自分で課題を見つける（発見）」⇒「調べる（気付き、学び）」⇒「まとめる（発表）」力を養う場として今後も活動を続けていきたい。

① 資料の貸出・譲渡

日付	譲渡・貸出先	内容	
平成 30 年 5 月 1 日	株式会社エルコンパス	フンボルトペンギンヒナの写真 web サイト「ハッピー！！ペンギンアイランド」で使用	貸出
平成 30 年 6 月 13 日	富山テレビ放送	スタートリップ、ホシモンガラの写真 海と日本 PROJECT in 富山県ホームページで使用	貸出
平成 30 年 6 月 30 日	碧南海浜水族館	キタノメダカの写真 2 点 特別展「外来生物」の解説資料で使用	貸出
平成 30 年 7 月 5 日	NPO 法人富山県自然保護協会	平成 30 年 5 月 21 日撮影の魚類調査（富岩運河）写真 資料作成で使用	貸出
平成 30 年 7 月 18 日	株式会社キューズ	マダコの写真 web サイト「こととも」で使用	貸出
平成 30 年 7 月 28 日	株式会社シオン	ゲンゲが泳いでいる映像 テレビ朝日「ふるさとのジュンパン」で使用	貸出
平成 30 年 9 月 12 日	島根大學生物資源科学	ボウズイカ 繁殖戦略解明のための解剖観察 で使用	譲渡
平成 30 年 9 月 16 日	株式会社オフィス論	ダイオウイカの写真 2 点 BS-TBS 「さかなクン大深海スペシャル」で使用	貸出
平成 30 年 9 月 20 日	ネツツトヨタ富山株式会社	ピラルク、マツカサウオ、ミズダコ等の写真 9 点 うおすい×ネツツ バックヤード潜入ツアーの告知及び募集で使用	貸出
平成 30 年 9 月 21 日	株式会社正進社	富山湾大水槽の写真 中学校図書教材「富山県版 技術・家庭ハンドノート」で使用	貸出
平成 30 年 10 月 1 日	合資会社 collective	カジカ、ゴマフアザラシの写真 とやま観光推進機構「TOYAMA DELICIOUS」ガイドブックと web で使用	貸出

平成 30 年 10 月 1 日	株式会社ウ一ケ	ホタルイカの写真 2 点 Web サイト「ウ一ケのごはんが生まれる環境」で使用	貸出
平成 30 年 10 月 24 日	TBS 放送センター	ダイオウイカの写真 TBS テレビ「東大王」で使用	貸出
平成 30 年 12 月 1 日	中日新聞社	ウマヅラハギの写真 中日こどもウィークリーで使用	貸出
平成 30 年 12 月 14 日	TBS ビジョン	クエの映像 ベトナム国営放送「日本の色」で使用	貸出
平成 30 年 12 月 15 日	富山県観光・交通・地域振興局観光振興室	オオグチボヤの写真 「世界で最も美しい富山湾」デジタルコンテンツで使用	貸出
平成 30 年 12 月 20 日	株式会社ズームエンタープライズ	スナガニの写真 テレビ朝日「くりいむ vs 林修！ クイズサバイバー！」で使用	貸出
平成 31 年 1 月 2 日	富山テレビ事業株式会社	アザラシの写真 4 点 富山テレビ「全力で開運いかが deSHOW」で使用	貸出
平成 31 年 1 月 8 日	株式会社童夢	カエルの写真 3 点 書籍「科学のなぜ？に答えるお話 366」で使用	貸出
平成 31 年 1 月 23 日	株式会社まぐまぐ	富山湾大水槽内トンネル、マツカサウオの写真 web マガジン「TRiP EDiTOr」で使用	貸出
平成 31 年 1 月 23 日	株式会社扶桑社	ブリ、ホタルイカ、ウマヅラハギ等の写真 4 点 書籍「クラゲ水族館 BOOK」で使用	貸出
平成 31 年 1 月 28 日	株式会社チューリップテレビ	イシダイおさかなショーの写真 チューリップテレビ「ニッポンど真ん中！」で使用	貸出
平成 31 年 1 月 31 日	富山経済新聞	リュウグウノツカイの写真 富山経済新聞で使用	貸出

平成 31 年 2 月 1 日	株式会社富山県人社	リュウグウノツカイの写真 月刊誌「富山県人」2 月号で使用	貸出
平成 31 年 2 月 4 日	石川印刷株式会社	ホタルイカの写真 フリーペーパー「F のさかな」で 使用	貸出
平成 31 年 2 月 6 日	時事通信社社会部	リュウグウノツカイの写真 1 点 を使用	貸出
平成 31 年 2 月 7 日	NHK 富山放送局	リュウグウノツカイの写真 NHK ニュースで使用	貸出
平成 31 年 2 月 7 日	株式会社チューリップテレビ	リュウグウノツカイの写真 チューリップテレビ「N 6」で 使用	貸出
平成 31 年 2 月 8 日	株式会社扶桑社	クラゲ、魚津水族館外観の写真 書籍「クラゲ水族館 BOOK」で 使用	貸出
平成 31 年 2 月 14 日	大悠社	初代魚津水族館の写真 新学社「PIKARI」で使用	貸出
平成 31 年 2 月 16 日	城崎マリンワールド	ホタルイカの写真 ホタルイカの展示解説用パネル で使用	貸出
平成 31 年 2 月 26 日	AFP 通信社写真部	リュウグウノツカイの写真 AFP 通信社配信ネットワークで 使用	貸出
平成 31 年 3 月 5 日	株式会社テレビ朝日	オオグチボヤの写真 テレビ朝日「10 万円ができるか な」で使用	貸出
平成 31 年 3 月 5 日	株式会社童夢	ダイオウイカの写真 書籍「世界の UMA 未確認生物 データブック」で使用	貸出
平成 31 年 3 月 6 日	毎日新聞富山支局	ホタルイカの写真 毎日新聞紙面、web 記事で使用	貸出
平成 31 年 3 月 16 日	名古屋港水族館	ブリの写真 春の特別展「すし展」で使用	貸出

平成 31 年 3 月 19 日	TBS テレビ	ホタルイカの写真 TBS テレビ「N スタ」で使用	貸出
平成 31 年 3 月 22 日	TBS テレビ	ウマズラハギショ、リュグウノ ツカイの映像 TBS テレビ「N スタ」で使用	貸出
平成 31 年 3 月 23 日	龍馬のうまれたまち 記念館	タナカゲンゲの写真 高知サマサマ CCRC センターオ リジナルガイドブック、幕末明治 土佐学講座資料で使用	貸出

## ②資料の借用・受贈

なし

### ③ 講師・委員等の派遣

開催日	派遣先	場 所	担当者
平成30年4月10日(火)	アイ・シー・ネット株式会社	魚津水族館	稻村 修
平成30年4月25日(水)	富山県博物館協会	富山県美術館	稻村 修
平成30年5月23日(水)	美しい富山湾クラブ	富山大学	稻村 修
平成30年5月24日(木)、6月7日(木)	理学部授業科目「海洋科学」	富山大学	稻村 修
平成30年6月5日(火)	3年生科学「科学の達人講座『昆虫』」	滑川市立東部小学校	不破 光大
平成30年6月13日(水)	3年生「こん虫を育てよう～こん虫の育ち方～」 5年生「魚のたん生～水の中の小さな生物～」	魚津市立住吉小学校	不破 光大
平成30年6月14日(木)	海と日本 PROJECT in 富山県実行委員会	富山テレビ放送株式会社	稻村 修
平成30年6月25日(月)	富山県報道責任者会勉強会	魚津水族館	稻村 修
平成30年6月25日(月)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成30年7月6日(金)	北日本放送株式会社	北日本放送「ワンエフ」	稻村 修
平成30年7月9日(月)	(公財)とやま国際センター日本海学推進機構 富山湾の魅力体験親子教室	富山高等専門学校臨海実習場 若潮丸船内	稻村 修 木村 知晴
平成30年7月11日(水)	朝日町立あさひ野小学校 3年生「田んぼの生き物調べ」	朝日町殿町地内 小山合川	齋藤 真里 西馬 和沙
平成30年7月20日(金)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成30年7月21日(土)	魚津市環境安全課	別又自然観察池	不破 光大
平成30年7月25日(水)	美しい富山湾クラブ	富山大学	稻村 修
平成30年7月28日(土)	富山県自然保護協会	サンシップとやま	不破 光大

平成 30 年 8 月 4 日 (土)、5 日 (日)	(公財)とやま国際センター日本海学推進機構 富山湾の魅力体験親子教室	富山高等専門学校臨海 実習場 若潮丸船内	稻村 修 木村 知晴
平成 30 年 8 月 7 日 (火)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	タワー111 ビル	稻村 修
平成 30 年 8 月 20 日 (月)	5 年生理科「魚のたん生」 6 年生総合「上中島みらい水族館」	魚津市立上中島小学校	不破 光大
平成 30 年 8 月 24 日 (金)	魚津警察署 親子見学	魚津水族館	稻村 修
平成 30 年 8 月 30 日 (木)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成 30 年 8 月 31 日 (金)	富山テレビ放送株式会社 水みらいプロジェクト 学校水族館	滑川市立西部小学校	不破 光大 齋藤 真里
平成 30 年 9 月 6 日 (木)	富山テレビ放送株式会社 水みらいプロジェクト 学校水族館	富山市立鵜坂小学校	不破 光大 齋藤 真里
平成 30 年 9 月 14 日 (金)	教育講演会	南砺市立福光東部小学校	稻村 修
平成 30 年 9 月 15 日～ 17 日、22 日～24 日	富山大学 海底湧水調査	魚津市青島周辺海域	木村 知晴
平成 30 年 9 月 21 日 (金)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成 30 年 9 月 26 日 (水)	富山テレビ放送株式会社 水みらいプロジェクト 学校水族館	滑川市立東加積小学校	不破 光大 齋藤 真里
平成 30 年 9 月 27 日 (木)	富山テレビ放送株式会社 水みらいプロジェクト 学校水族館	滑川市立西部小学校	不破 光大 齋藤 真里

平成30年10月2日(火)	5年生理科「魚のたん生」	魚津市立住吉小学校	不破 光大
平成30年10月9日(火)	アイ・シー・ネット株式会社	魚津水族館	不破 光大
平成30年10月15日(月)	滑川市・中新川郡プロック小学校教育研究会	魚津水族館	不破 光大
平成30年10月16日(火)	富山県博物館協会	魚津水族館	不破 光大
平成30年10月19日(金)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成30年10月26日(金)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	魚津水族館	稻村 修
平成30年11月1日(木)	富山県教育センター協議会第3回研究会	富山県総合教育センター	稻村 修
平成30年11月16日(金)	富山県社会保険委員会連合会	ボルファートとやま	稻村 修
平成30年11月17日(土)	魚津歴史同好会 魚津市立図書館	魚津市立図書館	稻村 修
平成30年11月22日(木)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成30年11月26日(月)	(一財)魚津市施設管理公社	ミラージュハウス	稻村 修
平成30年12月3日(月)	INS(岩手ネットワークシステム) 海洋と社会研究会	釜石ベイシティホテル	稻村 修
平成30年12月9日(日)	(一財)魚津市施設管理公社	ミラージュハウス	稻村 修
平成30年12月18日(火)	北日本新聞社高岡支社 陸養プロジェクト	射水市立放生津小学校 射水市立堀岡小学校	不破 光大
平成30年12月26日(水)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成31年1月15日(火)	日本動物園水族館協会	富山市ファミリーパーク	不破 光大
平成31年1月25日(金)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成31年1月30日(水)	美しい富山湾クラブ	富山大学	稻村 修

平成31年2月6日(水)	1年生「13歳の一歩」	富山市立和合中学校	稻村 修
平成31年2月13日(水)	魚津商工会議所 20歳の挑戦事業	魚津商工会議所ビル	不破 光大
平成31年2月15日(金)	入善町教育委員会 「杉沢の沢スギ」環境 整備検討委員会	入善町役場	稻村 修
平成31年2月19日(火)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	サンシップとやま	稻村 修
平成31年2月26日(火)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	富山市科学博物館	稻村 修
平成31年2月27日(水)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成31年3月9日(土)	株式会社石崎建材社 第56回創立記念式典	株式会社石崎建材社	稻村 修
平成31年3月13日(水)	氷見市教育委員会 イタセンパラ保護活用 指導委員会	氷見市役所	稻村 修
平成31年3月18日(月)	(一社)立山黒部ジオパーク協会	株式会社リレーションズ富山営業所	稻村 修
平成31年3月20日(水)	富山県博物館協会	高岡文化ホール	稻村 修

#### ④実習生の受け入れ

期 間	対象者	所 属	内 容
平成30年7月21日～ 8月3日	林 達也	名古屋コミュニケーションアート専門学校	飼育実習
平成30年8月11日～ 19日	柴田 大志	東京農業大学	学芸員実習
平成30年9月4日	高橋 昌基 米山 美穂 大久保 吉平	富山短期大学 金沢学院大学 青山学院大学	インターナシップ (就業体験) 地域協働 課定住応援室

## 11. 出張・研修

目的・日程	担当園館等	参加者
平成30年度第1回公益社団法人日本動物園 水族館協会中部ブロック園館長会議 (平成30年4月19日～20日)	愛知県 南知多ビーチランド	石川 勝弘
平成30年度公益社団法人日本動物園 水族館協会通常総会 (平成30年5月16日～18日)	鹿児島県 かごしま水族館	稻村 修
第117回公益社団法人日本動物園水族館協会 中部ブロック飼育技術者研修会 (平成30年11月7日～8日)	愛知県 碧南海浜水族館	不破 光大 西馬 和沙
公益社団法人日本動物園水族館協会 第63回水族館技術者研究会 (平成30年11月26日～27日)	石川県 のとじま臨海公園 水族館	不破 光大 齋藤 真里 西馬 和沙 木村 知晴 泉 拓朗
日本鯨類研究協議会 (JACRE) 第2回水族館研究会 (平成31年2月27日～28日)	東京都 大田区民ホール アブリコ	不破 光大

## 12. 調査・研究報告

### 富山県におけるイシマキガイの新たな生息地の発見

不破光大・木村知晴・稻村 修・齋藤真里（魚津水族館）

Discovery of the new habitat of the *Clithon retropictus*, in Toyama Prefecture, Japan

Mitsuhiko FUWA, Tomoharu KIMURA, Osamu INAMURA and Mari SAITO  
Uozu Aquarium

#### はじめに

イシマキガイはアオブネガイ科に属する巻貝で、成長すると殻径は 15~20mm になる。殻はほぼ球形で、殻頂部が侵食されていることが多い。殻の表面は微細な三角斑が密にある（写真 1）。付着藻類を食べる傾向が強く、岩に吸着する能力が高いため、河川の瀬で付着藻類の多い岩場に見られる。礫やコンクリート等に直径 1~2 mm 程度の卵嚢（写真 2）を産み付け、孵化した幼生は海へ流下し、汽水域で変態して幼貝になり、徐々に汽水域から淡水域へと遡上し成貝になる（原口・富山、2018）。日本海側では、新潟県（佐渡島を含む）の三面川が北限とされ、主に汽水域から純淡水域の下流域の岩礫上に生息する（新潟県、2001）。富山県では、1982 年に富山市岩瀬浜で打ち上げ貝としての記録がある（布村・宮元、1994）が、生貝は魚津市の角川でのみ確認されている（高山ほか、2008）。

今回、魚津水族館で行った淡水魚類の調査時に、イシマキガイの新たな生息地を 8 か所発見したので報告する。

#### 調査方法

調査期間は 2008 年から 2018 年までの 10 年間で、富山県内の計 33 か所の河川や用水路を対象とした。本種は目視で発見が容易であるため、捕

獲は主に素手で行った。



写真 1：イシマキガイの成貝



写真 2：白い粒がイシマキガイの卵嚢

#### 結果と考察

図 1 と表 1 にイシマキガイが確認された地点と、確認できなかった地点の記録を記した。表 1 の採集年月日は連続する 8 桁の数字で示した（20180101 は 2018 年 1 月 1 日を表す）。今回、

新たに発見された生息地は 33 か所中の 8 か所で、富山県西部の氷見市で 6 か所（写真 4～9）、県東部の富山市で 1 か所（写真 10）、滑川市 1 か所（写真 11）であった。発見された生息地は緩やかに流れる浅い河川や用水路の下流部または河口部であった。生息地の環境は比較的開けたところで、河床の転石や礫に日光が注いでおり、多くのイシマキガイが転石の上面や側面で見られた（写真 3）。確認された生息地の河口部は、流れがほとんどない緩やかな汽水域を呈していた。一般的に、富山県西部は平野部が多く下流域や河口域は緩やかに流れる河川が多い一方で、県東部は急流河川が多いことから河口域も流れが強い河川がほとんどである。イシマキガイの生息地が富山県西部に偏っているのは、県西部は勾配の緩やかな地形で河口部に汽水域が発達しているのに対して、県東部は急流河川が多く汽水域が少ないため幼貝の着底に適していないと推測された。また、小原・富山（2000）は、イシマキガイは岩表の付着藻類を食べている傾向が強いことから、泥地を好まず岩表に多いことを報告しており、転石や礫が存在することが着底後の成長に欠かせないことを示している。県西部の調査地点において生息が確認できなかった下流域や河口域は河床に転石が見られず泥地であったことが生息に不適な環境と推測できる。これらのことから、幼貝が着底できる発達した汽水域があることと、成長に欠かせない適度な転石帶や礫等などの生息環境が揃っていることが条件であることが確認された。

今回のイシマキガイの記録は、淡水魚類の調査時に確認されたものであり、イシマキガイのサイズ等については調べていない。今後、イシマキガイに焦点を当てた調査をすることで、新たな生息地点や生態などに関する知見が得られる可能性が高い。イシマキガイはレッドデータブックとやま 2012（富山県、2012）では情報不足とされているが、近隣の福井県・石川県・新潟県では準絶滅危惧

に指定されている。富山県におけるより詳しいイシマキガイの生息調査を行い、富山県内のイシマキガイの生息状況を把握したいと考えている。



写真 3：岩表につく多数のイシマキガイ

### 謝辞

本報告に当たり、イシマキガイの新潟市における状況について貴重な情報をご提供いただいた新潟市水族館マリンピア日本海の野村卓之氏に感謝の意を表します。

### 参考文献

- 原口由子・富山清升, 2018. 鹿児島市五位野川におけるマーキング法によるイシマキガイの生態の研究. *Nature of Kagoshima*. 44:145-150.
- 新潟県, 2001. 陸・淡水産貝類, 淡水産プラナリア類. レッドデータブックにいがた—新潟県の保護上重要な野生生物-p. 110. 新潟県環境生活部環境企画課.
- 布村 昇・宮本 望. 1994. 富山市の貝, 富山市科学文化センター収蔵資料目録 第7号.
- 小原淑子・富山清升, 2000. 同一河川におけるカワニナとイシマキガイのニッチ分け. *Venus*, 59: 135-147.
- 富山県, 2012. 軟体動物 (淡水産・陸産貝類). 解説. 高山茂樹・瀧口景子・布村 昇・宮本 望・邑本順亮. 絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012—. p. 210. 富山

県生活環境文化部自然保護課.  
高山茂樹・不破光大・佐藤詩恵. 2008. 角川のイ  
シマキガイ. 富山の生物. 47 : 51-52.



写真4：氷見市中田 下田川下流



写真5：氷見市姿 出土川下流



写真6：氷見市宇波 宇波川



写真7：氷見市小杉 用水路



写真8：氷見市敷田 敷田水路下流



写真9：氷見市阿尾 阿尾川下流



写真 10：富山市水橋西天神町 白岩川と  
下条川合流点



写真 11：滑川市魚躬 上市川河口



図 1：既知生息地点と今回の調査地点

☆：既知生息地点、○：新たに生息が確認された地点、●：生息が確認されなかった地点

表1：生息が確認された地点と確認されなかった地点

生息が確認された地点

採集年月日	採集地名	河川名	水温	採集者
20150606	氷見市阿尾	阿尾川稻泉橋	16.6	木村知晴
20150606	氷見市藪田	用水路	18.5	木村知晴
20150606	氷見市小杉	用水路	19.6	木村知晴
20150606	氷見市宇波	宇波川	17.8	木村知晴
20150607	氷見市阿尾	阿尾川稻泉橋	23.5	不破光大
20150618	氷見市中田	下田川	-	木村知晴・齋藤真里
20150618	氷見市姿	出土川	-	木村知晴・齋藤真里
20151014	富山市水橋西天神町	白岩川と下条川合流点	17.8	木村知晴
20160719	氷見市姿	出土川 国道160号線上流	23.1	不破光大・齋藤真里・稻村 修・泉 拓朗
20160719	氷見市藪田	藪田水路	26.1	不破光大・齋藤真里・稻村 修・泉 拓朗
20161019	滑川市魚躬	上市川魚躬橋	19.2	不破光大・齋藤真里・稻村 修
20170616	魚津市住吉	角川 住吉橋	14.0	不破光大

生息が確認されなかった地点

20080803	魚津市三ヶ	早月川	25.2	不破光大・荒木圭太
20090212	魚津市三ヶ	早月川	4.0	不破光大
20090625	魚津市寿町	片貝川	16.5	不破光大・石坂泰敏
20090803	魚津市三ヶ	早月川	14.5	不破光大
20090819	魚津市三ヶ	早月川	-	不破光大
20090830	魚津市三ヶ	早月川	21.0	不破光大
20090902	魚津市三ヶ	早月川	21.0	不破光大
20101007	入善町芦崎	庄助川	18.0	不破光大
20110222	朝日町赤川	小川	-	不破光大
20110325	魚津市住吉	角川	6.0	不破光大
20110520	朝日町境	境川	-	不破光大
20110911	魚津市寿町	片貝川と布施川合流点	22.5	不破光大・伊串祐紀・草間 啓
20140328	黒部市浜石田	黒瀬川	12.3	木村知晴・齋藤真里
20140623	朝日町横崎新	大清水川	19.0	不破光大
20140623	朝日町境	金剛川 河口	-	不破光大
20141006	滑川市下小泉町	中川	13.5	不破光大
20141029	入善町吉原	囲川(杉沢の沢スキ流出)	13.0	不破光大・草間 啓
20141029	入善町芦崎	庄助川	-	不破光大・草間 啓
20141029	朝日町台屋	木流川 有磯橋	13.0	不破光大・草間 啓
20150113	滑川市下小泉町	中川	-	不破光大・伏谷樹里
20150327	黒部市浜石田	黒瀬川	9.0	木村知晴・齋藤真里
20150618	氷見市中田	用水路	-	齋藤真里
20150623	新潟県糸魚川市寺地	田海川 田海橋	20.5	不破光大・草間 啓
20150708	朝日町宮崎	古川 河口	21.0	不破光大
20150708	朝日町境	大谷川 河口	-	不破光大
20150725	高岡市太田	渋谷川	23.0	木村知晴・伊串祐紀
20150725	高岡市伏木	加古川	-	木村知晴・伊串祐紀
20150804	氷見市鞍川	上庄川 御用橋	31.4	木村知晴・齋藤真里
20150804	氷見市柿谷	上庄川新上庄中央橋	31.2	木村知晴・齋藤真里
20150804	氷見市余川	余川川京地橋	28.4	木村知晴・齋藤真里
20150828	朝日町笹川	笹川	-	木村知晴
20151018	朝日町宮崎	古川 河口	-	木村知晴
20160810	朝日町境	境川 境橋	-	不破光大・不破壯真
20160828	魚津市寿町	片貝川 河口	-	不破光大・伊串祐紀・草間 啓
20170711	氷見市島尾	泉川 松田江橋	24.5	不破光大・齋藤真里・稻村 修
20170825	氷見市島尾	泉川 JR氷見線	26.0	不破光大・齋藤真里・稻村 修
20170904	氷見市島尾	泉川 松田江橋	21.8	不破光大・齋藤真里・稻村 修
20170905	富山市湊入船町	富岩運河 バードサンクチュアリ	22	不破光大・草間 啓
20171104	氷見市島尾	泉川 松田江橋	16.0	不破光大・齋藤真里・稻村 修
20180903	富山市湊入船町	富岩運河 がめ川合流点	12.5	不破光大・齋藤真里・稻村 修

## 富山湾におけるリュウグウノツカイの記録（～2019年3月）

木村 知晴・草間 啓・不破 光大・稻村 修（魚津水族館）

Record of Slender oarfish *Regalecus russelii* in Toyama Bay, Sea of Japan

(Until March 2019).

Tomoharu KIMURA Satoshi KUSAMA

Mitsuhiko FUWA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

### はじめに

リュウグウノツカイ *Regalecus russelii* はアカマンボウ目リュウグウノツカイ科に属し、世界最大級の海産硬骨魚類とされる。体は著しく細長く、体長は体高の 17～24 倍、背鰭前部の 6 棘は大きく著しく延長し、さらに腹鰭は 1 条で延長し途中に膜質の付属物が 3 か所以上あることなどで特徴付けられる（林、2013）。東太平洋、西太平洋、大西洋、南アフリカ、東インド洋から知られ、日本近海では北海道から九州、沖縄諸島の沿岸に分布する（瀬能、2018）。

近年、日本海各地においてリュウグウノツカイの捕獲や目撃が相次いでいる。しかし、これまでに新潟県沿岸の記録（本間ら、2011）以外では、捕獲情報や計測記録などはほとんどまとめられていない。

魚津水族館は歴史が古く富山県唯一の水族館であることから、見慣れない魚類などが捕れると連絡を受けることが多い。リュウグウノツカイも同様で、これまでに富山湾（本報告では富山県の沿岸）では、2009 年と 2010 年の 4 個体（伊串・稻

村、2011）の捕獲記録を報告している。今回は、それ以降に富山湾で発見された本種の記録をまとめて報告する。

### 確認記録

富山湾において、2011 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日の期間に確認されたリュウグウノツカイは計 22 個体であった。その内、魚津水族館に搬入して計測したのは 15 個体で、そのほかに富山県内の各漁業協同組合や報道機関などからの情報提供を受け、写真で確認したものが 7 個体あった。

以下に各個体の記録を記す。なお、個体番号は富山湾で捕獲された個体の通し番号で、過去に 4 個体の報告があるので本報告では個体番号 5～26 となっている。また、尾部の欠損個体が多いことから、全長は吻端から計測できた体の最後端までの長さとした。なお、全長の単位は目視で判断した場合は「m」で、当館に搬入しメジャーで計測した個体は「cm」で記した。

個体番号 5



捕獲年月日：2013年1月18日

捕獲場所：富山・新潟県境沖

捕獲者：境市振定置網漁業組合

捕獲方法：定置網

全長：267 cm

状態：ほぼ完全な状態であるが尾鰭は欠損。傷口は塞がっている。

個体番号 6



捕獲年月日：2013年7月26日

捕獲場所：富山・新潟県境沖

捕獲者：境市振定置網漁業組合

捕獲方法：定置網

全長：81 cm

状態：体はほぼ中央部で切れており、後半部が欠損している。傷口は新鮮であり、捕獲時に切断したと推測される。

個体番号 7



捕獲年月日：2013年12月14日

捕獲場所：富山市水橋沖

捕獲者：水橋漁民合同組合

捕獲方法：定置網

全長：不明

備考：水橋漁民合同組合提供の写真で確認。

個体番号 8



捕獲年月日：2014年2月7日

捕獲場所：富山市水橋沖

捕獲者：水橋漁民合同組合

捕獲方法：定置網

全長：145 cm

状態：体のほぼ中央部より後半が欠損しており、その傷口は塞がっている。

備考：生きた状態で魚津水族館の予備水槽に収容した。翌日に死亡を確認。

個体番号 9



発見年月日：2015年2月16日

発見場所：黒部市生地海岸

全長：270 cm

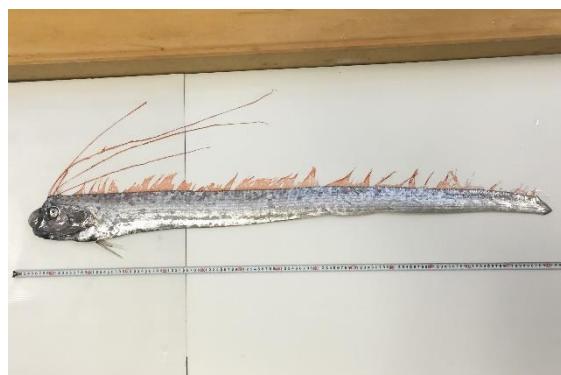
状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

備考：海岸打ち上げ。

全長：不明

備考：魚津漁業協同組合からの情報提供。

個体番号 12



捕獲年月日：2015年12月19日

捕獲場所：射水市新湊沖

捕獲者：有限会社矢野漁業

捕獲方法：定置網

全長：140 cm

状態：体は中央部よりもやや後ろで欠損しており、その傷口は塞がっている。

個体番号 10



捕獲年月日：2015年11月3日

捕獲場所：射水市海老江沖

捕獲者：鷺北漁業部

捕獲方法：定置網

全長：218 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

個体番号 13（写真なし）

捕獲年月日：2016年1月25日

捕獲場所：射水市新湊沖

捕獲者：不明

捕獲方法：定置網

全長：約2m

備考：新湊漁業協同組合からの情報提供。

個体番号 11（写真なし）

捕獲年月日：2015年12月2日

捕獲場所：富山・新潟県境沖

捕獲者：境市振定置網漁業組合

捕獲方法：定置網

個体番号 14



捕獲年月日：2016年11月5日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：有限会社矢野漁業

捕獲方法：定置網

全長：198.8 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

個体番号 15



捕獲年月日：2016年11月15日

捕獲場所：滑川市三ヶ沖

捕獲者：魚津水産株式会社

捕獲方法：定置網

全長：236 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

個体番号 16（写真なし）

捕獲年月日：2017年2月6日

捕獲場所：富山市水橋沖

捕獲者：水橋漁民合同組合

捕獲方法：定置網

全長：約3m

備考：水橋漁民合同組合からの情報提供。

個体番号 17



捕獲年月日：2018年10月31日

捕獲場所：滑川市三ヶ沖

捕獲者：魚津水産株式会社

捕獲方法：定置網

全長：267.5 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

個体番号 18



捕獲年月日：2018年12月22日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：不明

備考：富山県農林水産総合技術センター水産研究所・小塚 晃主任研究員から写真と情報提供。

個体番号 19



捕獲年月日：2019年1月19日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：約 2.2m

備考：富山テレビ放送からの画像と情報提供.

個体番号 20



発見年月日：2019年1月19日

発見場所：滑川市吉浦海岸

発見者：上代昭男

全長：436.5 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

備考：海岸打ち上げ.

個体番号 21



捕獲年月日：2019年1月28日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：有限会社昭栄漁業

捕獲方法：定置網

全長：394.8 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

備考：網揚げ時に胴体中央付近で切断.

個体番号 22



発見年月日：2019年1月30日

発見場所：魚津市経田東町海岸

全長：323 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

備考：海岸打ち上げ.

個体番号 23



捕獲年月日：2019年2月1日

捕獲場所：射水市堀岡沖

捕獲者：新徳漁業有限会社

捕獲方法：定置網

全長：301.8 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

個体番号 24



捕獲年月日：2019年2月1日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：約 3.2m

備考：新湊漁業協同組合からの情報提供と新湊鮮魚センターからの写真提供。

個体番号 25



捕獲年月日：2019年2月21日

捕獲場所：高岡市伏木沖

捕獲者：尾山水産有限会社

捕獲方法：定置網

全長：291.3 cm

状態：体後端部に欠損があり、その傷口は塞がっている。

備考：胃内容物はほとんど未消化のツノナシオキアミのみで、大量にあった。

個体番号 26



捕獲年月日：2019年2月26日

捕獲場所：魚津市三ヶ沖

捕獲者：魚津水産株式会社

捕獲方法：定置網

全長：223.9 cm

状態：体後半部（推定1/3程度）が欠損している。その傷口は新鮮であり、網揚げ時に切れたものと推測される。

備考：生きた状態で魚津水族館の「波の水槽」に搬入するが、約6時間半後に死亡。

### まとめ

2019年3月末時点での富山湾におけるリュウグウノツカイの記録は、2009年12月から2010年2月に捕獲された4個体と合わせて26個体となった（表1）。

富山湾における捕獲数を月ごとにまとめると、ほとんどの個体が11月から2月に確認されており、6月を中心採捕されている新潟県沿岸（本間ら、2011）とは異なる結果であった。富山湾において最も多く確認された月は2月で、次いで1月、12月の順であり、それ以外の月では7月と10月に各1個体が記録されたのみであった（図1）。このことから、富山湾におけるリュウグウノツカイは10月から2月頃が一つのシーズンと考えられた。そこで捕獲数を比較する際には1年単位ではなく、10月～翌年3月までを考慮した年度単位の方が適していると考えて富山湾での確認記録を年度別に見ると、最も多く確認されたのは2018年度の10個体であり、2010年度・2011年度・2017年度には確認されなかった（図2）。

捕獲方法としては、定置網で捕獲された個体が22個体で、海岸に打ち上げられた個体が4個体であった。定置網では高岡市伏木沖から富山・新潟県境沖までの範囲で捕獲されたが、氷見市沖では確認されなかった。また、海岸に打ち上げられた個体は滑川市吉浦から黒部市荒俣の海岸で確認され、富山市以西および入善町以東では確認されなかった（図3）。

リュウグウノツカイの成魚の尾部は著しく切れやすく、僅かな力をかけただけで簡単に切断することが知られている（瀬能、2018）。当館に搬入して計測したリュウグウノツカイは、全ての個体で尾部の一部あるいは大部分が欠損していた。欠損の程度は、推定される全長に対して1割未満の欠損が8個体、2～4割の欠損が5個体、約5割欠損が2個体であった。欠損部の傷口が新鮮であった2個体は捕獲時に切れたと推定されたが、残りの13個体は傷口がほぼ塞がっており、捕獲されるよりもかなり前に切れていたと考えられた。実際に、当館に生きたまま搬入された2個体（個体番号8, 26）はいずれも尾部の大部分が欠損していたが、当館の水槽内でしばらく遊泳する様子が観察された（図4、図5）。特に個体番号8は体の5割ほどを欠損していたが、傷口は綺麗に塞がっており（図6）、リュウグウノツカイは体の後半部を失っても生存できることが確認された。

このように尾鰭まで完全な状態で残っている個体がおらず、全ての個体で正確な全長は不明であった。そのため各個体の大きさの比較検討はできなかったが、測定された全長は最大で436.5 cm、最小は81 cmであった。最小の個体は体中央部付近で切断されていたので、実際には150 cmほどはあったと推測される。測定した全長の頻度分布は2～3 mの個体が最も多かった（図7）。今後、各個体の大きさを比較する際には吻端から総排泄孔までの長さ（肛門前長）と体高を基準として、全長を補正する必要があると考えられる。

リュウグウノツカイの食性について、瀬能（2018）は動物プランクトンを吸引して食べをしている。また、鳥取県の海岸に漂着したリュウグウノツカイがオキアミ類を嘔吐した記録が2例ある（川上ら、2004；川上・一澤、2010）。さらに、富山湾で確認された個体番号3のリュウグウノツカイの胃からはツノナシオキアミが確認されている（伊串・稻村、2011）。今回、胃内容物を調査した12個体のなかで11個体は空胃であった

が、1個体（個体番号25）から大量のツノナシオキアミが確認され（図8）、ツノナシオキアミを主食としている可能性が示された。

今後もリュウグウノツカイに関する情報を蓄積し、生態の解明に努めたい。

47号、83-86。

瀬能 宏. 2018. 小学館の図鑑Z 日本魚類館. 524pp. 小学館、東京。

### 謝辞

捕獲したリュウグウノツカイを提供して頂いた新湊漁業協同組合、魚津漁業協同組合、水橋漁民合同組合の皆様、並びに海岸に打ち上げられているリュウグウノツカイの情報を魚津水族館に連絡して頂いた皆様に御礼申し上げる。また、リュウグウノツカイの写真を提供して頂いた富山テレビ放送・鷲北漁業部・新湊鮮魚センター・富山県農林水産総合技術センター水産研究所の皆様に感謝申し上げる。最後に、リュウグウノツカイの運搬や搬入、計測を手伝っていただいた魚津水族館職員の皆様に深謝する。

### 引用文献

- 林 公義. 2013. リュウグウノツカイ科  
解説、中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の  
同定 第三版. 480. 東海大学出版会、神奈川.  
本間義治・箕輪一博・中村幸弘・青柳 彰・野村  
卓之. 2011. 新潟・佐渡沿岸と沖合におけるア  
カマンボウ目（紐体類）魚類の漂着・採捕記録  
再調. ホシザキグリーン財団研究報告第14  
号、31-41.  
伊串祐紀・稻村 修. 2010. 富山湾で確認された  
リュウグウノツカイ. 魚津水族館年報20号、  
59-60.  
川上 靖・平尾和幸・清末幸久. 2004. 鳥取県沿  
岸における漂着動物の記録（2002年4月～  
2003年12月）. 鳥取県立博物館研究報告第41  
号、1-6.  
川上 靖・一澤 圭. 2010. 鳥取県沿岸に漂着し  
た大型海洋動物（2008年～2009年）とウミガ  
メ類の産卵記録. 鳥取県立博物館研究報告第

表1. リュウグウノツカイの記録一覧

個体番号	捕獲日	確認場所	全長
1	2009.12.15	黒部市荒俣 海岸打ち上げ	396cm
2	2010.1.19	高岡市雨晴沖 定置網	335cm
3	2010.2.5	入善町飯野沖 定置網	227cm
4	2010.2.8	入善町飯野沖 定置網	428cm
5	2013.1.18	富山・新潟県境沖 定置網	267cm
6	2013.7.26	富山・新潟県境沖 定置網	81cm
7	2013.12.14	富山市水橋沖 定置網	不明
8	2014.2.7	富山市水橋沖 定置網	145cm
9	2015.2.16	黒部市生地 海岸打ち上げ	270cm
10	2015.11.3	射水市海老江沖 定置網	218cm
11	2015.12.2	富山・新潟県境沖 定置網	不明
12	2015.12.19	射水市新湊沖 定置網	140cm
13	2016.1.25	射水市新湊沖 定置網	約2m
14	2016.11.5	高岡市伏木沖 定置網	198.8cm
15	2016.11.15	滑川市三ヶ沖 定置網	236cm
16	2017.2.6	富山市水橋沖 定置網	約3m
17	2018.10.31	滑川市三ヶ沖 定置網	267.5cm
18	2018.12.22	高岡市伏木沖 定置網	不明
19	2019.1.19	高岡市伏木沖 定置網	約2.2m
20	2019.1.19	滑川市吉浦 海岸打ち上げ	436.5cm
21	2019.1.28	高岡市伏木沖 定置網	394.8cm
22	2019.1.30	魚津市経田東町 海岸打ち上げ	323cm
23	2019.2.1	射水市堀岡沖 定置網	301.8cm
24	2019.2.1	高岡市伏木沖 定置網	約3.2m
25	2019.2.21	高岡市伏木沖 定置網	291.3cm
26	2019.2.26	魚津市三ヶ沖 定置網	223.9cm

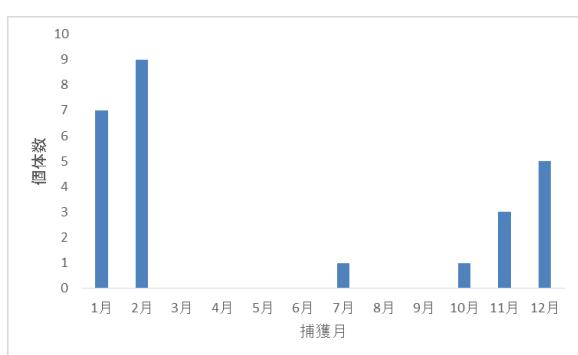


図1 月別の捕獲記録

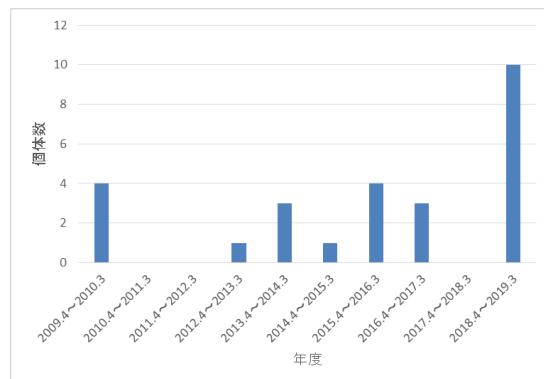


図2 年度別捕獲記録



図3 リュウグウノツカイ確認地点

数字は個体番号

○：定置網

□：海岸に打ち上げ



図4 輸送途中の個体番号8



図5 「波の水槽」を遊泳する個体番号 26



図6 個体番号8の尾部末端

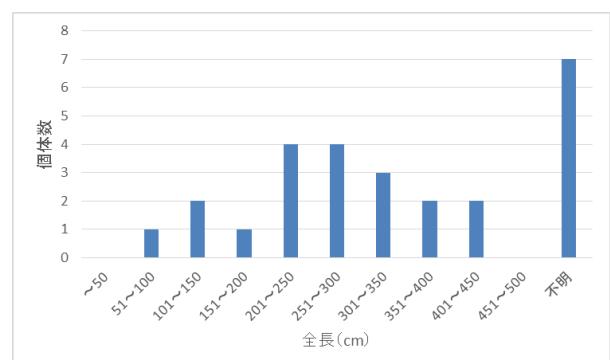


図7 全長の頻度分布



図8 個体番号25が食べていたツノナシオキアミ（一部）

## 2008–2018 年に富山湾で新たに記録した魚類

木村知晴・西馬和沙・不破光大・稻村 修 (魚津水族館)

New fishes recorded in Toyama Bay during 2008–2018.

Tomoharu KIMURA Kazusa SAIBA Mitsuhiro FUWA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

### はじめに

富山湾は本州中央部に位置し、日本海に面した外洋性内湾である。富山湾の定義は様々であるが、ここでは原則として富山県が面している沿岸海域とする。

富山湾の魚類について、魚津水族館(1997)は富山湾産魚類リストを作成して魚津水族館(以下、当館と記す)で確認した145科350種を報告している。また、南部(2013)は過去の文献などをもとに1990年代後半くらいまでの富山湾産の魚類目録を作成し、189科約595種の魚類を報告している。さらに、河野ら(2014)は「日本海産魚類目録」として、日本海沿岸各県別の魚類リストを作成し、富山県は613種と報告している。しかし、稻村(2017)は日本海産魚類目録の掲載種の中で当館が確認している魚種数を408種とし、大幅に少ないことを報告した。これは日本海産魚類目録が主に過去のリストのみの報告や図鑑などを引用しており、実物の確認ではないことが理由の一つと考えられた。また当時は、日本海産魚類目録の掲載種以外にも当館が富山湾での捕獲を確認している魚類も多数存在していたが、十分に整理されていなかった。

そこで今回の調査では、「A:過去に記録がなく、2008–2018年の間に富山湾で新たに確認された魚類」と、「B:2008年より前から捕獲されていたと考えられるが未報告の魚類(近縁種と混同されていた種や、分類

体系の変更により未報告となっている魚類)」の2つのカテゴリーについて調べ、両カテゴリー合わせて48種を確認したため、新たな富山湾産魚類の記録として詳細を報告する。

### 方法

調査は2008–2018年に行い、魚津漁業協同組合(JF魚津)の水産物荷さばき施設「魚津おさかなランド」で行われる朝の競りの際に確認した個体を中心に、富山県内の漁業者から提供を受けた個体や筆者らが採集した個体を記録した。魚津おさかなランドでは現地で写真撮影し、その写真を基に種の同定を行った。標本が入手できた個体は、当館内で同定や計測を行った。種の同定および分類と掲載順は、「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」(中坊徹次編、2013)によった。

### 結果

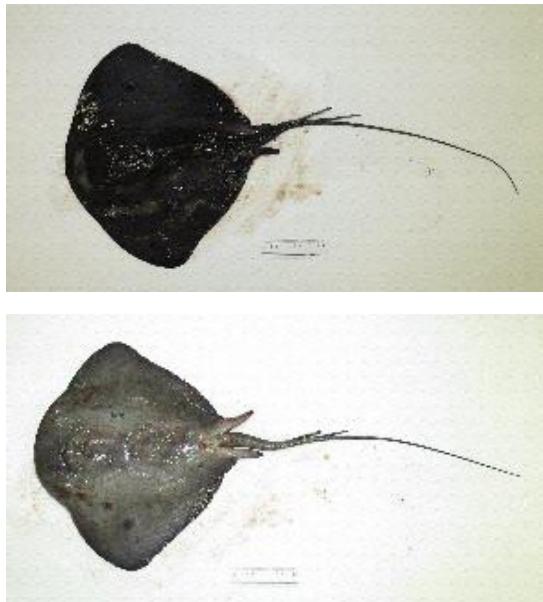
今回の調査の結果、29科48種の富山湾産魚類を新たに確認した(表1)。その内訳は、カテゴリーAが27科40種、カテゴリーBが4科8種であった。

以下に各魚種の捕獲記録などを記す。また、計測できた魚類に関しては、各計測結果を記載した。

アカエイ科 Dasyatidae

カラスエイ *Pteroplatytrygon violacea*

カテゴリー：A



採集日：2016年11月10日

採集地：魚津市北中沖

採集者：高峯定置網組合

採集方法：定置網

全長：835 mm 体盤幅：388 mm

体盤長：302 mm 体重：2290g

本種は北海道太平洋沿岸、神奈川県三崎、静岡県沼津、三重県尾鷲、和歌山県串本、高知県以布利、鹿児島県笠沙、琉球列島、九州に生息する（山口ら、2013）。主な特徴は、尾部腹正中線に皮褶があるが背正中線には皮褶も隆起線もなく、体は台形に近くて吻端が平坦、体盤の腹面は暗紫色で（山口ら、2013），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

ウミヘビ科 Ophichthidae  
セレベスヒレアナゴ *Myrophis microchir*  
カテゴリー：A



採集日：2013年4月14日

採集地：魚津市経田沖

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

本種は三重県、大阪府岬、和歌山県雜賀崎・湯浅、京都府宮津湾、石川県能登、高知県須崎、長崎県志々伎湾に生息する（波戸岡、2013a）。主な特徴は、吻はやや丸く、眼の後上方に側線孔があり、尾端部付近では臀鰭のみ黒褐色で範囲が広く（波戸岡、2013a），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

ホタテウミヘビ *Ophichthus altipennis*  
カテゴリー：A





確認日：2013年10月31日

採集場所：富山湾

提供者：富山県水産研究所

本種は東京湾～鹿児島県志布志湾の太平洋沿岸、新潟県、兵庫県浜坂、隱岐、山口県日本海側、九州北西岸に生息する（波戸岡、2013a）。主な特徴は、頭部側線孔は黒く縁取られて目立ち、背鰭前端は黒褐色で（波戸岡、2013a），本個体も同様の特徴を示した。

なお、当館には2011年5月31日に魚津市三ヶ沖の定置網で1個体（採集者：三和定置網組合），2012年12月3日に定置網で1個体（魚津おさかなランドで確認）が捕獲された記録が残されているが、標本や写真は確認できなかったことから、本個体が富山湾初記録となる。

さらに、2016年9月29日に魚津市沖の定置網で1個体が捕獲された。また、2017年8月30日に魚津市本町地先で1個体、2017年9月13日に魚津市青島地先で3個体、2018年7月27日に魚津市本町地先で1個体を筆者らの一人である木村が潜水調査中に目視で確認した。

ハモ科 *Muraenesocidae*

スズハモ *Muraenesox bagio*

カテゴリー：A



採集日：2018年3月26日

採集地：富山新港 水深15m

採集者：棚田啓治

採集方法：刺網

全長：1860mm 肛門前側線孔数：35

体重：9160g

本種は北海道釧路・臼尻、青森県八戸、相模湾、熊野灘、紀伊水道、土佐湾、瀬戸内海西部、山口県日本海沿岸に生息する（波戸岡、2013b）。主な特徴は、短管状の前鼻孔は吻の前よりにあり、肛門は体の中央よりも前方で、生時胸鰭の内側は紅色、肛門前側線孔数は33～39で（波戸岡、2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

クズアナゴ科 *Nettastomatidae*

イトアナゴ *Saurenchelys cancrivora*

カテゴリー：A



採集日：2014年3月23日

採集地：魚津市経田沖

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

全長：473 mm 頭長：41 mm

肛門前側線孔数：25

本種は和歌山県、土佐湾、愛媛県、長崎県、中国浙江省～広東省、海南島、インド洋、アデン湾に生息する（波戸岡、2013c）。主な特徴は、後鼻孔は眼の中央前方にあり、頭長は肛門前長の42～46%，肛門前側線孔数は27～30で（波戸岡、2013c），さらに尾端の黒色部の長さがほぼ頭長に等しい（浅野、1984）。

本個体は肛門前側線孔数が25で波戸岡（2013c）の記載よりも少ないが、その他の特徴が一致したため本種に同定した。

本個体が富山湾初記録である。

サケ科 Salmonidae

マスノスケ *Oncorhynchus tshawytscha*

カテゴリー：A



採集日：2016年5月12日

採集地：射水市新湊沖

採集船：招福丸

採集方法：刺網

全長：約75 cm

本種は日本海、オホーツク海、ベーリング海、北太平洋全域に生息する（細谷、2013）。主な特徴は、体の背面に黒点が散在し、尾鰭は全面に黒点が散在し後縁は黒く縁取られ、下顎歯基底部は黒色である（細谷、2013）。

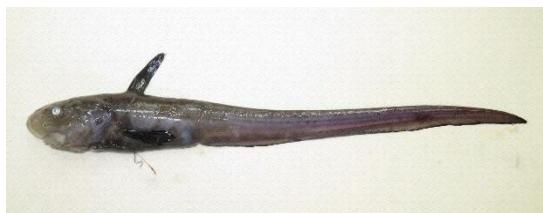
本個体は体が5つに裁断されて体の一部が取り除かれていたが、頭と尾は残っており前述の特徴が確認できたことから本種に同定した。

本個体が富山湾初記録である。

シャチブリ科 Ateleopodidae

シャチブリ *Ateleopus japonicus*

カテゴリー：A



採集日：2014年8月25日

採集地：射水市新湊沖 水深150～300m

採集方法：中層引き網

全長：795 mm 体高：102.0 mm

頭長：142.4 mm 体重：853 g

本種は鹿島灘～土佐湾の太平洋沿岸、新潟県、若狭湾、兵庫県余部沖隱岐、島根県敬川沖、山口県日本海側沿岸、瀬戸内海、沖縄舟上海盆に生息する（藍沢・土居内, 2013a）。主な特徴は、腹鰭軟条数が2～3で胸鰭基部より長く、上顎に小歯があるが下顎にはなく（藍沢・土居内, 2013a），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに、2016年11月22日に魚津市沖の刺網で1個体（採集船：第八松重丸、全長：793mm、体長：749mm、体高：101mm、体重900g）、2018年4月23日に黒部市沖の刺網で1個体（採集船：幸洋丸、全長：842mm、体長：819mm、体高：110mm、体重94.8g）が捕獲された。2018年4月23日に捕獲された個体は当館でホルマリン標本として保管している。

ナミノハナ科 *Notocheiridae*  
ナミノハナ *Iso flosmaris*  
カテゴリー：A



確認日：2008年8月13日  
確認地：朝日町宮崎沖 沖ノ島周辺  
確認者：不破光大

本種は新潟県佐渡～九州北西岸の日本海・東シナ海沿岸、五島列島、千葉県小湊～鹿児島湾の太平洋沿岸、八丈島、喜界島、世論島、沖縄県瀬底島に生息する（瀬能、

2013a）。主な特徴は、体は著しく側偏し、体高は頭部直後で最大、腹部は隆起縁をなし、頭部と腹部は無鱗である（瀬能、2013a）。

著者らの一人である不破は、2008年8月13日に朝日町宮崎沖において群れで泳ぐ本種を撮影した。標本は得られていないが、写真から前述の特徴が確認されたため本種に同定した。

これらの個体が富山湾初記録である。

メバル科 *Sebastidae*  
ウツカリカサゴ *Sebastiscus tertius*  
カテゴリー：B



採集日：2012年1月4日  
採集地：魚津市沖  
採集船：第8大皓丸  
採集方法：刺網  
胸鰭条数：19

本種は青森県津軽海峡～宮崎県の太平洋沿岸、若狭湾、山口県日本海沿岸、長崎県五島列島南西沖～東シナ海中風の大陸棚縁辺域に生息する（中坊・甲斐、2013b）。主な特徴は、胸鰭上半分の後縁は浅く湾入りし、頬部に棘がなく、側線上方を含む体側には明瞭なふちどりのある円形小白点があり、胸鰭は18～20軟条で（中坊・甲斐、2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本種は永らくカサゴの色彩変異とされてきていたが、Kato & Tokimura (2001) は

別種とした。当館では2008年より前から本種を飼育している。また、2012年以降にも魚津市沖の定置網や刺網などで毎年多数の捕獲が確認されており、以前からカサゴと混在していたと考えられるが、正式な報告は今回が初めてである。

ホウズキ *Hozukius emblemarius*

カテゴリー：A



採集日：2016年8月11日

採集地：滑川市笠木沖

採集船：第八喜代丸

採集方法：刺網

本種は青森県～熊野灘の太平洋沿岸、兵庫県浜坂、山口県日本海沿岸、九州-パラオ海嶺に生息する（中坊・甲斐、2013b）。主な特徴は、胸鰭上半部の後縁は丸く、眼窩下縁に棘があり、背鰭鰭条数は12軟条で、尾鰭後縁は截形、吻・主上顎骨・下顎は小鱗を被ることで（中坊・甲斐、2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに、2016年8月20日に滑川市笠木沖の刺網で1個体（採集船：第八喜代丸），2017年5月1日に滑川市笠木沖の刺網で1個体（採集船：第八喜代丸），2017年10月10日に魚津市沖の刺網で1個体（採集船：第八松重丸）が捕獲された。

なお、本種は環境省の海洋生物レッドリスト

スト（2017）において情報不足（DD）に指定されている。

#### ※メバル複合種群

従前よりメバルには、赤色型・黒色型・白色型の3タイプの存在が知られていたが、Kai & Nakabo (2002) はいずれも形態的・遺伝的に異なる3種に分けられることを示し、Kai & Nakabo (2008) ではそれぞれにアカメバル *Sebastes inermis*、クロメバル *Sebastes ventricosus*、シロメバル *Sebastes cheni* の和名と学名を提唱した。過去に富山湾においてメバルは報告されているが（伊串・稻村、2009a・2010a・2012；南部、2013），標本や識別可能な写真が残されておらず、どの種に該当するのか不明確である。そこで、今回改めて3種を報告する。

アカメバル *Sebastes inermis*

カテゴリー：B



採集日：2011年7月16日

採集地：入善町吉原沖

採集方法：定置網

採集船：有限会社目合又大謀網

胸鰭条数：15

本種は北海道～長崎県の日本海沿岸、岩手県、相模湾～紀伊水道の太平洋沿岸、瀬戸内海東部、宮崎県に生息する（中坊・甲斐、2013b）。主な特徴は、生時体の背面および胸

鰭は赤色からオレンジ色で、胸鰭は通常 15 軟条、臀鰭は通常 7 軟条で（中坊・甲斐, 2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本種は魚津市沖の定置網や刺網などで毎年多数の捕獲が確認されている。

クロメバル *Sebastes ventricosus*

カテゴリー：B



採集日：2011年7月9日

採集地：魚津市沖

採集方法：刺網

採集船：第8大詰丸

胸鰭条数：16

本種は石川県能登半島～長崎県の日本海・東シナ海沿岸、岩手県、相模湾～紀伊水道の太平洋沿岸、瀬戸内海東部、高知県以布利に生息する（中坊・甲斐, 2013b）。主な特徴は、生時体の背面は黒く腹面は銀色、胸鰭は黒色で、胸鰭は通常 16 軟条、臀鰭は通常 7～8 軟条で（中坊・甲斐, 2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本種は魚津市沖の定置網や刺網などで毎年多数の捕獲が確認されている。

シロメバル *Sebastes cheni*

カテゴリー：B



採集日：2011年7月16日

採集地：入善町吉原沖

採集方法：定置網

採集船：有限会社目合又大謀網

胸鰭条数：17

本種は青森県～九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、東北地方太平洋沿岸、相模湾～三重県の太平洋沿岸、瀬戸内海、有明海に生息する（中坊・甲斐, 2013b）。主な特徴は、生時体の背面および胸鰭は茶色からこげ茶色で、胸鰭は通常 18 軟条、臀鰭は通常 8 軟条で（中坊・甲斐, 2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本種は魚津市沖の定置網や刺網などで毎年多数の捕獲が確認されている。

タヌキメバル *Sebastes zonatus*

カテゴリー：B



採集日：2011年7月2日

採集地：魚津市沖

採集船：第八松重丸

採集方法：刺網

本種は北海道日高・小樽、岩手県、宮城県、

相模湾, 土佐湾, 山形県, 富山湾, 石川県能登半島, 若狭湾, 兵庫県香住, 山口県に生息する (中坊・甲斐, 2013b). 主な特徴は, 尾鰭後縁の白色帯は広く, 体の暗色横帯は明瞭で, 小暗色点はまばらであり (中坊・甲斐, 2013b), 本個体も同様の特徴を示した.

タヌキメバルとキツネメバルの異同に関しては古くから議論がなされてきた (山中・伊藤, 2014). しかし, Muto et al. (2011) は遺伝的・形態的に別種であるとしており, その中で富山湾中央部から採集したサンプルを用いている. そこで, 中坊・甲斐 (2013b) は本種の生息域に富山湾を含めているが, この採集地点は石川県と富山県のほぼ中間であり, 富山県の沿岸ではない.

本種は以前から魚津市沖の定置網や刺網などで捕獲され, 魚津港に多数が水揚げされていたが, キツネメバルと区別されておらず, これまで富山県沿岸域からの報告はなかったため, 本個体が富山湾初記録である.

ホウボウ科 *Triglidae*  
オニカナガシラ *Lepidotrigla kishinouyei*  
カテゴリー: A



採集日: 2008年3月9日

採集地: 富山市岩瀬沖 シーバース周辺

採集者: 不破光大

採集方法: 釣り

本種は新潟県～九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県銚子～九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海中部以南の大陸棚全域に生息する (山田・柳下, 2013a). 主な特徴は, 胸鰭内面は下方に青白色点が散在する黒斑があり, 最長吻棘は長く眼径の1/3で (山田・柳下, 2013a), 本個体も同様の特徴を示した.

本個体が富山湾初記録である. さらに, 2012年1月13日に魚津市青島沖の刺網で2個体 (採集船: 仁光丸), 2012年1月16日に魚津市経田沖の定置網で3個体 (採集者: 有限会社湯治好水産), 2012年5月7日に魚津市経田沖の底引き網で1個体 (採集船: 第八好栄丸) が捕獲されており, それ以降も魚津市沖の刺網などで毎年多数の捕獲が確認されている. また, 滑川市高塚地先では木村が潜水した際に目視で確認している.

コチ科 *Platycephalidae*

ワニゴチ *Inegocia ochiaii*

カテゴリー: A





採集日：2016年9月1日

採集地：魚津市沖

採集船：第8大皓丸

採集方法：刺網

本種は八丈島、房総半島外房～九州南岸の太平洋沿岸、若狭湾～長崎県の日本海沿岸、瀬戸内海、屋久島に生息する（中坊・甲斐, 2013c）。主な特徴は、眼下骨の隆起線は2～4棘、吻は長く吻長は眼径の約2.0～2.4倍、眼の後ろにくぼみがなく、鼻棘があり、間鰓蓋部の皮弁は单一形で（中坊・甲斐, 2013c），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに、2017年12月11日に魚津市住吉沖の定置網で1個体（採集者：魚津水産株式会社）と、同日に魚津市北中沖の定置網で1個体（採集者：高峯定置網組合）が確認されている。

ホタルジャコ科 Acropomatidae  
スミクイウオ *Synagrops japonicus*  
カテゴリー：A



採集日：2018年3月5日

採集地：魚津市住吉沖 水深80m

採集者：魚津水産株式会社

採集方法：定置網

全長：227.1 mm 体長：179.5 mm

体高：45.8 mm 体重：124.2 g

本種は、北海道～九州南岸の太平洋沿岸、兵庫県香住・浜坂、島根県隱岐・敬川沖、九州北西岸～東シナ海大陸棚縁辺域に生息する（波戸岡, 2013d）。主な特徴は、臀鰭棘は2本、腹鰭棘の前縁はなめらかで（波戸岡, 2013d），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録であり、当館で冷凍保存している。

キントキダイ科 Priacanthidae

ミナミキントキ *Priacanthus sagittarius*

カテゴリー：A





採集日：2017年12月28日

採集地：魚津市住吉沖 水深80m

採集船：魚津水産株式会社

採集方法：定置網

本種は神奈川県三浦・藤沢、三重県片田、高知県以布利、鹿児島県秋目・高山・内之浦に生息する（林, 2013a）。主な特徴は、腹鰭基部に1黒色斑があり、背鰭第1～第3棘間の鰭膜上に明瞭な黒斑があり、背鰭・臀鰭の鰭膜が全体に白く透明感がある（林, 2013a），また尾鰭は截形かわずかに丸みを帯びることである（岡本, 2018）。本個体は背鰭第1～第3棘間の鰭膜上の黒斑は不明瞭であったが、その他の特徴が一致したため本種に同定した。

本個体が富山湾初記録である。さらに本種は日本海からの報告は無く、日本海初記録と思われる。

テンジクダイ科 Apogonidae

テッポウイシモチ *Apogon kiensis*

カテゴリー：A



採集日：2014年1月16日（2個体）

採集地：魚津市経田沖

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

全長：55mm

本種は千葉県小湊～九州の太平洋沿岸、島根県敬川沖～九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海、東シナ海大陸棚域に生息する（林, 2013b）。主な特徴は、第1背鰭は6棘、体側中央の黒色縦帯は尾鰭後縁に達することで（林, 2013b），2個体とも同様の特徴を示した。

これらの個体が富山湾初記録である。

フウライイシモチ

*Apogon quadrifasciatus*

カテゴリー：A



採集日：2011年12月27日

採集地：魚津市経田沖水深60～70m

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

全長：62.5mm

本種は神奈川県佐島, 高知県高知, 長崎県天草, 熊本県八代海, 屋久島, 奄美大島, 慶良間諸島, 西表島, インド-西太平洋に生息する (林, 2013b). 主な特徴は, 第1背鰭は7棘, 体側に3本の暗色縦帯があり中央縦帯は尾鰭後縁に達し, 第2背鰭の後端基底部に1白色斑がなく, 体側腹側にある横帯は短くて数は13～15である (林, 2013b). 本個体は体側腹側の横帯は確認できなかつたが, その他の特徴が一致したため本種に同定した.

本個体が富山湾初記録である. さらに, 2012年12月12日にも魚津市経田沖の底引き網で1個体 (採集船: 第八好栄丸) が捕獲された.

ムツ科 Scombridae

クロムツ *Scombrops gilberti*

カテゴリー: B



採集日：2011年12月29日

採集地：魚津市沖

採集船：第8大皓丸

採集方法：刺網

本種は福島県, 房総半島東岸, 相模湾, 伊豆大島, 伊豆半島南東岸に生息する (林, 2013c). 主な特徴は, 側線有孔鱗数は59～70, 側線上方横列鱗数は8～9, 側線下方横列鱗数は14～17, 生時の成魚の体色は黒紫褐色で (林, 2013c), 本個体も同様の特徴を示した.

本種は近縁種であるムツと混同されており, 漁業関係者は区別していない. 富山湾ではムツの方が多くみられ, 本種は以前にも刺網などで捕獲されていたと考えられるが, これまで報告されておらず, 本個体が富山湾初記録である. さらに, 2012年4月21日に魚津市沖の刺網で2個体, 2012年6月13日に魚津市沖の刺網で1個体 (採集船: 第八松重丸) が捕獲された.

アジ科 Carangidae

ヒレナガカンパチ *Seriola rivoliana*

カテゴリー: A



採集日：2011年12月19日（2個体）

採集地：魚津市経田沖

採集者：有限会社藤吉水産

採集方法：定置網

本種は能登半島、山口県日本海沿岸、長崎県、八丈島、小笠原諸島、相模湾～九州南岸・屋久島の太平洋沿岸、鹿児島県笠沙、琉球列島に生息する（瀬能, 2013b）。主な特徴は、眼の中心は吻端を通る軸線より上で、眼を通る暗色斜走帶があり、第2背鰭の前部は鎌状、尾鰭下葉先端は白くないことで（瀬能, 2013b），これらの個体も同様の特徴を示した。

これらの個体が富山湾初記録である。さらに、2012年以降も魚津市沖の定置網などで毎年10月～1月に捕獲が確認されている。

モロ *Decapterus macrosoma*

カテゴリー：A



採集日：2012年1月18日（4個体）

採集地：富山・新潟県境沖

採集者：境市振定置網漁業組合

採集方法：定置網

本種は北海道～九州南岸・種子島の太平洋沿岸、山口県日本海沿岸、九州西岸・東シナ海大陸棚縁辺域、沖縄県那覇に生息する（瀬能, 2013b）。主な特徴は、脂瞼が発達し、

尾柄部に小離鰭があり、稜鱗の側線直走部の3/4を覆い、胸鰭先端は第2背鰭基部直下に届かないことと（瀬能, 2013b），尾鰭は全体が黄色く後縁が赤いことで（工藤, 2018b），本個体も同様の特徴を示した。

これらの個体が富山湾初記録である。さらに、2012～2014年の11月～1月に各数個体、2016年に1個体が富山県・新潟県境沖の定置網などで捕獲が確認されている。

クサヤモロ *Decapterus macarellus*

カテゴリー：A



採集日：2012年1月10日

採集地：入善町吉原沖

採集者：有限会社目合又大謀網

採集方法：定置網

本種は伊豆-小笠原諸島、青森県津軽海峡、相模湾～九州南岸・屋久島の太平洋沿岸、山口県日本海沿岸、鹿児島県笠沙、琉球列島、南大東島に生息する（瀬能, 2013b）。主な特徴は、脂瞼が発達し、尾柄部に小離鰭があり、稜鱗は側線直走部の後半分を占める（瀬能, 2013b），さらに体側中央には青色縦帶が走り、尾鰭は暗色がかった黄色、下葉前端は淡紅色・後端は黄色で（工藤, 2018a），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに2012年以降にも魚津市沖の定置網などで毎年多数の捕獲が確認されている。

テンジクアジ *Carangichthys oblongus*

カテゴリー：A



採集日：2013年10月29日

採集地：魚津市北中沖

採集者：高峯定置網組合

採集方法：定置網

背鰭条数：V III-I, 21

臀鰭条数：II-I, 19

本種は相模湾、高知県以布利、宮崎県延岡、山口県日本海沿岸、長崎県、鹿児島県笠沙・内之浦湾、沖縄島に生息する（瀬能, 2013b）。主な特徴は、脂瞼は未発達、稜鱗は側線直走部の全体にわたって発達し、背鰭と臀鰭の前部軟条は糸状に伸長、側線直走部は曲走部より長く、背鰭軟条数は20~22軟条で（瀬能, 2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

クロヒラアジ *Carangoides ferdau*

カテゴリー：A



採集日：2013年10月24日

採集地：富山湾

採集方法：定置網

本種は伊豆-小笠原諸島、相模湾～九州南岸の太平洋沿岸（相模湾、駿河湾では幼魚のみ）山口県日本海沿岸、鹿児島県笠沙、琉球列島に生息する（瀬能, 2013b）。主な特徴は、胸部無鱗域は腹鰭基部までしか達せず、体には幅が広い横向きに屈曲する暗色横帯があり、生鮮時黄色点はなく、吻長は眼径とほぼ同じで吻が丸いことで（瀬能, 2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに、2013年10月28日にも魚津市沖で1個体が捕獲された（採集船：第十二善雄丸、採集方法：刺網）。



シマガツオ科 *Bramidae*

ヒレジロマンザイウオ

*Taractichthys steindachneri*

カテゴリー：A



採集日：2013年1月21日

採集地：魚津市沖

採集者：第2淳伊丸

採集方法：刺網

本種は宮城県～土佐湾の太平洋沖、北海道日本海沿岸北部、津軽海峡、新潟県、山口県日本海沿岸、沖縄舟状海盆北東部、九州-パラオ海嶺に生息する（波戸岡・甲斐、2013）。主な特徴は、背鰭基部は鰓蓋上端より後方にあり、両眼間隔は著しく突出し、左右の腹鰭は比較的離れており、腹鰭基部は胸鰭基部上端より前方にあること（波戸岡・甲斐、2013），尾鰭後縁は白色、背鰭と臀鰭の前部は長く伸びることで（波戸岡、2018b），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに、2013年3月22日に魚津市経田沖の定置網で1個体（採集者：有限会社藤吉水産），2015年1月19日に魚津市北中沖の定置網で1個体（採集者：高峯定置網組合），2017年2月28日に魚津市北中沖の定置網で1個体（採集者：高峯定置網組合）が捕獲された。

チカメエチオピア *Eumegistus illustris*

カテゴリー：A



採集日：2013年3月25日

採集地：魚津市三ヶ沖

採集者：三和定置網組合

採集方法：定置網

本種は小笠原諸島、相模湾、土佐湾、沖縄島、沖縄舟状海盆北東部、九州-パラオ海嶺に生息する（波戸岡・甲斐、2013）。

主な特徴は、背鰭基部は鰓蓋上端より後方にあり、両眼間隔は著しく突出し、左右の腹鰭は比較的離れており、腹鰭基部は胸鰭基部上端より後方にあること（波戸岡・甲斐、2013），尾鰭後縁は成魚では2叉していることで（望月、1984），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

ヒメシマガツオ *Brama dussumieri*

カテゴリー：A



採集日：2013年1月28日（2個体）

採集地：滑川市北中沖

採集者：高峯定置網組合

採集方法：定置網

本種は相模湾～九州南方の黒潮流域、京都府舞鶴～長崎県五島列島の対馬暖流域、東シナ海、八重山諸島、九州-パラオ海嶺、沖ノ鳥島周辺海域に生息する（波戸岡・甲斐、2013）。主な特徴は、背鰭基部は鰓蓋上端より後方にあり、両眼間隔は著しく突出

し, 左右の腹鰭は接近しており, 体の縦列鱗数が 57~65 であることと (波戸岡・甲斐, 2013), 吻の背面は斜めで, 尾鰭の上葉が下葉より長いことで (波戸岡, 2018a), 2 個体とも同様の特徴を示した.

これらの個体が富山湾初記録である. さらに, 2016 年 12 月 12 日に滑川市三ヶ沖の定置網で 1 個体 (採集者: 魚津水産株式会社, 全長: 252 mm, 体長: 191 mm, 体高: 97 mm), 2017 年 2 月 13 日に入善町吉原沖の定置網で 1 個体 (採集者: 吉原目合又大謀網, 全長: 261 mm, 体長 199 mm, 体高: 94 mm) が捕獲された.

タイ科 Sparidae

キチヌ *Acanthopagrus latus*

カテゴリー: A



採集日: 2017 年 10 月 10 日

採集地: 魚津市住吉沖 水深 80m

採集者: 魚津水産株式会社

採集方法: 定置網

全長: 307.2 mm 体長: 246.1 mm

体高: 97.0 mm 体重: 446g

本種は岩手県角ノ浜, 千葉県外房~九州南岸の太平洋沿岸, 兵庫県浜坂~九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 濱戸内海, 小笠原諸島に生息する (林・萩原, 2013). 主な特徴は, 側線上方の背鰭棘条中央下横列鱗数

は 3.5 (大鱗が 3 枚と小鱗が 1 枚; 小鱗を 0.5 と記載), 体長は体高の 2.4 (2.3~2.5) 倍, 腹鰭と臀鰭は鮮黄色であることで (林・萩原, 2013), 本個体も同様の特徴を示した.

本個体が富山湾初記録である.

イスズミ科 Kyphosidae

ノトイズズミ *Kyphosus bigibbus*

カテゴリー: A



採集日: 2017 年 9 月 6 日

採集地: 魚津市青島沖

採集船: 仁光丸

採集方法: 刺網

全長: 191.2 mm 体長: 151.5 mm

体高: 68.3 mm 体重: 116g

本種は青森県平館, 宮城県石巻, 能登半島~九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県外房~九州南岸の太平洋沿岸, 屋久島, 琉球列島に生息する (中坊・土居内, 2013b). 主な特徴は, 背鰭軟条部は通常 12 軟条, 臀鰭軟条部は通常 11 軟条, 背鰭基底中央部・臀鰭基部で体の背縁と腹縁は折れまがらず, 吻先が短くやや丸いこと (中坊・土居内, 2013b), 生時の体側縦帯は濃茶色か褐色で (坂井, 2018), 本個体も同様の特徴を示した.

本個体が富山湾初記録である. 当館に搬入時は生きており飼育していたが, 2017 年 9 月 18 日に死亡したためホルマリン標本

として当館で保管している。

メジナ科 *Girellidae*  
クロメジナ *Girella leonina*  
カテゴリー：A



採集日：2015年1月15日

採集地：魚津市住吉沖

採集者：魚津水産株式会社

採集方法：定置網

本種は東北地方太平洋沿岸、千葉県外房～九州南岸の太平洋沿岸、青森県～島根県の日本海沿岸、九州北岸・西岸、屋久島、琉球列島、小笠原諸島に生息する（中坊・土居内, 2013c）。主な特徴は、上唇は薄く、鰓蓋の後縁は黒い、両顎歯は1列、側線有孔鱗数は57～65で（中坊・土居内, 2013c），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

オオメメダイ科 *Ariommataidae*  
ミナミメダイ *Ariomma brevimanum*  
カテゴリー：A



採集日：2013年10月15日

採集地：滑川市三ヶ沖

採集者：魚津水産株式会社

採集方法：定置網

全長：257.3 mm 体長：216.3 mm

頭長：58.9 mm 体高：57.3 mm

眼径：14.8 mm 背鰭条数：X-I, 15

臀鰭条数：II, 15

本種は神奈川県三崎、三重県志摩、和歌山県串本、土佐湾、豊後水道、熊本県天草、沖縄島に生息する（中坊・土居内, 2013a）。主な特徴は、吻端はかなり丸く、前上顎骨・主上顎骨のかなりの部分が皮膚と涙骨に覆われ、臀鰭軟条数は14～15軟条、眼は小さく頭長の1/4以下、頭部背面の有鱗域の先端は眼の後縁に達することで（中坊・土居内, 2013a），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録であり、ホルマリン標本にして当館で保管している。さらに本種は日本海からの報告は無く、日本海初記録と思われる。

ギンダラ科 *Anoplopomatidae*  
アブラボウズ *Erilepis zonifer*  
カテゴリー：A



採集日：2016年10月18日

採集地：魚津市沖水深約300m

採集船：第八松重丸

採集方法：刺網

全長：1490 mm 体高：410 mm 体重：61 kg

背鰭条数：XII-I, 16 胸鰭条数：18

本種は北海道～熊野灘の太平洋沿岸、津軽海峡、兵庫県香住に生息する（中坊・甲斐、2013a）。主な特徴は、背鰭棘は柔らかくて弱く、体は太短くほんのわずか側扁し、背鰭は2基で第1背鰭と第2背鰭は接近しており、第1背鰭は12～14棘であること（中坊・甲斐、2013a）、体は暗褐色で大きな白斑が散在することで（中坊、2018）、本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

カジカ科 Cottidae

フタスジカジカ *Icelinus japonicus*

カテゴリー：A



採集日：2017年2月1日

採集地：魚津市青島沖水深2.8m

採集者：木村知晴

採集方法：手網

全長：53.2 mm 体長：43.3 mm

体高：9.5 mm 体重：2.0g

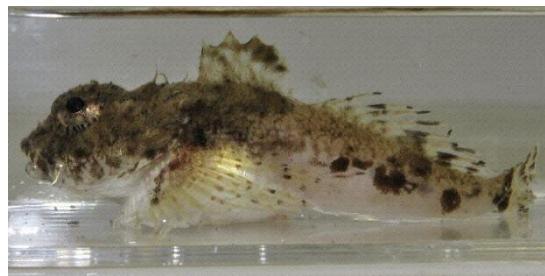
本種は青森県津軽海峡沿岸、新潟県佐渡、山形県、兵庫県香住、山口県瀬戸内海沿岸に生息する（中坊・甲斐、2013d）。主な特徴は、背側に2列の側線鱗とほぼ同大の鱗列があり第2背鰭後端よりも後方へ伸び、後頭部

に3対の皮弁があり、側線と背側の鱗列の櫛鱗以外に体側には鱗がないことで（中坊・甲斐、2013d）、本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。採集時には生きており飼育していたが、2017年3月27日に死亡したために3月28日に計測し、当館でホルマリン標本として保管している。

ニホンキンカジカ *Cottiusculus nihonkaiensis*

カテゴリー：B



採集日：2012年1月15日

採集地：魚津市経田沖

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

本種は北海道石狩湾・噴火湾、新潟県～九州北岸の日本海沿岸、朝鮮半島東岸、アニワ湾に生息する（中坊・甲斐、2013d）。主な特徴は、前鰓蓋骨最上棘後端は鉤状にならず、体の側線孔は尾鰭基底を超えて尾鰭上に達

し, 鼻棘の先端は通常単尖頭で, 側線孔の前方上方にいくつかの皮弁があることで (中坊・甲斐, 2013d), 本個体も同様の特徴を示した.

本種は従来キンカジカ *Cottusculus schmidti* とされてきたが, Kai & Nakabo (2009) により別種として記載された. キンカジカは 1986~1996 年に魚津市沖と富山市沖から 22 例の記録がある (魚津水族館, 1997). また, 2010~2011 年には魚津市沖でキンカジカによく似た種が複数匹捕獲され当館に搬入したが, 不明種として扱っていた. キンカジカの分布域は宮城県~福島県の太平洋沿岸とされており (中坊・甲斐, 2013d), 過去の富山湾でのキンカジカの記録はいずれも本種と考えられる.

本種は 2012 年以降も魚津市沖の底引き網漁などで数匹の捕獲が確認されている.

ニシキギンポ科 Pholidae

タケギンポ *Pholis crassispina*

カテゴリー: A



採集日: 2011 年 5 月 12 日

採集地: 魚津市三ヶ地先

採集者: 木村知晴

採集方法: 手網

本種はオホツク沿岸を除く北海道沿岸, 青森県~三重県英虞湾の太平洋沿岸, 青森県~九州北岸の日本海沿岸, 瀬戸内海・紀伊水道北部に生息する (波戸岡・萩原, 2013). 主な特徴は, 頭部に鱗があり, 眼の下に輪郭の明瞭な横帶があり, 尾鰭は全体が一様な褐色, 胸鰭は 11~13 軟条で (波戸岡・萩原, 2013), 本個体も同様の特徴を示した.

本個体が富山湾初記録である. なお, 本種は富山湾において過去に何度も捕獲されて当館で展示していたが, これまで報告はなかった. さらに, 魚津市の地先などで毎年多数が確認されている.

ネズッポ科 Callionymidae

ヤマドリ *Neosynchiropus ijimai*

カテゴリー: A



採集日：2016年11月10日

採集地：魚津市本町沖 水深5m

採集者：木村知晴

採集方法：手網

全長：38.8mm 体長：30.1mm 体高：5.0mm

体重：0.7g

本種は北海道積丹半島、新潟県佐渡、福井県常神半島、兵庫県香住、島根県隱岐・久村、山口県日本海沿岸、福岡県津屋崎、長崎県香焼、伊豆大島、八丈島、千葉県館山～高知県柏島の太平洋沿岸、愛媛県室手に生息する（中坊・土居内, 2013d）。主な特徴は、前鰓蓋骨棘基部に前向突起があり、眼上に1対の皮弁があることで（中坊・土居内, 2013d），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。採集時には生きており当館で飼育していたが、2016年12月24日に死亡したので計測を行った。さらに、2017年5月10日にも魚津市元町沖で1個体（採集者：木村知晴、採集方法：手網、全長：45.5mm、体長：34.9mm、体高：6.5mm、体重：1.3g）が捕獲された。

ホロヌメリ *Repomucenus virgis*

カテゴリー：A



採集日：2013年4月14日

採集地：魚津市経田沖

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

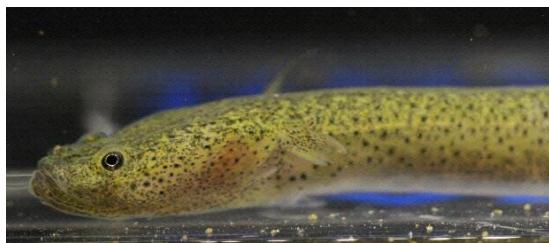
本種は青森県日本海沿岸、新潟県柏崎、若狭湾～長崎県の日本海沿岸、福島県小名浜～豊後水道の太平洋沿岸に生息する（中坊・土居内, 2013d）。主な特徴は、オス成魚の第1背鰭は著しく大きく、眼下管には外側に向かう分枝がないことで（中坊・土居内, 2013d），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

ハゼ科 Gobiidae

カマヒレミミズハゼ *Luciogobius* sp. 2

カテゴリー：A



採集日：2013年12月2日

採集地：魚津市北鬼江海岸

採集者：木村知晴

採集方法：手網

全長：47.8mm 体長：42.4mm 頭長：7.0mm

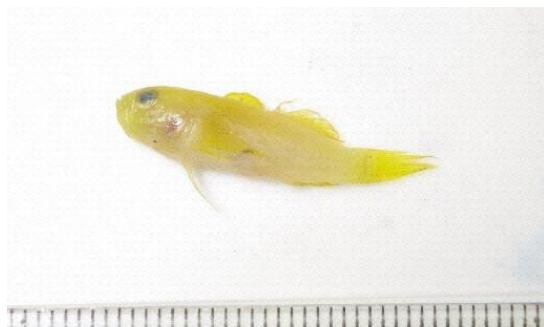
体高：3.7mm

本種は青森県津軽海峡沿岸、相模湾西部、伊豆半島西岸に生息する（明仁ら, 2013）。主な特徴は、体は細長く、背鰭は1基で基底が短く、眼は頭部の背面にあり、胸鰭上部に遊離軟条があり下部ではなく、胸鰭は上部の軟条が長く三角形で（明仁ら, 2013），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録であり、ホルマリン標本にして当館で保管している。さらに、2014年3月4日にも魚津市北鬼江海岸で1個体（採集者：木村知晴、採集方法：手網）が捕獲された。

ミジンベニハゼ *Lubricogobius exiguus*

カテゴリー：A



採集日：2014年1月15日

採集地：魚津市経田沖

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

全長：26mm

本種は千葉県館山湾～愛媛県室手の太平洋沿岸、兵庫県香住、福岡県津屋崎～鹿児島県笠沙の玄界灘・東シナ海沿岸に生息する（明仁ら, 2013）。主な特徴は、体に鱗がなく、口の後端は眼の中央下に達せず、鼻孔は2個、体側と頭部は一様に黄色で（明仁

ら, 2013），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

クロホシマンジュウダイ科 *Scatophagidae*

クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus*

カテゴリー：A



採集日：2012年1月13日

採集地：魚津市青島沖

採集船：仁光丸

採集方法：刺網

本種は秋田県潟上、新潟県関屋浜、石川県能登半島、兵庫県・山口県日本海側、長崎県、有明海、東京湾、大阪府泉南、伊予灘、高知県柏島・浦戸湾、愛媛県愛南、鹿児島県錦江湾南部、琉球列島に生息する（島田, 2013）。主な特徴は、側線は完全で尾柄まで達し、臀鰭棘数は4棘、左右の鰓膜は喉部で互いに癒合しており、体に多数の黒斑が散在することで（島田, 2013），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに、2015年9月15日に富山湾で1個体（全長：321mm, 体長：273mm, 体高：173mm, 頭長：77mm, 計測日：飼育後の2016年7月13日）が捕獲された。

カレイ科 Pleuronectidae

ナガレメイタガレイ *Pleuronichthys*

*japonicus*

カテゴリー：B



採集日：2012年1月13日

採集地：魚津市北中沖

採集者：高峯定置網組合

採集方法：定置網

本種は北海道～九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、岩手県～九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海西部、東シナ海大陸棚縁辺域に生息する（中坊・土居内, 2013e）。主な特徴は、有眼側の鰓孔上端は胸鰭上端とほぼ同じ高さで、両眼間に前方と後方とを向く骨性突起があり、鱗は円形でやや不規則配列をとり、有眼側の体の小黒斑は小円状または縁辺が滑らかな不定形で、頭部側線に分枝を持つことが多いことで（中坊・土居内, 2013e），本個体も同様の特徴を示した。

本種は従来、メイタガレイの類似種とされていたが、Suzuki et al. (2009) により新種として記載された。富山湾においては2012年以前にも捕獲されていたと考えられるが、メイタガレイと混同されていたためこれまで報告が無く、本個体が富山湾初記録である。本種は魚津市沖の定置網や刺網などで毎年多数の捕獲が確認されている。

フグ科 Tetraodontidae

ムシフグ *Takifugu exascurus*

カテゴリー：A



採集日：2012年6月9日

採集地：魚津市三ヶ沖

採集者：三和定置網組合

採集方法：定置網

本種は千葉県銚子、相模湾、伊豆大島、和歌山県白浜、新潟県佐渡、兵庫県浜坂九州西岸に生息する（山田・柳下, 2013b）。主な特徴は、尾鰭は湾入せず、鼻孔は2つで、背鰭は12～19軟条、臀鰭は10～16軟条、背・腹面の小棘は不連続で胸鰭後方には黒斑・鞍状斑がなく、体の模様は虫食い状で（山田・柳下, 2013b），本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。さらに、2013年5月11日に魚津市経田沖で定置網にて1個体（採集者：有限会社藤吉水産），2015年8月22日に魚津市沖の定置網で1個体が捕獲された。

アミメフグ *Takifugu reticularis*

カテゴリー：A





採集日：2013年1月28日（2個体）

採集地：魚津市北中沖

採集者：高峯定置網組合

採集方法：定置網

本種は兵庫県香住、東シナ海に生息する（山田・柳下, 2013b）。主な特徴は、背・腹面の小棘は連続しない、胸鰭後方の黒斑には白い縁取りがあり、背鰭は15~19軟条、体背面の斑紋は網目状で（山田・柳下, 2013b）、2個体とも同様の特徴を示した。

これらの個体が富山湾初記録である。さらに、2013年3月1日にも魚津市北中沖の定置網で1個体（採集者：高峯定置網組合）が捕獲された。

クロサバフグ *Lagocephalus gloveri*

カテゴリー：A



採集日：2012年6月9日

採集地：魚津市住吉沖

採集船：魚津水産株式会社

採集方法：定置網

本種は北海道～九州南岸の太平洋沿岸、能登半島、福岡県津屋崎、東シナ海に生息する（山田・柳下, 2013b）。主な特徴は、体背面の小棘域は通常胸鰭先端の前方までしか達せず、尾鰭は二重湾入形、尾鰭上下葉端は白いことで（山田・柳下, 2013b）。本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。

ハリセンボン科 *Diodontidae*

メイタイシガキフグ *Cyclichthys orbicularis*

カテゴリー：A



採集日：2012年9月26日

採集地：魚津市沖

採集方法：定置網

本種は佐渡島、能登半島、兵庫県浜坂、山口県日本海沿岸、伊豆半島、紀伊半島、高知県以布利、柏島、沖縄島に生息する（藍澤・土居内, 2013b）。主な特徴は、体の棘は短く不動性で、尾柄部背方に棘がなく、体の腹面には黒斑がないことで（藍澤・土居内, 2013b）。本個体も同様の特徴を示した。

本個体が富山湾初記録である。当館で飼育展示していたが、2013年9月26日に死亡したため、ホルマリン標本にして当館で保管している。さらに、2016年11月25日

にも魚津市経田沖の定置網で1個体（採集者：有限会社藤吉水産、体長：110.2 mm、体高：69.0 mm、体重：163.7 g）が捕獲された。

イガグリフグ *Cyclichthys spilostylus*  
カテゴリー：A



採集日：2014年12月15日

採集地：魚津市経田沖

採集船：第八好栄丸

採集方法：底引き網

全長：206 mm 体長：164 mm 体高：73 mm

体重：341g（計測日：2015年6月9日）

本種は、富山湾、高知県、石垣島、インド-西太平洋の熱帯域に生息するとされる（藍澤・土居内, 2013b）。主な特徴は、体にある棘は不動性で、尾柄部背方に棘がなく、体の腹面には棘の根元に瞳孔大の黒斑があることで（藍澤・土居内, 2013b），本個体も同様の特徴を示した。

藍澤・土居内（2013b）は本種の生息域に富山湾を含めているが、この記載は坂井ら（1991）の石川県庵およびMatsuura et al.（1993）の石川県佐々波での採集記録であり、富山県沿岸からは本個体が初記録である。当館に搬入時には生きていたが、2015年6月9日に死亡した。

## 備考 1

富山湾での採集や生息情報があるものの、標本や写真での確認ができず、今回の記載

を見送った未記録種10種を以下に記す。

ゾウカスベは2009年8月3日に魚津おさかなランドの競りで不破が現認している。

メバル属の一種（採集船：第8喜代丸）が2012年9月28日に滑川市笠木沖の刺網で1個体捕獲され、サンコウメヌケまたはオオサガのどちらかと判断された。両種は口腔内の色、両顎の歯帯の形、鋤骨・口蓋骨の形で識別されるが（中坊・甲斐, 2013b），本個体の記録は写真のみで口内を確認することができず、種の同定ができなかった。

ヒラスズキは富山市水橋において不破が釣りで採集している。

ギンガメアジは2012年10月9日に定置網で捕獲された個体を魚津おさかなランドの競りで木村が写真撮影しているが、採集者・採集場所が明確ではない。

ノトサイカイビクニンは2009年10月2日にカニ籠漁で捕獲され魚津港に水揚げされているが、採集地点は石川県能登半島沖の可能性が高いため、今回の報告には含めなかった。

ベニツケギンポおよびトビヌメリは過去に富山湾で捕獲され当館で飼育していたと稻村は記憶している。

イソハゼおよびイチモンジハゼは魚津市三ヶ沖で木村が潜水調査時に目視で確認し写真を撮影したが、両種とも近似種が多いため標本に基づく同定が必要である。

ナシフグは2011年10月13日に魚津おさかなランドの競りで水揚げされた個体を木村が写真撮影しているが、採集者・採集場所・採集方法が明確ではない。

以上の種は、改めて標本や写真に基づく確認が必要である。

## 備考 2

つぎに、詳細な報告ではないが、当館が確認した内容に基づいて掲載された新聞記事に写真や記録がある魚類 8 種を以下に記す。

イセゴイ *Megalops cyprinoides* は 1997 年 10 月 6 日に氷見市島尾沖の定置網で 1 個体捕獲された (北日本新聞, 1997c)。以後 2019 年 3 月までに 4 個体が確認されている。

ベンテンウオ *Pteraclis aesticola* は 1997 年 1 月 21 日に氷見市沖の定置網で 1 個体 (全長 56 cm, 体高 12 cm, 背鰭 40 cm, 臀鰭 32 cm) が捕獲され (北日本新聞, 1997a), 2014 年 11 月 28 日に富山市浜黒崎沖の定置網で 1 個体 (採集者: 深曳漁業生産組合, 全長: 56 cm) が捕獲された。

バラフエダイ *Lutjanus bohar* は 2005 年 12 月 7 日黒部市石田沖で 1 個体, 2008 年 11 月 17 日に魚津市沖の定置網で 1 個体 (全長: 約 60 cm) が捕獲された (北日本新聞, 2008)。

オキナヒメジ *Parupeneus spilurus* は 1997 年 7 月 16 日氷見市島尾沖の定置網で 1 個体 (全長: 20.8 cm) が捕獲された (北日本新聞, 1997b)。

アラスカビクニン *Careproctus colletti* は 1998 年 2 月 5 日に魚津市青島沖の刺網で 1 個体 (体長: 45 cm) が捕獲された (富山新聞, 1998)。

カゴカマス *Rexea prometheoides* は 1997 年 5 月 2 日に魚津市北鬼江沖の定置網で 1 個体 (採集者: 有限会社藤吉水産, 全長: 22.7 cm) が捕獲された (富山新聞, 1997)。

テングハギ *Naso unicornis* は 1997 年 7 月 14 日に入善町横山沖で 1 個体 (採集者: 板沢茂, 全長: 43 cm) が捕獲された (北陸中日新聞, 1997)。

## テングハコフグ *Ostracion*

*rhinorhynchos* は 1999 年 10 月 23 日に黒部市石田沖の定置網 (捕獲者: 黒部鷹野定置網, 全長 33.5 cm) で捕獲された (富山新聞, 1999)。

## まとめ

河野ら (2014) の日本海産魚類目録のリストに掲載されている富山湾産魚類 613 種に加えて、すでに富山湾において報告がある魚類としては、オンデンザメ *Somniosus pacificus* (伊串・稻村, 2015), テングノタチ *Eumecichthys fiski* (稻村・伊串, 2008), シマハナビラウオ *Psenes maculatus* (伊串・稻村, 2009b), オオミミズハゼ *Luciogobius grandis* (伊串・稻村, 2012), キビレカワハギ *Thamnaconus modestoides* (伊串・稻村, 2010b), ゴイシウマヅラハギ *Thamnaconus tessellatus* (伊串・稻村, 2010b), ウシマソボウ *Mola* sp. A (澤井ら, 2017) の 7 種がある。これらに備考 2 の新聞に記録がある 8 種を合わせ、分類が変更されたメバルとキンカジカの 2 種を除き、今回新たに確認した 48 種を加えると、文献上の記録がある富山湾産魚類は 674 種となる。

一方、稻村 (2017) は、日本海産魚類目録 (河野ら, 2014) のリストに掲載されている富山湾産魚類 613 種について、引用した文献記録の中に富山湾産としての出典が明らかでないものも多数含まれていたことから、その中で当館が実物を確認した種は 408 種と報告している。これを元に今回調査した結果を加えると、当館として確認した富山湾産魚類は 470 種となった。

つぎに、今回確認された中で種数が多かった科は、メバル科 6 種、アジ科 5 種、シマ

ガツオ科およびフグ科 3 種の順であった。メバル科はメバルが 3 種に分けられたことや、ウッカリカサゴやタヌキメバルのようにもともと富山湾に生息していたが近縁種と混同されていた種が多い。

一方、アジ科は暖海性の魚類が多く、今回新たに確認された 5 種全てが太平洋側から対馬暖流に乗って日本海に入り、富山湾まで回遊してきたものと推測される。日本海におけるアジ科魚類の増加は若狭湾周辺でも報告されており（松沼ら、2019），富山湾も同様の傾向であると考えられる。

このように、分類学的研究が進むことによって従来同種とされてきた種の中から新種が記載される例は今後も増えるものと考えられる。さらに、アジ科のように地球温暖化による海水温の上昇などの影響が考えられ、今後も新たに富山湾に来遊する暖海性の魚類の増加が予想される。これらの暖海性魚類の出現は一過性のものなのか、または継続的に出現し、さらには富山湾に定着するのかは興味深い。

以上のように、今後も新たに確認される魚類は増えるものと考えられるため、市場調査を継続するとともに、沿岸での生息調査を行って富山湾の魚類相の変化を記録していきたい。

なお、今回は富山湾から未報告の魚種に限定しており、河野ら（2014）の富山湾産魚類 613 種に記載されながら、稻村（2017）の当館確認魚類 408 種に含まれていない魚類 205 種についての確認情報は掲載していない。さらに、当館で過去に撮影された写真などの未発表資料もあり、さらに精査する必要がある。今後、それらを踏まえて、2019 年以降に確認した魚種も含めて、当館とし

て実物をもとに確認した富山湾産魚類リストを作る予定である。

## 謝辞

各種の魚類を提供して頂いた魚津漁業協同組合の皆様、魚津水産株式会社の皆様、第八好栄丸船長の田中智宏氏、仁光丸船長の山崎栄一氏、新湊漁業協同組合の皆様、黒部漁業協同組合の皆様、富山県水産研究所の皆様に深く感謝いたします。また、各魚の輸送や計測を手伝っていただいた魚津水族館職員の皆様に深謝いたします。

## 引用文献

- 藍沢正宏・土居内 龍. 2013a. シャチブリ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 410-411.
- 藍澤正宏・土居内 龍. 2013b. ハリセンボン科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1743-1745.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1347-1438.
- 浅野博利. 1984. イトアナゴ 解説. 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会. 29.
- 波戸岡 清峰. 2013a. ウミヘビ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 266-275.
- 波戸岡 清峰. 2013b. ハモ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 288.
- 波戸岡 清峰. 2013c. クズアナゴ科. 中坊

- 徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 292.
- 波戸岡 清峰. 2013d. ホタルジャコ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 750.
- 波戸岡 清峰. 2018a. ヒメシマガツオ. 中坊徹次編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説. 株式会社小学館. 株式会社小学館. 269.
- 波戸岡 清峰. 2018b. ヒレジロマンザイウオ. 中坊徹次編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説. 株式会社小学館. 269.
- 波戸岡 清峰・萩原清司. 2013. ニシキギンボ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1253.
- 波戸岡 清峰・甲斐嘉晃. 2013. シマガツオ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 905-908.
- 林 公義. 2013a. キントキダイ科. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 822-823.
- 林 公義. 2013b. テンジクダイ科. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 826-848.
- 林 公義. 2013c. ムツ科. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 871.
- 林 公義・萩原清司. 2013. タイ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 955-956.
- 北陸中日新聞. 1997. おでこにてんぐの鼻 珍魚「テングハギ」登場. 7月 16 日朝刊. 21.
- 細谷和海. 2013. サケ科. 中坊徹次編. 日本 産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 362-366.
- 伊串祐紀・稻村 修. 2009a. 魚津市沿岸で見られる魚類の季節変動－予備調査－. 魚津水族博物館年報第 19 号 : 53-55.
- 伊串祐紀・稻村 修. 2009b. 富山湾初記録 のシマハナビラウオ *Psenes maculatus*. 魚津水族博物館年報第 19 号 : 56.
- 伊串祐紀・稻村 修. 2010a. 2009 年富山湾沿岸における魚類相と季節変動. 魚津水族博物館年報第 20 号 : 44-54.
- 伊串祐紀・稻村 修. 2010b. 富山湾沿岸で捕獲されたカワハギ科魚類. 魚津水族博物館年報第 20 号 : 57-58.
- 伊串祐紀・稻村 修. 2012. 2010 年富山湾沿岸における魚類相. 魚津水族博物館年報第 21 号 : 34-37.
- 伊串祐紀・稻村 修. 2015. 富山湾で捕獲されたオンデンザメの初記録. 魚津水族博物館年報第 24 号 : 32-34.
- 稻村 修・伊串祐紀. 2008. 富山湾で捕獲されたテングノタチ. 魚津水族博物館年報第 18 号 : 36.
- 稻村 修. 2017. 富山湾の自然環境と魚類相. BIOSTORY vol. 26:32-38.
- Kai Y. • Nakabo T. 2002. Morphological differences among three color morphotypes of *Sebastes inermis* (Scorpaenidae). *Ichthyological Research*, 49 (3) :260-266.
- Kai Y. • Nakabo T. 2008. Taxonomic review of the *Sebastes inermis* species complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) . *Ichthyological Research*, 55 (3) :238-259.
- Kai Y. • Nakabo T. 2009. Taxonomic review

- of the genus *Cottiusculus* (Cottoidei: Cottidae) with description of a new species from the Sea of Japan. *Ichthyological Research*, 56 (3) :213-226.
- Katoh M. • Tokimura M. 2001. Genetic and morphological identification of *Sebastiscus tertius* in the East China Sea (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) . *Ichthyological Research*, 48 (3) :247-255.
- 河野光久・三宅博哉・星野 昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・忠鉢孝明・安澤 弥・池田 恵・大慶則之・木下仁徳・児玉晃治・手賀太郎・山崎 淳・森俊郎・長瀬達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・船木信一 . 2014. 日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告 第11号 : 1-30.
- 北日本新聞. 1997a. 氷見沖に南方から珍客. 1月 22 日朝刊. 22.
- 北日本新聞. 1997b. 南の海から珍魚続々 オキナヒメジやハナオコゼ. 7月 29 日朝刊. 24.
- 北日本新聞. 1997c. 富山湾に珍客・イセゴイ 初めて捕獲. 10月 7 日朝刊. 28.
- 北日本新聞. 2008. 南方の珍客ご用心 バラフエダイ. 12月 4 日朝刊. 22.
- 工藤孝浩. 2018a. クサヤモロ. 中坊徹次編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説. 株式会社小学館. 259.
- 工藤孝浩. 2018b. モロ. 中坊徹次編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説. 株式会社小学館. 259.
- 松沼瑞樹・内田喜隆・田城文人. 2019. オオクチイケカツオ *Scomberoides commersonianus* (アジ科) の山口県日本海沿岸からの記録および若狭湾とその周辺海域に出現するアジ科魚類目録. 魚類学雑誌, 66 (2) : 253-260.
- Matsuura K. • Sakai K. • Yoshino T. 1993. Records of two diodontid fishes, *Cyclichthys orbicularis* and *C. spilostylus*. Japan. *Ichthyological Research*, 40 (3) :372-376.
- 望月賢二. 1984. チカメエチオピア 解説. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会. 155.
- Muto N. • Kai Y. • Nakabo T. 2011. Genetic and morphological differences between *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Teleostei: Scorpaeniformes:Scorpaenidae) . *Fishery Bulletin*, 109 (4) :429-439.
- 中坊徹次編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定第三版. 東海大学出版会 : 1-2428.
- 中坊徹次. 2018. アブラボウズ. 中坊徹次編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説. 株式会社小学館. 343.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013a. オオメメダイ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 108, 118, 1084.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013b. イスズミ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1074-1075.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013c. メジナ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1077.

- 中坊徹次・土居内 龍. 2013d. ネズッポ 科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1331-1343.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013e. カレイ科. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1675-1676.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013a. ギンダラ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 94, 120, 1152.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013b. メバル科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 668-679.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013c. コチ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 734-737.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013d. カジカ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1160-1179.
- 南部久男. 2013. 文献による富山湾産魚類目録. 富山市科学博物館研究報告 第 37 号 : 153-162.
- 岡本 誠. 2018. ミナミキントキ. 中坊徹次編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説. 株式会社小学館. 246.
- 坂井恵一. 2018. ノトイズズミ. 中坊徹次編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説. 323.
- 坂井恵一・山本邦彦・徳武浩司・岡本 武・松村初男. 1991. 石川県の海産魚類. 動物園水族館雑誌, 33 (1) : 5-16.
- 澤井悦郎・山野上 祐介・木村知晴・稻村修. 2017. 日本海から 2 例目 (富山県初記録) のウシマンボウ. 魚類学雑誌, 64 (2) : 191-193.
- 瀬能 宏. 2013a. ナミノハナ科. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 645.
- 瀬能 宏. 2013b. アジ科. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 878-896.
- 島田和彦. 2013. クロホシマンジュウダイ科. 中坊徹次編. 日本産 魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1612.
- Suzuki S. • Kawashima T. • Nakabo T. 2009. Taxonomic review of East Asian Pleuronichthys (Pleuronectiformes: Pleuronectidae), with description of a new species. Ichthyological Research, 56 (3) :276-291.
- 富山新聞, 1997. 温熱帶域生息のカゴカマス 富山湾で初の捕獲. 5月3日朝刊. 23.
- 富山新聞, 1998. 富山湾内に北の珍魚「アラスカビクニン」刺し網にかかる. 4月8日朝刊. 25.
- 富山新聞, 1999. 富山湾に熱帶の「珍魚」テングハコフグ. 10月24日朝刊. 28.
- 津田武美. 1990. 原色日本海魚類図鑑. 桂書房. 1-612.
- 魚津水族博物館. 1997. 富山湾産魚類リスト および富山湾産希少魚類の採集記録. 1-79.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013a. ホウボウ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 720-726.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013b. フグ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会. 1728-1742.
- 山口敦子・青沼佳方・柳下直己・吉野哲夫. 2013. アカエイ科. 中坊徹次編. 日本産魚

類検索 全種の同定 第三版. 東海大学  
出版会. 220-222.  
山中智之・伊藤欣吾. 2014. 改訂青森県産魚  
類目録補訂- I . 青森県産業技術センター  
水産総合研究所研究報告, 8 : 1-10.

### 引用 URL

環境省. 2017. (魚類) 海洋生物レッドリスト  
(2017) .  
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/105233.pdf>. 2017年3月21日発表.

表1 2008年～2018年に富山湾で新たに確認された魚類一覧。

複数回記録がある種は5回以下の記録のみ記載した。※5回以上の記録がある種

科	種(個体数)	カテゴリー	確認日	場所	採集者・確認者	方法
アカエイ	カラスエイ(1)	A	2016.11.10	魚津市北中沖	高峯定置網組合	定置網
ウミヘビ	セレベスヒレアナゴ(1)	A	2013.4.14	魚津市経田沖	第8好栄丸	底引き網
ハモ	ホタテウミヘビ(1)※	A	2013.10.31	富山湾	富山県水産研究所	
クズアナゴ	スズハモ(1)	A	2018.3.26	富山新港 水深15m	棚田啓治	刺網
サケ	イトアナゴ(1)	A	2014.3.23	魚津市経田沖	第8好栄丸	底引き網
シャチブリ	マスノスケ(1)	A	2016.5.13	射水市新湊沖	招福丸	刺網
ナミノハナ	ナミノハナ(多數)	A	2014.8.25	射水市新湊沖 水深150～300m	第八松重丸	中層引き網
メバル	ウッカリカサゴ(1)※	B	2012.1.4	魚津市沖	幸洋丸	刺網
ホウズキ	ホウズキ(1)	A	2016.8.11	黒部市沖	不破光大	目視
シロメバル	シロメバル(1)	B	2016.8.20	滑川市笠木沖	第8大詰丸	刺網
タヌキメバル	タヌキメバル(1)※	B	2017.5.1	滑川市笠木沖	第8喜代丸	刺網
ホウボウ	オニカナガシラ(1)※	A	2017.10.10	魚津市沖	第8喜代丸	刺網
コチ	ワニゴチ(1)	A	2011.7.16	入善町吉原沖	第八松重丸	刺網
ムツ	ワニゴチ(1)	B	2011.7.9	魚津市沖	有限会社目合又大謀網	定置網
アジ	ワニゴチ(1)	B	2011.7.16	入善町吉原沖	第8大詰丸	刺網
ホタルジャコ	シロメバル(1)※	B	2011.7.2	魚津市沖	有限会社目合又大謀網	定置網
キントキダイ	タヌキメバル(1)※	B	2008.3.9	富山市岩瀬沖	第八松重丸	刺網
テンジクダイ	オニカナガシラ(1)※	A	2016.9.1	魚津市沖	不破光大	釣り
フウライシモチ	ワニゴチ(1)	A	2017.12.11	魚津市住吉沖 水深80m	第8大詰丸	刺網
ムツ	ワニゴチ(1)	B	2017.12.11	魚津市北中沖	魚津水産株式会社	定置網
アジ	スミクイオウ(1)	A	2018.3.5	魚津市住吉沖 水深80m	高峯定置網組合	定置網
ヒレナガカンパチ	ミナミキントキ(1)	A	2017.12.28	魚津市住吉沖 水深80m	魚津水産株式会社	定置網
モロ	テッポウイシモチ(2)	A	2014.1.16	魚津市経田沖 水深60～70m	魚津水産株式会社	定置網
クサヤモロ	フウライイシモチ(1)	A	2011.12.27	魚津市経田沖 水深60～70m	第8好栄丸	底引き網
クサヤモロ	フウライイシモチ(1)	A	2012.12.12	魚津市経田沖 水深60～70m	第8好栄丸	底引き網
シマガツオ	ヒレジロマンザイウオ(1)	A	2011.12.29	魚津市沖	第8大詰丸	刺網
ヒレジロマンザイウオ	ヒレジロマンザイウオ(1)	A	2011.12.19	魚津市経田沖	有限会社藤吉水産	定置網
ヒレジロマンザイウオ	ヒレジロマンザイウオ(1)	A	2012.1.18	富山・新潟県境沖	境市振定置網漁業組合	定置網
ヒレジロマンザイウオ	ヒレジロマンザイウオ(1)	A	2012.1.10	入善町吉原沖	有限会社目合又大謀網	定置網
チカメエチオビア(1)	ヒメシマガツオ(2)	A	2013.10.29	魚津市北中沖	高峯定置網組合	定置網
ヒメシマガツオ(1)	ヒメシマガツオ(1)	A	2013.10.24	富山湾	第十二善雄丸	定置網
ヒメシマガツオ(1)	ヒメシマガツオ(1)	A	2013.10.28	魚津市沖	第2淳伊丸	刺網
タイ	キチヌ(1)	A	2017.10.10	魚津市住吉沖 水深80m	有限会社藤吉水産	定置網
イスズミ	ノトイズズミ(1)	A	2017.9.6	魚津市青島沖	高峯定置網組合	定置網
メジナ	クロメジナ(1)	A	2015.1.15	魚津市住吉沖 水深80m	高峯定置網組合	定置網
オオメメダイ	ミナミメダイ(1)	A	2013.10.15	滑川市三ヶ沖	三和定置網組合	定置網
ギンダラ	アブラボウズ(1)	A	2016.10.18	魚津市沖 水深約300m	高峯定置網組合	定置網
カジカ	フタスジカジカ(1)	A	2017.2.1	魚津市青島沖 水深2.8m	魚津水産株式会社	定置網
ニホンキンカジカ(1)※	ヒメシマガツオ(1)	B	2012.1.15	魚津市経田沖	有限会社目合又大謀網	定置網
ニシキギンポ	タケギンポ(2)※	A	2012.1.15	魚津市三ヶ地先	魚津水産株式会社	定置網
ネズッポ	ヤマドリ(1)	A	2016.11.10	魚津市本町沖 水深5m	仁光丸	刺網
ハゼ	ヤマドリ(1)	A	2017.5.10	魚津市本町沖 水深6m	木村知晴	手網
カマヒレミミズハゼ	ホロヌメリ(1)	A	2013.4.14	魚津市経田沖	第8好栄丸	底引き網
カマヒレミミズハゼ	カマヒレミミズハゼ(1)	A	2013.12.2	魚津市北鬼江海岸	木村知晴	手網
ミジンベニハゼ(1)	カマヒレミミズハゼ(1)	A	2014.3.4	魚津市北鬼江海岸	木村知晴	手網
クロホシマンジュウダイ	ミジンベニハゼ(1)	A	2014.1.15	魚津市経田沖	第8好栄丸	手網
カレイ	クロホシマンジュウダイ(1)	A	2012.1.13	魚津市青島沖	仁光丸	刺網
フグ	クロホシマンジュウダイ(1)※	B	2015.9.15	富山湾	高峯定置網組合	定置網
メイタイシガキフグ	ナガレメイタガレイ(1)※	B	2012.1.13	魚津市北中沖	三和定置網組合	定置網
メイタイシガキフグ	ムシフグ(1)	A	2012.6.9	魚津市三ヶ沖	有限会社藤吉水産	定置網
メイタイシガキフグ	ムシフグ(1)	A	2013.5.11	魚津市経田沖	高峯定置網組合	定置網
メイタイシガキフグ	ムシフグ(1)	A	2015.8.22	魚津市沖	高峯定置網組合	定置網
メイタイシガキフグ	アミメフグ(2)	A	2013.1.28	魚津市北中沖	魚津水産株式会社	定置網
メイタイシガキフグ	アミメフグ(1)	A	2013.3.1	魚津市北中沖	高峯定置網組合	定置網
メイタイシガキフグ	クロサバフグ(1)	A	2012.6.9	魚津市住吉沖 水深80m	魚津水産株式会社	定置網
メイタイシガキフグ	メイタイシガキフグ(1)	A	2012.9.26	魚津市沖	有限会社藤吉水産	定置網
メイタイシガキフグ	メイタイシガキフグ(1)	A	2016.11.25	魚津市経田沖	第8好栄丸	底引き網
メイタイシガキフグ	イガグリフグ(1)	A	2014.12.15	魚津市経田沖		

# 富山県魚津市産アカハライモリのフグ毒性

門田信幸・草間 啓・稻村 修（魚津水族館）・山内望由季（広島大学生物生産学部）・  
松本拓也（県立広島大学地域創生学部）・浅川 学（広島大学大学院統合生命科学研究科）

The Toxicity of *Cynops pyrrhogaster* in Uozu city, Toyama Prefecture, Japan

Nobuyuki KADOTA Satoshi KUSAMA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

Miyuki YAMAUCHI

Faculty of Applied Biological Science Hiroshima University

Takuya MATSUMOTO

Faculty of Regional department, Prefectural University of Hiroshima

Manabu ASAOKAWA

Graduate School of Integrated Science for Life, Hiroshima University

## はじめに

フグの毒性に関する研究は古く、北九州産のフグが調査の始まりとされている（谷, 1945）。その後、1979年12月に静岡県でボウシュウボラ *Charonia sauliae* によるテトロドトキシン（以下、フグ毒と表記する）食中毒事件が発生するまでは、フグ毒はフグのみが持つ毒と考えられてきた。（成田・野口ら, 1981）。この事件を契機に無脊椎動物のフグ毒に対する研究が大きく進展し、多くの海洋生物からフグ毒が発見された（成田, 1988）。

一方、陸上生物におけるフグ毒は、1964年にカリフォルニアイモリ *Taricha torosa* からの発見が最初で、日本産両生類については沖縄県に生息するシリケンイモリ *Cynops ensicauda* (Wakely ら, 1966) と長崎県産・佐賀県産（以下、九州産と表記する）のアカハライモリ *C. pyrrhogaster* が知られている（野口・鶴田, 1998）。アカハライモリ

*C. pyrrhogaster* は、本州・四国・九州およびその周辺の島嶼（とうしょ）に分布し、小川・水田・池などの流れの穏やかな水中や付近の陸上に生息している。

今回、富山県魚津市で採集した（以下、魚津産と表記する）アカハライモリのフグ毒性について調査を行ったので報告する。

## 毒性試験

フグ毒の定量は、マウス毒性試験法(食品衛生検査指針, 1991)により行った。採集した魚津産アカハライモリを部位ごとに細断し、0.1%酢酸を加えてホモジナイズを行い沸騰水浴中で10分間加熱する。冷却後に遠心分離を行い、上清1mLをddY系マウス(体重18-20gのオス)の腹腔内に投与し、致死時間30分で死亡させる毒量を1MU/gと定義した。

## 採集場所と採集個体

調査は、2014年5月と2015年6月の計2日間で行った。採集には、大きさ20cm×30cmで目合い1mmと10mmメッシュの手ダモを用いた。採集場所は、富山県の県東部に位置する魚津市内の小川寺（写真1）と鉢のため池（写真2）、松倉：河内池（写真3）、松倉：休耕田（写真4）の計4地点で、日中と夜間に採集を試みたが、採集できたのは主に夜間であった。

採集した個体は合計で41個体（オス15個体、メス26個体）であった。



（写真1）小川寺

小川寺では林道わきの用水で採集を行った。底質は泥でヤゴやオタマジャクシが見られた。この地点からは16個体（オス5個体、メス11個体）を採集した。



（写真2）鉢のため池

鉢の調査地点はため池で、周辺の大部分は雑草や木に覆われていた。底質は泥で、イモリ以外の生物は見られなかった。この地点からは10個体（オス6個体、メス4個体）を採集した。



（写真3）松倉：河内池

人工池で底質は泥と砂利の混合であり、錦鯉の他にヤゴやゲンゴロウ等の水生昆虫、ツチガエルが生息していた。今回の調査地点の中では、生物相が一番豊かな場所であった。この地点からは5個体（オス2個体、メス3個体）を採集した。



（写真4）松倉：休耕田

休耕田は雑草に覆われ、地面には大きな水たまりができるおり底質は泥であった。この場所からは4地点で唯一、日中にアカハライモリが採集できた。この地点からは10個体（オス2個体、メス8個体）を採集

した。

## 結果と考察

採集地点ごとの有毒率を表1に示した。有毒率は、皮・筋肉・内臓のいずれかの部位に毒性が認められた有毒個体数を基に算出した。有毒率が一番高かった地点は松倉の河内池と鉢のため池で、有毒率は80%であった。雌雄別でみると、鉢のため池以外の3地点でメスがオスと比べて有毒率が高い結果となった。

本研究で採取した魚津産オス15個体、メス26個体における部位別毒性の平均毒量および標準偏差を表2に示した。まず、雌雄とも平均値では内臓に比べて筋肉と皮に強い毒性を示した。フグでは種によって部位や毒性の強弱はあるものの、一般的に内臓に強い毒性を示し、筋肉は無毒の種が多い。これに対してアカハライモリはフグとは異なり、皮や筋肉に高い毒性が認められたことが特徴的といえる。また、雌雄で比較した場合、各部位の毒性の最高値はメスに現れた。

つぎに魚津の結果と野口・鶴田(1998)が報告した九州産オス55個体、メス55個体の平均毒性および標準偏差(表3)を比較すると、全体的に魚津産の毒量は九州産より低い数値を示したが、メスに強い毒性を示すこと、皮や筋肉に特に高い毒性が認められたことは同様であった。また、内臓に関して、九州産では生殖巣(卵巢)は高い毒性を示している(表3)が、魚津産は内臓全体で毒性試験を行ったため九州産より低い結果になったと推測された。

フグでは卵巢に強い毒性があることが知られている。また、フグ毒をもつ富山湾産のトゲモミジガイの通年調査では、繁殖期

前である5~6月に毒性が強く、産卵後の7~8月に減少していくことがわかっている(門田・成田ら, 2008)。アカハライモリの卵巢の毒性についても産卵との関係がある可能性があり、今後の魚津産のアカハライモリでも季節的な毒量の変化が課題の一つである。

つぎに魚津の4地点の個体ごとの毒量をグラフ1-4に示した。全体的に低い毒量であったが、皮・筋肉・内臓の中で、内臓の毒量は一番低い結果となった。採集個体数が一番多かった小川寺では、雌雄とも約半数が有毒個体であった。逆に採集個体数が一番少なかった鉢のため池は、全調査地点において唯一、雄個体の有毒率が高く、また強い毒性を示した場所であった。また小川寺と鉢のため池からは、各1個体ずつではあるが強い毒性を示した個体が出現したことから、毒性の個体差が大きいことが判明した。アカハライモリの毒化の由来やメカニズムについては不明であるが、産地や個体によって毒化する部位や毒量が大きく異なることが注目される。

フグにおいても毒の由来については未知な部分が多く、現在のところ細菌由来とされ、他動物からの食物連鎖により毒が蓄積されると考えられている(橋本, 1985)。しかし、富山湾産トゲモミジガイでは餌として胃内に多く見られた微小貝を別に採集し毒性試験を行ったがフグ毒は検出されなかった(門田・成田ら, 2008)。

また、アカハライモリについても、胃内容物からは毒が検出されていない(野口・鶴田, 1988)。アカハライモリの食性について、幼生ではミジンコ類・小型貝類・水生昆虫等を捕食し、陸上生活もする成体は昆

虫類や土壤動物、特にダニ類を捕食することが知られているが（伊原、2014）、それぞれの餌生物の毒性は調べられていない。

今回の研究では魚津産のアカハライモリも毒化することはわかつたが、内臓ではなく筋肉や皮に強い毒性を示した理由や毒の由来までは不明であった。

今後は富山県におけるアカハライモリの食性や毒量を季節的に調査するとともに、餌生物や周辺生物などの生息環境も調べてアカハライモリの毒化機構の解明に繋げていきたい。

### 引用文献

谷 巖.1945.日本産フグの中毒学的研究.帝国図書、東京。

Narita, H. , Noguchi, T. , Maruyama, J. , Ueda, Y. , Hashimoto, K. , Watanabe, Y. , Hida, K.

1981. Occurrence of tetrodotoxin in a trumpet shell , " Boushubora " *Charonia sauliae*. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries. 47, 935-941.

成田弘子. 1988. フグ毒研究の最近の進歩. 橋本周久編. 45-52. 恒星社厚生閣、東京。

Waker, J. F. , Fisher, G. J. , Fuhrman, F. A. , Fischer, H. G. and Mosher, H. S. 1966. The occurrence of tetrodotoxin (taricyatoxin) in amphibian and the distribution of the toxin in the organs of newts (Taricha). Toxicon 3, 195-203.

食品衛生検査指針 理化学編 1. フグ毒 (社) 日本食品衛生協会 pp.296-300(1991).

野口玉雄、鶴田和美. 1998. イモリの黒焼きの有効成分とフグ毒との関わり. 遺伝 52(4). 72-77.

門田信幸, 成田弘子, 村上りつ子, 野口玉雄 2008.

富山湾産 *Astropecten* 属ヒトデ類の毒性. 食品衛生学雑誌. 49(6). p.422-427.

伊原貞雄. 2014(2). イモリの食性. 特集：日本の両生類・爬虫類の食性. 爬虫両棲学会報. 128-134.

橋本周久. 1985. 文部省総研A（重要貝類の毒化機構とその有毒成分に関する研究）研究成果報告書, 129pp.

表 1 採集場所の有毒率

採集場所	雌雄別有毒率(%)		全体の有毒率(%)
	オス	メス	
小川寺	45.5(5/11)	54.5(6/11)	68.8(11/16)
鉢のため池	62.5(5/8)	37.5(3/8)	80.0(8/10)
松倉:河内池	25(1/4)	75(3/4)	80.0(4/5)
松倉:休耕田	16.7(1/6)	83.3(5/6)	60.0(6/10)

表 2 魚津産アカハライモリの部位別毒量

部位	オス		メス	
	範囲	平均値±標準偏差	範囲	平均値±標準偏差
皮	0-34.3	8.9±10.1	0-146.9	10.8±28.4
筋肉	0-81.3	11.1±20.7	0-93.7	7.6±18.3
内臓	0-18	3.2±4.4	0-54.4	3.1±10.5

表 3 九州産アカハライモリの部位別毒量

部位	オス		メス	
	範囲	平均値±標準偏差	範囲	平均値±標準偏差
皮	4.1-190	65.5±53.8	0-340	67.0±84.9
筋肉	1.7-160	42.6±46.0	0-220	49.9±71.8
肝臓	0-10	3.90±4.15	0-7.7	3.14±3.23
胃	0-23	5.23±7.44	0-20	13.9±12.9
腸	0-38	7.90±13.0	0-7.9	2.60±3.59
生殖腺	0-9.4	1.12±2.60	2.1-71	11.3±18.2

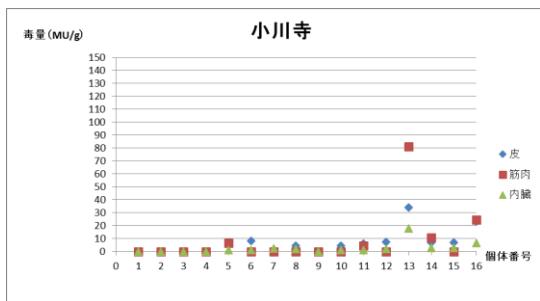


図1 小川寺で採取したアカハライモリの毒性

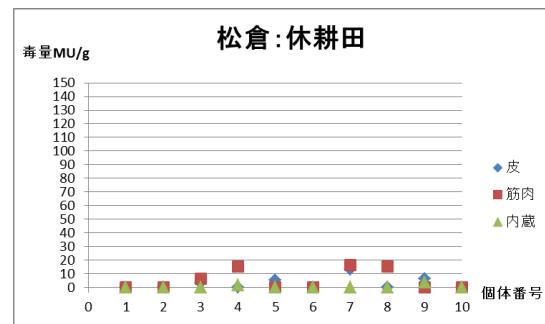


図4 松倉:休耕田で採取したアカハライモリの毒性

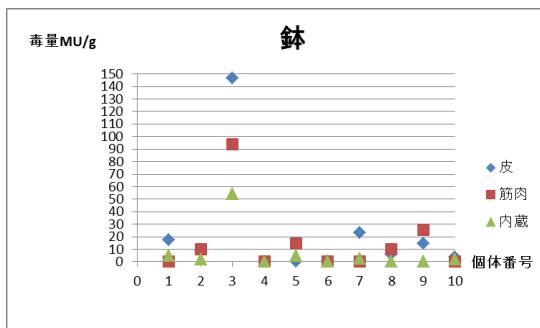


図2 鉢のため池で採取したアカハライモリの毒性

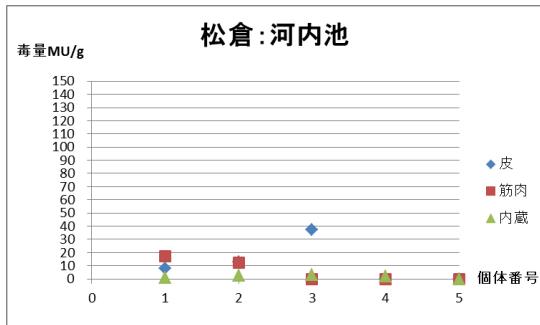


図3 松倉:河内池で採取したアカハライモリの毒性

## 13. 広報活動

### ①テレビ・ラジオ等の取材

日付	放送局	内容
平成30年4月4日（水）	NICE TV	ホタルイカ写真水槽・オリジナル缶バッジパート2・キッズコーナー金魚
平成30年4月9日（月）	KNBテレビ	ホタルイカ・ダイバー・アザラシ
平成30年4月13日（金）	富山テレビ チューリップテレビ KNBテレビ	オオグチボヤ
平成30年4月13日（金）	NHK富山	ホタルイカ
平成30年4月14日（土）	KNBラジオ	ヒレアシ甲子園「ミミ」
平成30年4月16日（月）	とやまソフトセンター	オオグチボヤ
平成30年4月18日（水）	NHK富山	オオグチボヤ
平成30年4月20日（金）	富山テレビ	新人紹介
平成30年4月24日（火）	とやまソフトセンター	田植え
平成30年4月26日（木）	富山シティエフエム	魚津水族館について
平成30年5月4日（金）	富山テレビ	GWについて
平成30年5月14日（月）	TGC TOYAMA2018 SPECIALMOVIE「富山で休もう」動画	東京ガールズコレクション
平成30年5月16日（木）	KNBラジオ	フンボルトペンギン
平成30年5月17日（金）	マイフェバJR	魚津水族館について
平成30年5月21日（月）	富山テレビ KNBテレビ	富岩運河魚類観察会
平成30年5月25日（金）	ラジオミュー	ペンギン雛
平成30年6月5日（火）	とやまソフトセンター	アザラシ、ペンギンプール日除け設置
平成30年6月8日（土）	NICE TV ラジオミュー	七夕展
平成30年6月8日（土）	ジャンプコーポレーション	ダイオウイカ
平成30年6月10日（日）	富山テレビ	スナガニ野外観察会
平成30年6月12日（火）	NHK富山	七夕展
平成30年6月13日（水）	富山テレビ NHK富山 テレビ朝日 NICE TV KNBテレビ	住吉小のヤゴ救出
平成30年6月14日（木）	KNBテレビ	色変わりカエル
平成30年6月18日（月）	とやまソフトセンター	七夕展
平成30年6月19日（火）	ラジオミュー	七夕展
平成30年6月20日（水）	フリーライター高木さん	色変わりカエル
平成30年6月21日（木）	KNBラジオ	色変わりカエル
平成30年6月22日（金）	チューリップテレビ、KNBテレビ	ペンギン巣立ち
平成30年6月26日（火）	とやまソフトセンター	メダイ、アカグツ
平成30年6月26日（火）	とやまソフトセンター NHK富山	ペンギン雛巣立ち
平成30年7月25日（水）	NHK富山	淡水カメ調査
平成30年8月18日（土）	とやまソフトセンター	七タイベント
平成30年8月26日（日）	富山テレビ KNBテレビ チューリップテレビ	うおい×ネット富山バックヤードツアーヒカリキンメダイ
平成30年8月28日（日）	ラジオミュー	ハロウイン
平成30年9月25日（火）	ラジオミュー	アオリイカ展示
平成30年9月28日（金）	NHK富山	ハロウイン
平成30年10月4日（木）	ラジオミュー	アオリイカ
平成30年10月17日（水）	ラジオミュー	ハロウイン展
平成30年10月18日（木）	KNBラジオ	クリスマス展
平成30年11月15日（木）	ラジオミュー	死滅回遊魚
平成30年11月15日（木）	KNBラジオ	クリスマス展
平成30年11月19日（月）	ラジオミュー	クリスマス展
平成30年11月27日（火）	NICE TV	クリスマス展
平成30年12月18日（火）	富山テレビ	お正月番組めでたい生物

日付	放送局	内容
平成30年12月20日 (木)	KNBテレビ	クリスマス展、イシガキフグ
平成31年1月8日 (火)	富山テレビ チューリップテレビ KNBテレビ とやまソフトセンター	マメダコ
平成31年1月11日 (金)	チューリップテレビ	ニッポンど真ん中！ロケ
平成31年1月20日 (日)	チューリップテレビ	リュウグウノツカイ
平成31年1月24日 (木)	チューリップテレビ	ヤドクガエル、スジイカ
平成31年1月29日 (火)	ラジオミュー	ウマヅラハギ
平成31年2月1日 (金)	CNN NICE TV 富山テレビ KNBテレビ チューリップテレビ	リュウグウノツカイ
平成31年2月2日 (土)	NHK富山 チューリップテレビ	リュウグウノツカイ
平成31年2月5日 (火)	チューリップテレビ	リュウグウノツカイ
平成31年2月22日 (金)	富山テレビ NICE TV	アカナマダとリュウグウノツカイ
平成31年2月23日 (土)	KNBテレビ	アカナマダとリュウグウノツカイ
平成31年2月26日 (火)	新川ソフトセンター 富山テレビ チューリップテレビ NHK富山 KNBテレビ	リュウグウノツカイ
平成31年2月26日 (火)	ラジオミュー	ホテイウオとリュウグウノツカイ
平成31年2月27日 (水)	NHKテレビ	リュウグウノツカイ
平成31年3月18日 (月)	NHKテレビ	ホタルイカ
平成31年3月21日 (木)	KNBラジオ	ホタルイカ
平成31年3月25日 (月)	ラジオミュー	企画展「カニカニクラブ」
平成31年3月31日 (日)	富山テレビ	国際大附属高校プラゴミ削減イベント

## ② 新聞・雑誌等の掲載

日付	掲載紙	内容	日付	掲載紙	内容
平成30年4月2日（月）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ザラビクニン	平成30年6月26日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ハクバサンショウウオ
平成30年4月3日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 コオニヤンマ	平成30年6月26日（火）	富山新聞	魚津のダルマ金魚
平成30年4月4日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 クロサンショウウオ	平成30年6月27日（水）	富山新聞	新たな仲間メダイ、アカグツ
平成30年4月4日（水）	富山新聞	紅白金魚展示	平成30年6月27日（水）	北日本新聞	富山湾から新入りアカグツ、メダイ
平成30年4月5日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 トヤマヤツデヒトデ	平成30年6月28日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ハイケボタル
平成30年4月5日（木）	北日本新聞	紅白金魚展示	平成30年6月29日（金）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アメフラシ
平成30年4月10日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 コオニヤンマ	平成30年7月1日（日）	北日本新聞	うおづ水辺の調査隊活動開始
平成30年4月12日（木）	北日本新聞	ヒレアシ甲子園にミミ	平成30年7月4日（水）	読売新聞	アカグツ展示
平成30年4月14日（土）	北日本新聞	オオグチボヤ展示	平成30年7月16日（月）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 モリアオガエル
平成30年4月15日（日）	読売新聞	オオグチボヤ展示	平成30年7月16日（月）	北日本新聞	「ろーにー」似顔絵&ねんど教室
平成30年4月17日（火）	富山新聞	写真水槽にニシキゴイ	平成30年7月17日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ウキゴリ
平成30年4月21日（土）	北日本新聞	ヒレアシ甲子園にミミ	平成30年7月18日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ショウジョウトンボ
平成30年4月23日（月）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ホタルイカ	平成30年7月19日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 サザエ
平成30年4月24日（火）	北陸中日新聞	ホタルイカ発光実験	平成30年7月20日（金）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ゴマフアザラシ
平成30年4月24日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ミナミアカヒレタビラ	平成30年7月21日（土）	富山新聞	紙アクリウム 魚の絵泳ぐ
平成30年4月25日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 サケガシラ	平成30年7月25日（水）	北日本新聞	紙アクリウム 描いた魚泳いだ！
平成30年4月25日（水）	富山新聞	シャチブリ捕獲	平成30年7月25日（水）	富山新聞	淡水カメ生息調査
平成30年4月25日（水）	北日本新聞	田んぼの生物多様性コーナーで田植え	平成30年7月29日（日）	北日本新聞	ライブペイント 水槽に描こう
平成30年4月25日（水）	北日本新聞	シャチブリ展示	平成30年8月5日（日）	北日本新聞	ヒカリキンメダイ展示
平成30年4月25日（水）	北陸中日新聞	田んぼの生物多様性コーナー「てんたかく」	平成30年8月6日（月）	富山新聞	魚津水族館長
平成30年4月26日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ドジョウ	平成30年8月7日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ゴンズイ
平成30年4月27日（金）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 シロエビ	平成30年8月8日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ウミホタル
平成30年5月6日（日）	北陸中日新聞	トンネル水槽	平成30年8月9日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ウミサボテン
平成30年5月9日（水）	北日本新聞	コオイムシ展示	平成30年8月9日（木）	北日本新聞	夏枯れ希少種の魚守れ
平成30年5月14日（月）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 メダカ	平成30年8月10日（金）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 マツカサウオ
平成30年5月15日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 コオイムシ	平成30年8月16日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 オオミミズハゼ
平成30年5月16日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ノロゲンゲ	平成30年8月19日（日）	北日本新聞	願いをかなえるイベント
平成30年5月17日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 クロダイ	平成30年8月27日（月）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 サンゴタツ
平成30年5月17日（木）	北日本新聞	とやま紀行 魚津水族館	平成30年8月27日（月）	富山新聞	水族館の裏側潜入
平成30年5月18日（金）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 カエルの鳴き声	平成30年8月27日（月）	北日本新聞	水族館の裏側潜入ツアー
平成30年5月19日（土）	読売新聞	ホタルイカフィギュア人気	平成30年8月28日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 鰐（タラ）
平成30年5月19日（土）	北日本新聞	人気投票ゴマフアザラシ1位	平成30年8月29日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 イシダイ
平成30年5月19日（土）	読売新聞	人気投票ゴマフアザラシV	平成30年8月30日（木）	北陸中日新聞	ニホンシガメ発見
平成30年5月19日（土）	富山新聞	水族館人気投票	平成30年8月30日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ミズクラゲ
平成30年5月22日（火）	北陸中日新聞	富岩運河魚類観察会	平成30年8月31日（金）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アオリイカ
平成30年5月22日（火）	富山新聞	富岩運河魚類調査	平成30年9月1日（土）	富山新聞	ニホンシガメ確認
平成30年6月4日（月）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アカクラゲ	平成30年9月4日（火）	北陸中日新聞	いきもの観察会
平成30年6月5日（火）	北日本新聞	ベンギンプールにすだれ取り付け	平成30年9月4日（火）	北日本新聞	富岩運河で調査会
平成30年6月5日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 スナガニ	平成30年9月13日（木）	北日本こども新聞	魚津水族館まんが
平成30年6月6日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 色変わりガエル	平成30年9月18日（火）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アキアカネ
平成30年6月7日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ナマズ	平成30年9月18日（火）	富山新聞	あつまれ！おねんどキッズ
平成30年6月9日（土）	北日本新聞	七夕展	平成30年9月19日（水）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ナベカ
平成30年6月14日（木）	富山新聞	住吉小プールの生き物「救出作戦」	平成30年9月20日（木）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ミシシッピアカミミガメ
平成30年6月14日（木）	北日本新聞	住吉小水中の生き物救出	平成30年9月21日（金）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 サケ
平成30年6月14日（木）	富山新聞	色変わりカエル展示	平成30年9月22日（土）	富山新聞	魚津水族館105歳 お祝い動画撮影
平成30年6月14日（木）	北日本新聞	色変わりカエル展示	平成30年9月23日（日）	北日本新聞	貝殻をストラップに
平成30年6月16日（土）	北日本新聞	魚津ルーツ金魚「福ダルマ」展示	平成30年10月1日（月）	北日本新聞	富山湾大水槽にかぼちゃダイバー登場
平成30年6月16日（土）	読売新聞	突然変異珍しいカエル展	平成30年10月4日（木）	富山新聞	うおすいハロウイン
平成30年6月24日（日）	北日本新聞	フンボルトベンギンひな元気な姿	平成30年10月5日（金）	北陸中日新聞	ホティウオとザラビクニンの赤ちゃん展示
平成30年6月25日（月）	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アユ	平成30年10月7日（日）	北陸中日新聞	アオリイカ展示

日付	掲載紙	内容	日付	掲載紙	内容
平成30年10月 8日 (月)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アジメドジョウ	平成31年 1月18日 (金)	北日本新聞	缶バッジに新シリーズ
平成30年10月 8日 (月)	北陸中日新聞	魚津水族館 缶バッジ新シリーズ	平成31年 1月19日 (土)	北陸中日新聞	人気ショーアップ
平成30年10月 8日 (月)	北日本新聞	癒しの深海ペイペイ ザラピクニン、ホテイウオ	平成31年 1月21日 (月)	富山新聞	リュウグウノツカイ展示
平成30年10月10日 (水)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 カジカ	平成31年 1月21日 (月)	北日本新聞	リュウグウノツカイ標本に
平成30年10月11日 (木)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 タガイ	平成31年 1月23日 (水)	北陸中日新聞	リュウグウノツカイ436.5cm
平成30年10月11日 (木)	北日本新聞	田んぼのいきもの図鑑第2集発売	平成31年 1月25日 (金)	北日本新聞	富山湾に珍客スジカ、標本に
平成30年10月12日 (金)	北陸中日新聞	カボチャダイバー、お菓子の家水槽	平成31年 1月25日 (金)	北陸中日新聞	スジカの標本初展示
平成30年10月12日 (金)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 キトンボ	平成31年 1月28日 (月)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 タナカゲンゲ
平成30年10月15日 (月)	読売新聞	仕事びと 西馬和沙	平成31年 1月29日 (火)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ダウリアチョウザメ
平成30年10月29日 (月)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ハリセンボン	平成31年 1月29日 (火)	読売新聞	リュウグウノツカイ次々と
平成30年10月30日 (火)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 リーフフィッシュ	平成31年 1月29日 (火)	富山新聞	リュウグウノツカイまた捕獲
平成30年10月31日 (水)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 カワヨシノボリ	平成31年 1月29日 (火)	北日本新聞	リュウグウノツカイ展示へ
平成30年11月 1日 (木)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 チンアナゴ	平成31年 1月29日 (火)	北陸中日新聞	リュウグウノツカイ394.8cm
平成30年11月 2日 (金)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ツチガエル	平成31年 1月30日 (水)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 オオエッチュウバイ
平成30年11月 5日 (月)	北日本新聞	富岩運河で生き物調査	平成31年 1月31日 (木)	富山新聞	リュウグウノツカイ今月4匹目
平成30年11月11日 (日)	北日本新聞	うおづ水辺の調査隊発表会	平成31年 1月31日 (木)	北陸中日新聞	リュウグウノツカイ年度5例目
平成30年11月18日 (日)	北日本新聞	クリスマス企画続々	平成31年 2月 2日 (土)	富山新聞	富山湾で深海漁調査
平成30年11月19日 (月)	北陸中日新聞	トナカイダイバー登場	平成31年 2月 2日 (土)	富山新聞	またまたリュウグウノツカイ
平成30年11月19日 (月)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ベニズワイガニ	平成31年 2月 2日 (土)	北日本新聞	リュウグウノツカイ7匹目
平成30年11月20日 (火)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アユカケ	平成31年 2月 2日 (土)	北陸中日新聞	リュウグウノツカイ続々確認
平成30年11月21日 (水)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ギンヤンマ	平成31年 2月 3日 (日)	富山新聞	リュウグウノツカイ触れる展示
平成30年11月22日 (木)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アメンボ	平成31年 2月 3日 (日)	読売新聞	リュウグウノツカイ展示
平成30年11月23日 (金)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アカムツ	平成31年 2月 8日 (金)	読売新聞	いきもの日誌 ウマヅラハギ
平成30年11月23日 (金)	北日本新聞	波の水槽に400匹	平成31年 2月 9日 (土)	富山新聞	アミダコ28年ぶり確認
平成30年11月24日 (土)	読売新聞	トナカイダイバー	平成31年 2月 9日 (土)	北日本新聞	アミダコ28年ぶり捕獲
平成30年11月24日 (土)	富山新聞	水槽にトナカイ登場	平成31年 2月 9日 (土)	北陸中日新聞	アミダコ標本を展示
平成30年12月 1日 (土)	富山新聞	サツオミシマ展示	平成31年 2月18日 (日)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ババガレイ
平成30年12月 4日 (火)	富山新聞	大型ブリ補充	平成31年 2月19日 (月)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ヤマトコブシカジカ
平成30年12月 4日 (火)	北日本新聞	富山湾大水槽にブリ	平成31年 2月20日 (火)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ガンコ
平成30年12月 4日 (火)	北日本新聞	珍魚サツオミシマ展示	平成31年 2月21日 (水)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ホッケ
平成30年12月11日 (火)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ブリ	平成31年 2月21日 (水)	北日本新聞	県と連携深海魚調査
平成30年12月11日 (火)	北日本新聞	ブリ1歳までの呼び名様々	平成31年 2月22日 (金)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 アカザ
平成30年12月13日 (木)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ヒトデ	平成31年 2月23日 (土)	読売新聞	アカナマダ展示
平成30年12月14日 (金)	読売新聞	いきもの日誌 ブリ	平成31年 2月23日 (土)	北日本新聞	アカナマダ展示
平成30年12月14日 (金)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 マダラ	平成31年 2月23日 (土)	北陸中日新聞	富山湾にアカナマダ
平成30年12月15日 (土)	北陸中日新聞	サツオミシマ初展示	平成31年 2月23日 (土)	富山新聞	富山湾にまた深海魚
平成30年12月18日 (火)	北陸中日新聞	大水槽に漁網設置、ブリ赤点効果	平成31年 2月27日 (水)	読売新聞	リュウグウノツカイ泳ぐ姿
平成30年12月21日 (金)	北陸中日新聞	イシガキフグ展示	平成31年 2月27日 (水)	富山新聞	リュウグウノツカイ生きたまま一時展示
平成30年12月21日 (金)	富山新聞	イシガキフグ24年ぶり展示	平成31年 2月27日 (水)	北陸中日新聞	リュウグウノツカイ初の生体展示
平成30年12月21日 (金)	北日本新聞	珍客イシガキフグ	平成31年 2月27日 (水)	北日本新聞	生きたリュウグウノツカイ初展示
平成30年12月21日 (金)	北陸中日新聞	定置網にイシガキフグ	平成31年 3月 8日 (金)	富山新聞	サンゴ礁水槽22新品種
平成30年12月23日 (日)	北日本新聞	自分だけの缶バッジ作り	平成31年 3月 8日 (金)	北陸中日新聞	サンゴ礁水槽新調
平成30年12月26日 (水)	北陸中日新聞	富山湾から魚津水族館に深海魚3種	平成31年 3月 8日 (金)	読売新聞	いきもの日誌 リュウグウノツカイ
平成30年12月29日 (土)	富山新聞	滑川高生大水槽磨く	平成31年 3月12日 (火)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ヤマアカガエル
平成30年12月29日 (土)	北日本新聞	大水槽汚れすっきり	平成31年 3月15日 (金)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 イワナ
平成30年12月29日 (土)	北陸中日新聞	大水槽煤払い	平成31年 3月16日 (土)	北陸中日新聞	ホタルイカ産卵観察
平成31年 1月 8日 (火)	読売新聞	イシガキフグ展示	平成31年 3月16日 (土)	北日本新聞	ホタルイカ神秘の産卵
平成31年 1月 8日 (火)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ミズダコ	平成31年 3月16日 (土)	富山新聞	ホタルイカ展示
平成31年 1月 9日 (水)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 ダイオウイカ	平成31年 3月20日 (水)	北日本新聞	アカナマダまた
平成31年 1月 9日 (水)	富山新聞	日本最少のタコ「マメダコ」展示	平成31年 3月20日 (水)	北陸中日新聞	アカナマダ続々
平成31年 1月 9日 (水)	北日本新聞	国内最少「マメダコ」展示	平成31年 3月20日 (水)	富山新聞	アカナマダ展示
平成31年 1月 9日 (水)	北陸中日新聞	日本最少「マメダコ」展示	平成31年 3月21日 (木)	北陸中日新聞	企画展「カニカニクラブ」
平成31年 1月10日 (木)	北日本新聞	とやまいろいろ図鑑 トヤマエビ	平成31年 3月26日 (火)	北陸中日新聞	シロウ4年ぶり展示
平成31年 1月11日 (金)	北陸中日新聞	ムラサキダコ初展示	平成31年 3月27日 (水)	北日本新聞	深海魚シロウ展示
平成31年 1月11日 (金)	北日本新聞	水槽でムラサキダコ捕獲			

## 14. トピックス

名称（場所）	内 容	開 催 日
親子展～富山のトンボ・ヤゴ編～ワークショップ 超リアルガチ！バランストンボを作ろう	企画展「親子展～富山のトンボ・ヤゴ編～」に関連したワークショップとして、トンボの形をした「やじろべえ」を作る。トンボの標本や写真を見ながら着色して、リアルなバランストンボを作製した。 100 個限定	平成 30 年 4 月 7 日 (土)、8 日 (日) 10:00～12:00、 13:00～15:00 参加人数：100 名
オオグチボヤの展示	大型のオオグチボヤが刺網で捕獲され、状態が良かったことから展示した。 (全長：入水孔を閉じた状態で 15cm)	平成 30 年 4 月 13 日 (金)～5 月 6 日 (日)
第 1 回「魚津水族館の人気モノ」投票 共 催 大人の遊び、33 の富山旅 Beautiful Life	飼育員が厳選した個性豊かな生きもの 10 種がノミネート。来館者は 1 日 1 回、館内に設置されたボードからお気に入りの生きものを選び、シールを貼つて投票。 結果 投票総数 3,178 票 ゴマフアザラシ (757 票) フンボルトペンギン (468 票) カメレオン (387 票) カクレクマノミ (370 票) アオウミガメ (298 票) ミズダコ (254 票) ブリ (220 票) トノサマガエル (211 票) カジカ (112 票) マツカサウオ (101 票)	平成 30 年 4 月 28 日 (土)～5 月 6 日 (日) 結果は 5 月 19 日 (土) より館内、HP 等で発表
シャシチブリの標本展示	平成 28 年以来 2 年ぶりに捕獲された。綺麗な状態であったためホルマリン標本で展示した 捕 獲 日：平成 30 年 4 月 23 日 (月) 場 所：富山湾 水深約 200m 捕 獲 者：幸洋丸 (刺網漁) 寄 贈 者：生地魚市商業協同組合 全 長：842 mm	平成 30 年 5 月 2 日 (水)
イクメン昆虫 コオイムシ展示！	オスが卵を背中に乗せて世話をするユニークな習性をもつコオイムシを展示。また、富山県では絶滅危惧種に指定されていることを紹介。平成 29 年に採集した個体が安定的に繁殖しているため展示を開始。魚津水族館での展示は 11 年ぶり。	平成 30 年 4 月 27 日 (金)

魚津で誕生した金魚「福ダルマ」と写真を撮ろう！	魚津で品種改良され誕生した金魚「福ダルマ」を10年ぶりに展示した。展示は全長5cm程の1歳魚で丸型の水槽内で泳ぐかわいい福ダルマの写真が撮れるコーナーとした。	平成30年6月14日（木）
5年ぶりの繁殖！フンボルトペンギン	平成29年に長野県須坂市動物園から媚入りしたテッテがペアとなり2月に産卵、3月26日に孵化した。飼育個体の高齢化や血統管理のため、繁殖制限をしており、今回の繁殖は5年振りとなった。	誕生：平成30年3月26日（月） 公開：平成30年6月中旬
ライブペイント—富山湾大水槽に絵を描こう！—	うおすいサポーターでイラストレーターのシヲリさんによるライブペイントを行った。 富山湾大水槽のアクリル面に透明シート（幅2400mm×高1800mm）を貼り付け、絵の具やポスカで絵を描き、富山湾大水槽の魚たちとコラボレーションしたアート作品を制作した。また、来館者の子どもたちも無料で参加して生き物を描いた。	平成30年7月28日（土）、29日（日） 10:00～12:00、 13:00～15:00
実演！チェーンソーアート☆巨大ガマガエルに挑戦！	入善町出身のプロカーバー折谷孝良氏によるチェーンソーアートカービングの実演を行った。夏の企画展『水・陸・樹のカエル展』の記念写真コーナー用に、ガマガエル（ヒキガエル）をモチーフにした作品制作に挑戦。 場所：魚津水族館横 魚津総合公園 あじさい園横 觀覧無料	平成30年7月8日（日） 10:00～15:00
「紙アクアリウム」泳げ！ぼくらがかいたさかな！	夏休み向けイベントとして、自分で描いた絵が泳ぎだすリコー「紙アクアリウム」を富山湾大水槽のアクリル面で映写した。水中トンネルから見ると、自分が描いた絵がブリやアカエイたちと一緒に泳いでいるような光景が見られる。 開催場所：2階 富山湾大水槽 参加費：1回100円 午前10:00～午後14:30～	平成30年7月14日～8月12日は土曜、日曜、祝日に開催 お盆期間8月13日～8月16日は毎日開催 参加人数：1728名
ろーにーさんの似顔絵&ねんど教室	魚津市出身の「ろーにーさん」こと水野紗綾さんによる似顔絵イベントを開催。また、今回は魚を見ながらリアルに作る「ねんど教室」も行った。 参加費：似顔絵500円、ねんど教室200円	平成30年7月15日（日）、16日（祝） 参加人数 似顔絵38名 ねんど47名

うすいワークシ ョップ おりがみで ピョンピョンガエ ルを作つて遊ぼ う！	夏の企画展、「水・陸・樹のカエル展」の関連ワー クショップとして、カエルのおりがみで遊ぶイベ ントを開催。ジャンプできるカエルのおりがみを 作成して、思い思いに着色したオリジナルのカエ ルを使って遊んだほか、草間飼育員による楽しい カエルの解説を行つた。 参加費：無料	月 21 日（土）、22 日（日） 10：00～12：00、 13：00～15：00 カエルの解説 10：40～ 14：50～ (各 10 分程度)
うすいワークシ ョップ 石ころ Painting !	材料の石は5月 27 日にうすいサポーターと一緒に 朝日町宮崎地区のヒスイ海岸で拾い集めたもの を用いた。ペイントにはマジックペンを使い、小 さなお子様でも参加可能なものとした。 参加費：200 円	平成 30 年 8 月 4 日 (土)、5 日（日） 10：00～12：00、 13：00～15：00 参加人数：66 名
うすいワークシ ョップ オリジナル缶バッ ジを作ろう！	魚津水族館の生き物をモチーフにした缶バッジ作 りが体験できるワークショップ。バッジの絵はす べて飼育員が描いた線画で、自分で着色してオリ ジナルの缶バッジが作れる。 参加費：200 円	平成 30 年 8 月 11 日（土）～8 月 16 日（木） 10：00～12：00、 13：00～15：00 参加人数：731 名
うすいワークシ ョップ あつまれ！おねん どキッズ！	小麦粉粘土で金魚、ヒトデ、アザラシなど水族館 の仲間たちを作つた。飼育員と一緒に写真や実物 を見ながら作ることで、観察するきっかけとな り、子供たちの生き物への関心を深めた。 参加費：200 円	平成 30 年 9 月 15 日（土）～17 日 (月) 10：00～12：00、 13：00～15：00 参加人数：127 名
うすいワークシ ョップ 貝がらストラップ 作りに挑戦！	うすいサポーターと飼育員が雨晴海岸で拾つた 貝がらに、ペイントしたりビーズを通して、世界 に1つだけのストラップを作つた。 参加費：200 円	平成 30 年 9 月 22 日（土）～24 日 (月) 10：00～12：00、 13：00～15：00 参加人数：115 名
パネルシアター うみのさん太郎	保育園や図書館で人形劇等のボランティア活動を している「おとぎの森」が開催。海の生き物が登 場するオリジナルストーリーで、親子一緒に楽し んだ。 参加費：無料	平成 30 年 9 月 22 日（土）～24 日 (月) 10：30～、 14：00～

第 42 回富山県らんちゅう品評会 主催：富山県らんちゅう会	秋の恒例行事になった富山県らんちゅう品評会が魚津水族館駐車場特設会場で開催。今年も富山県内外の愛好家が丹精込めて育てたらんちゅうが多数出品された。	平成 30 年 10 月 7 日（日） 10:00～15:00
うおすいワークショップ ハロウインの仮面を作ろう！	色画用紙を使ってカボチャやカエルの仮面作りを体験。お手製の仮面をつけて魚たちとかわいいハロウイン記念撮影を行った。 参加費：200 円	平成 30 年 10 月 6～8 日 10:00～12:00、 13:00～15:00 参加人数：86 名
うおすいワークショップ クリスマス限定 オリジナル缶バッジ作り	大人気のうおすい缶バッジに、大サイズ（直径 8 cm）が登場。うおすいサポーターの「まろさん」から、「魚津水族館をもっと盛り上げたい！」という思いから、大型のバッジキットを寄贈していただいた。大型缶バッジイベントの第一弾として、クリスマス限定のオリジナル缶バッジ作りを行った。 参加費：大 500 円、中 300 円	12 月 22 日（土）、23 日（日）、24 日（月） 10:00～12:00、13:00～15:00 参加人数：123 名
新潟市水族館から シロウが仲間入り	新潟市水族館マリンピア日本海で生まれたシロウが、魚津水族館に仲間入り。当館でのシロウの展示は 4 年ぶりとなった。 展示個体：シロウ 10 匹（2016 年 1 月生まれ） 大きさ：全長 15～20 cm 展示場所：2 階 深海生物コーナー 提供：新潟市水族館マリンピア日本海	平成 31 年 3 月 26 日（火）～
☆ 北陸富山 Blue Earth Project ☆ 富山国際大学付属 高校ユネスコ部 プラごみ削減啓発 イベント	「北陸富山 Blue Earth Project」は、富山国際大学付属高校ユネスコ部による環境保全啓発活動。高校生が主体で、生物に影響を与えるプラスチックごみの中からレジ袋にスポットをあてて、レジ袋削減のためのオリジナルエコバッグを作るワークショップを行った。また、プラスチックごみ問題について体験しながら学べるクイズラリーや劇も行った。	3 月 31 日（日） 10:00～16:00 開催場所：うおすい ファミリウム（ワークショップ、劇）
サンゴ礁コーナー の 2 つの水槽 リノベーション	老朽化に伴い 2 つの水槽を入れ替えると同時に、多様な生物が見られる「サンゴ礁の浅海から波打ち際まで」をキーワードに改修。新水槽では、浅海で光合成をするヒメシャコや、波打ち際の陸地で過ごすトビハゼなど 22 種 60 点を展示。	平成 31 年 3 月 7 日（木）～常設展示

## 15. 修 繕・工 事

### 〈湧水槽排水ポンプNo.1取替工事〉

平成19年に更新した湧水槽排水ポンプNo.1が、経年劣化により故障したため更新した。

[請負金額] 3,002,400円

[請負者] 株式会社山澤

[工 期] 平成30年11月28日～平成31年3月15日

### 〈動力トランス取替工事〉

動力トランスNo.2が、経年劣化により絶縁不良となるおそれがあるため更新した。

[請負金額] 1,296,000円

[請負者] 日本海電業株式会社

[工 期] 平成30年12月20日～平成31年2月18日

### 〈深海水槽濾過槽更新工事〉

深海水槽濾過槽は、開館当初より一度も濾材の更新をしていないため、濾材の更新、濾過槽の防水塗装を行った。

[請負金額] 1,890,000円

[請負者] 朝野工業株式会社

[工 期] 平成30年12月26日～平成31年2月12日

### 〈サンゴ水槽廻り改修工事〉

サンゴ魚類水槽No.3、No.4が、経年劣化により破損するおそれがあるため、水槽の撤去、水槽廻り壁の補修、配管工事を行った。

[請負金額] 1,674,000円

[請負者] 朝野工業株式会社

[工 期] 平成30年12月26日～平成31年3月4日

### 〈サンゴ水槽レイアウト工事〉

サンゴ魚類水槽No.3、No.4が、経年劣化により破損するおそれがあるため、新たにアクリル水槽を作成し設置した。

[請負金額] 756,000円

[請負者] 朝野工業株式会社

[工 期] 平成31年1月15日～平成31年2月18日

### 〈サンゴ水槽廻り照明工事〉

サンゴ魚類水槽No.3、No.4の照明が、経年劣化により不具合が生じたため更新した。

[請負金額] 1,080,000円

[請負者] 朝野工業株式会社

[工 期] 平成31年1月8日～平成31年3月4日

### 〈滝系統ポンプ取替工事〉

平成13年に更新した滝系統ポンプが、経年劣化により不具合が生じたため更新した。

[請負金額] 550,800円

[請負者] ユウホ一設備株式会社

[工 期] 平成31年1月18日～平成31年3月31日

### 〈アマモ場コーナー改修工事〉

アマモ円柱水槽が、経年劣化により破損するおそれがあるため、水槽を撤去し、アマモ水槽を移設した。併せて冷水クーラーの更新、床塗装補修、配管工事を行った。

[請負金額] 1,296,000円

[請負者] 朝野工業株式会社

[工 期] 平成31年2月1日～平成31年2月28日

## 魚津水族博物館年報 第29号

ANNUAL REPORT OF AQUARIUM No.29

2020年8月 編集

## 編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <http://uozu-aquarium.jp>

E-mail [suizoku@city.uozu.toyama.jp](mailto:suizoku@city.uozu.toyama.jp)

ISSN 2434-1843

# ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM

No. 29

2018/2019

UOZU AQUARIUM

AUGUST. 2020